

**2020年オリンピック・パラリンピック東京大会
を通じた地域活性化についての調査研究**

報告書

平成31年3月

総務省地域力創造グループ地域振興室

目 次

I. 本調査研究の概要	1
1. 目的と趣旨	1
2. 調査研究の対象と手法	1
(1) 調査研究の対象	1
(2) 調査研究の手法	1
II. 東京大会を契機とした地域活性化に取り組む地方公共団体の現状と課題の分析	3
1. 飯塚市の現状と課題	3
(1) 飯塚市の概況	3
(2) 飯塚国際車いすテニス大会の現状と課題	10
2. 延岡市の現状と課題	16
(1) 延岡市の概況	16
(2) スポーツ合宿やスポーツ大会受け入れの現状と課題	23
III. 国際スポーツ大会やホストタウンについてのアンケート調査	29
1. パラリンピック競技についてのアンケート調査	29
(1) 調査概要	29
(2) 回答者属性	29
(3) 集計結果	31
(4) 集計結果まとめ	42
2. ホストタウンについてのアンケート調査	43
(1) 調査概要	43
(2) 回答者属性	43
(3) 集計結果	46
(4) 集計結果まとめ	60
IV. 対象団体における、東京大会を契機とした観光・交流人口の拡大方策の検討	61
1. 飯塚市における観光・交流人口拡大方策の検討	61
(1) 課題と観光・交流人口拡大の方向性	61
(2) 展開方策	63
2. 延岡市における観光・交流人口拡大方策の検討	66
(1) 課題と観光・交流人口拡大の方向性	66
(2) 展開方策	68
V. 国際スポーツ大会などの開催を通じた観光・交流人口拡大方策の提示	71

I. 本調査研究の概要

1. 目的と趣旨

2020年にオリンピック・パラリンピック東京大会（以下「東京大会」という。）が開催され、国内外からの多くのビジターの流入による交流人口の増加、経済効果等の波及効果が見込まれている。

総務省においては、2015年度～2017年度の調査研究により、過去の国際スポーツ大会におけるビジター受入体制の構築手法や地域に残ったレガシーについての調査研究を行ったところである。

2018年度においては、本調査研究が東京大会の意義をさらに高め、国内におけるオリンピック・パラリンピック・ムーブメントの一層の促進に寄与するものとなるよう、東京大会のホストタウン等における効果的な地域活性化の取組について調査分析を行い、全国の地方自治体における国際スポーツ大会を通じた地域活性化の有効な手法を提示することを目的として調査研究を実施するものである。

※ 本調査研究における「地域活性化の取組」…

地方公共団体が取り組む、または今後取り組もうとする東京大会を契機とした住民の機運醸成や相手国・地域との文化、経済交流といった幅広い取組をいう。

2. 調査研究の対象と手法

(1) 調査研究の対象

本調査研究では、地域活性化の取組を進めるにあたり、本調査研究による分析を希望した以下の2団体を対象として、調査研究を行った。

- ・福岡県飯塚市 ホストタウン相手国：南アフリカ
- ・宮崎県延岡市 ホストタウン相手国：ドイツ（宮崎県、宮崎市、小林市との連名）

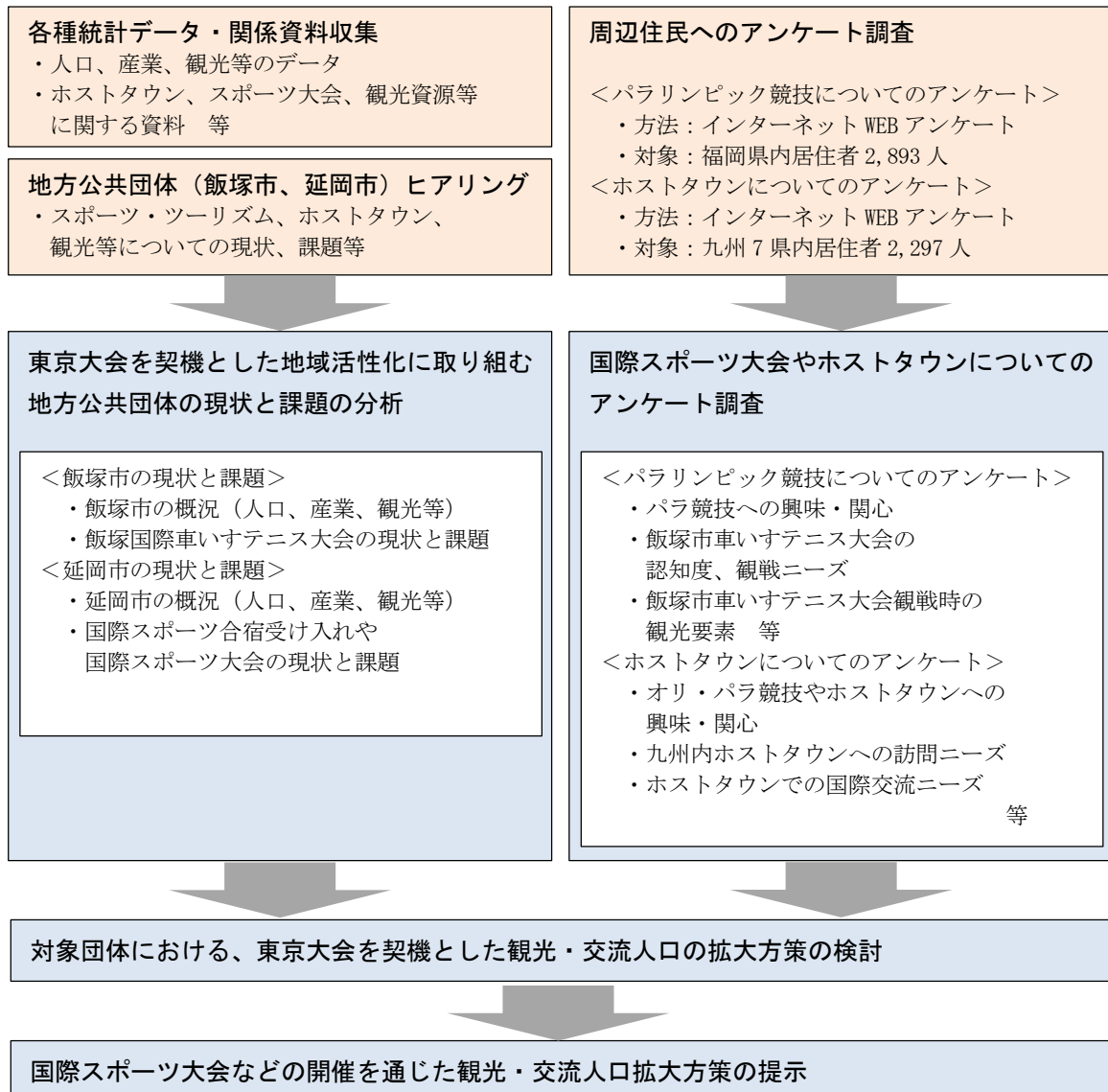
(2) 調査研究の手法

① 概要

本調査研究では、対象団体における観光施設等を活用した誘客促進等の取組について、各種統計データや関係資料収集及び地方公共団体へのヒアリング調査等によってその現状・課題を把握するとともに、周辺住民へのアンケート調査によって、ホストタウンや国際スポーツ大会を契機とした誘客の条件や可能性等について分析を行った。そして、これらの分析結果を踏まえ、対象団体における観光・交流人口の拡大方策等について検討を行った。

また、分析・検討結果を踏まえ、全国の地方公共団体において、国際スポーツ大会などの開催を通じた観光・交流人口の拡大を図ろうとする際の効果的な取組や手法等について提示した。

② 調査研究のフロー



II. 東京大会を契機とした地域活性化に取り組む地方公共団体の現状と課題の分析

1. 飯塚市の現状と課題

(1) 飯塚市の概況

① 地域の概況

i) 位置・地勢

飯塚市は、福岡県のほぼ中央に位置し、東は田川市を中心とする田川圏域に、西は福岡市を中心とする福岡都市圏に、南は嘉麻市に、北は直方市を中心とする直方・鞍手圏域にそれぞれ接している。

2006年に(旧)飯塚市、穂波町、筑穂町、庄内町、潁田町が合併し、現在の市域となっている。

福岡県央地域の中心都市であり、古くは長崎街道の宿場町として、その後は筑豊炭田の中心地として栄えてきた。現在は、市内に3つの大学を有するなど、文化性・創造性を備えた情報産業都市、学園都市として位置づけられている。

市内には、主要幹線道として一般国道200号、201号、211号が通じ、JRは篠栗線、筑豊本線、後藤寺線が走っている。JR利用で、福岡市博多駅までは40分以内、北九州市小倉駅までは60分以内であり、福岡市、北九州市とも通勤・通学圏内になっている。

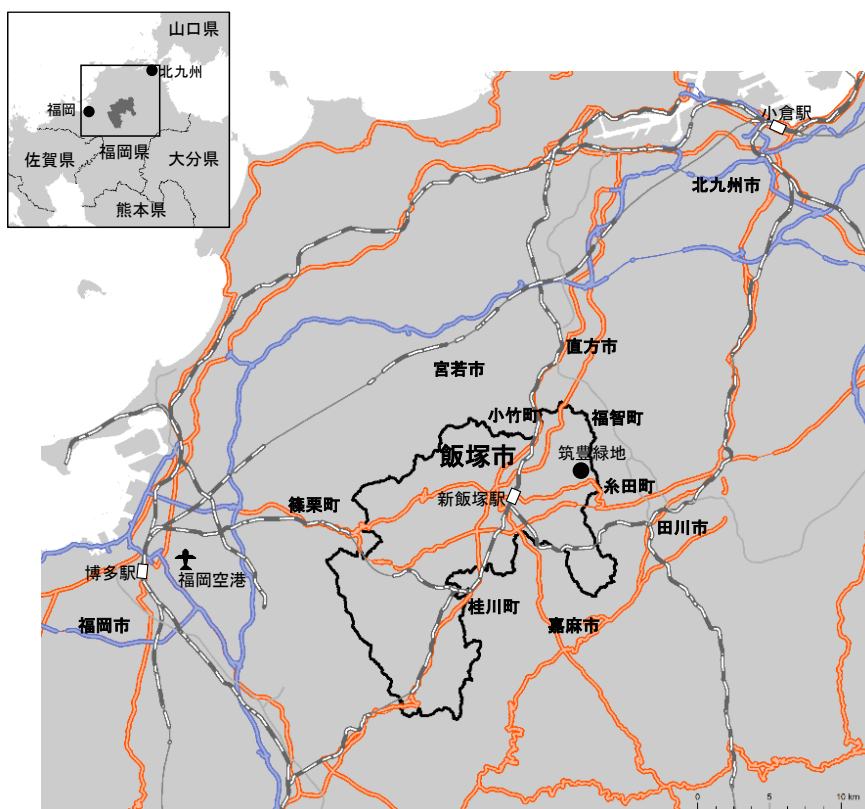


図 II-1 飯塚市の位置

ii)人口

2015年国勢調査による総人口は129,146人で、1995年以降、減少傾向が続いている。

表 II-1 飯塚市の人口推移

区分	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年
総人口	138,825	139,663	140,463	136,701	133,357	131,492	129,146
年少人口	29,340	26,143	22,487	19,200	17,335	16,856	16,338
生産年齢人口	91,046	92,145	93,118	89,942	85,759	81,768	74,512
老年人口	18,439	21,137	24,627	27,520	30,213	32,755	37,210
(年少人口比率)	21.1%	18.7%	16.0%	14.0%	13.0%	12.8%	12.7%
(生産年齢人口比率)	65.6%	66.0%	66.3%	65.8%	64.3%	62.2%	57.7%
(老年人口比率)	13.3%	15.1%	17.5%	20.1%	22.7%	24.9%	28.8%

出典：総務省「国勢調査」(各年)

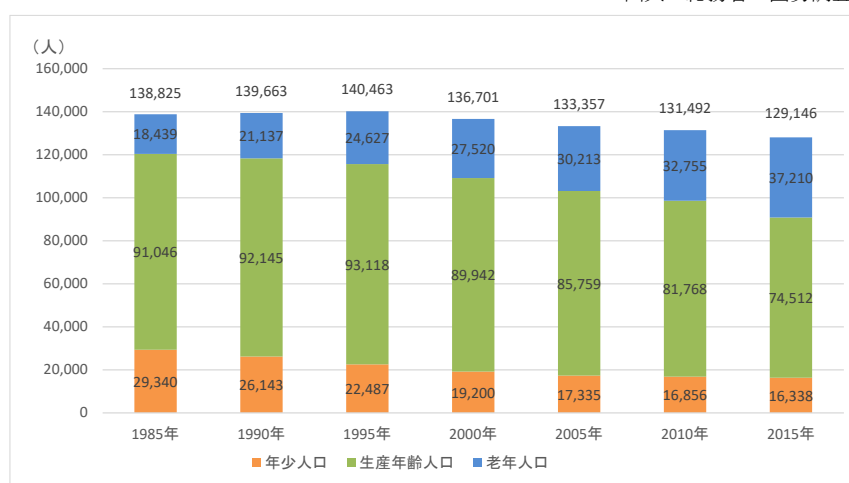


図 II-2 飯塚市の人口推移

出典：総務省「国勢調査」(各年)

iii)産業構造

産業大分類別の就業者数をみると、全国や福岡県と比較して、医療・福祉の割合が高い。

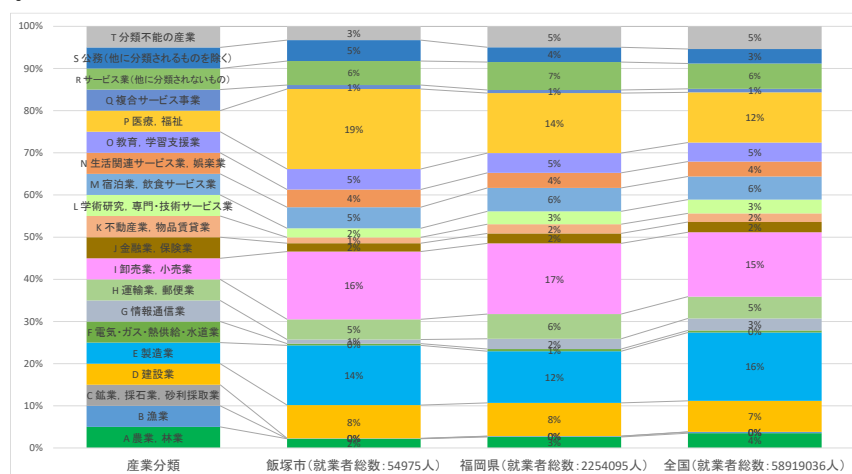


図 II-3 飯塚市の産業大分類別就業者数割合

出典：総務省「国勢調査」(2015年)

② 観光の概況

飯塚市の2017年の観光入込客数は1,848千人で、2014年以降減少傾向となっている。月別の動向をみると、3月、8月、11月にピークがある。

目的別にみると、スポーツ・レクリエーションが全体の半数近くを占めている。

i) 観光入込客数

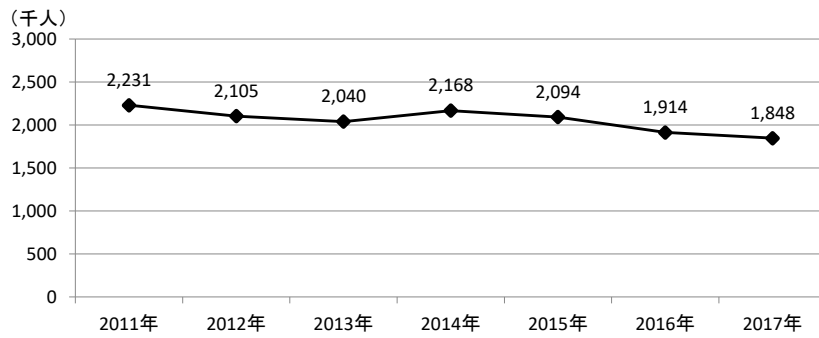


図 II-4 飯塚市の観光入込客数の推移

出典：福岡県「福岡県観光入込客推計調査」(各年)

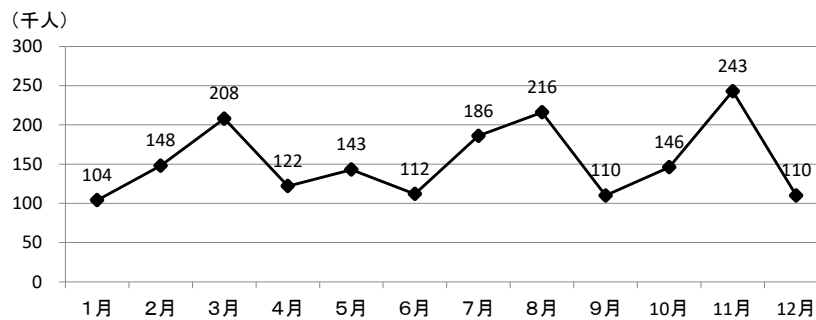


図 II-5 飯塚市の月別観光入込客数の推移

出典：福岡県「福岡県観光入込客推計調査」(2017年)

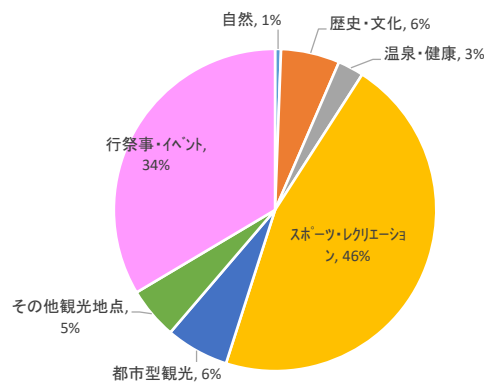


図 II-6 飯塚市の観光入込客数の目的別割合

出典：福岡県「福岡県観光入込客推計調査」(2017年)

i) 観光産業の状況（宿泊業、飲食業の労働生産性）

飯塚市の2016年の宿泊業、飲食業の労働生産性（従業者ひとりあたり付加価値額）は、いずれも2012年と比較して上昇しているが、全国平均、福岡県平均と比べると低い水準となっている。

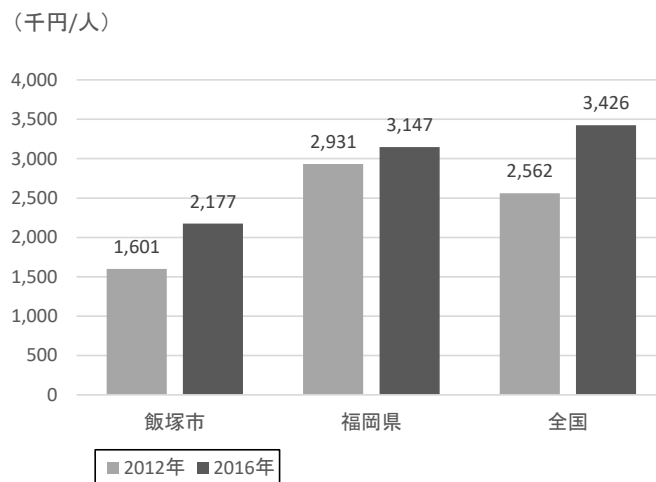


図 II-7 飯塚市の宿泊業の労働生産性

出典：総務省「経済センサス - 活動調査」(各年)より作成

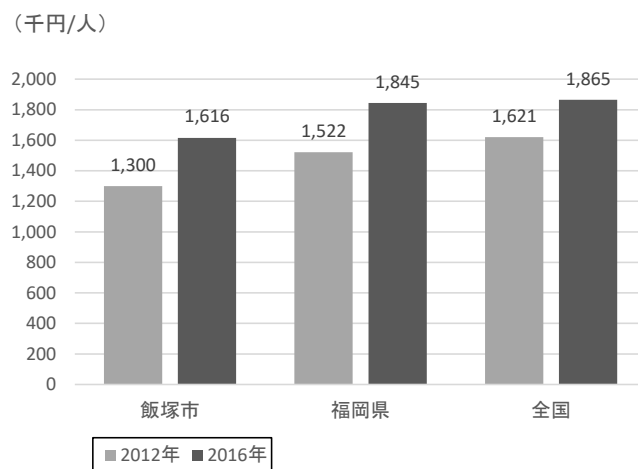


図 II-8 飯塚市の飲食業の労働生産性

出典：総務省「経済センサス - 活動調査」(各年)より作成

i) 観光資源

飯塚市には、長崎街道沿いの旧伊藤伝右衛門邸、飯塚宿、内野宿など、歴史的な観光資源が数多く存在している。市街地内には、炭鉱労働者の娯楽場として開場した嘉穂劇場があり、現在も公演が行われている。

食としては、炭鉱の食文化のひとつであるホルモン（とんちゃん）料理のほか、千鳥屋本家、ひよ子、さかえ屋などの銘菓がある。



図 II-9 飯塚市観光マップ

出典：飯塚市観光パンフレット

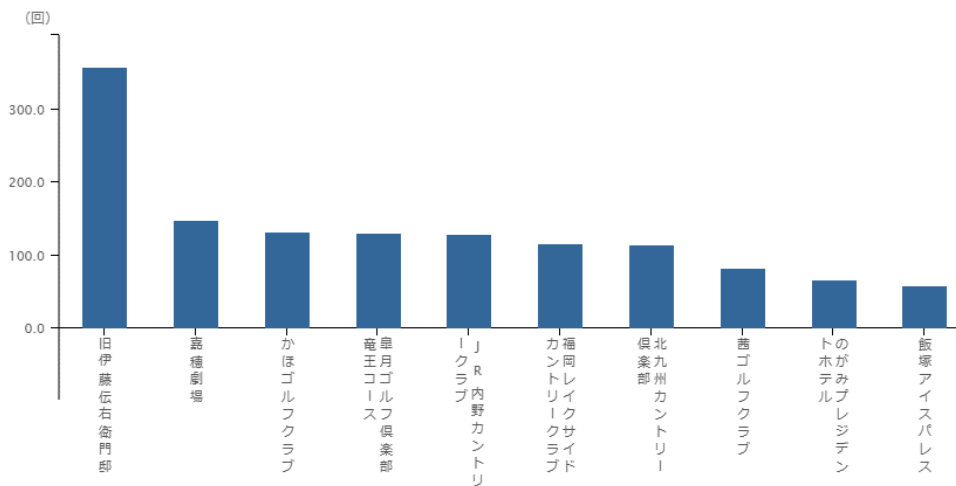


図 II-10 飯塚市内の目的地検索数 (2017年・休日・自動車)

出典：地域経済分析システム (RESAS) 観光マップ

表 II-2 飯塚市内の月別・主要観光資源別入込客数 (2017年) (単位：千人)

分類	内訳	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
①自然		0	0	0	0	0	0	2	3	2	3	1	0	11
	登山客(竜王山)(推計)	0	0	0	0	0	0	2	3	0	1	0	0	6
	フルーツ狩り(推計)	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	1	0	5
②歴史・文化		2	17	21	12	12	5	4	3	5	6	19	3	109
	旧伊藤伝右衛門邸	2	13	16	5	8	4	2	2	3	4	9	2	70
	嘉穂劇場	0	3	4	7	4	1	2	1	2	2	4	1	31
	飯塚市歴史資料館	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0	5
	内野宿	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3
③温泉・健康		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
④スポーツ・レクリエーション		4	4	5	4	4	4	4	3	4	4	4	4	48
	ゴルフ場	68	54	72	70	86	68	75	72	64	68	78	72	847
	庄内温泉筑豊ハイツ	13	9	18	18	24	18	18	19	19	18	24	19	217
	サンビレッジ茜	7	6	8	8	10	7	7	10	7	9	10	8	97
⑤都市型観光	飯塚オートレース	1	2	1	1	4	2	3	5	2	4	3	1	29
		47	37	45	43	48	41	47	38	36	37	41	44	504
⑥その他(宿泊施設等)		7	7	10	14	11	9	9	11	11	10	10	8	117
⑦行祭事・イベント		6	7	9	7	8	6	9	11	8	8	9	8	96
		17	59	91	15	22	20	83	113	16	47	122	15	620
	車いすテニス大会	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	3
	飯塚山笠・子ども山笠	0	0	0	0	0	0	52	0	0	0	0	0	52
	飯塚納涼花火大会	0	0	0	0	0	0	0	100	0	0	0	0	100
	筑前の國いづか街道まつり	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	0	0	20
	産業まつり	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100	0	100
	筑前いづか灘のまつり	0	42	42	0	0	0	0	0	0	0	0	0	84
	大将陣桜まつり	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20
	コスモスコモン	17	17	29	15	19	20	31	13	16	27	22	15	241
合計		104	148	208	122	143	112	186	216	110	146	243	110	1,848

出典：飯塚市資料より作成

③ ホストタウンとしての取組

i) 相手国

飯塚市は、東京大会における南アフリカ共和国車いすテニス及び水泳選手団の事前キャンプ地となっている（2018年7月に基本合意書調印）。

ii) 共生社会ホストタウン

飯塚市は、国が東京大会を契機に、共生社会の実現を推進するために新設した「共生社会ホストタウン」に登録されている。

※ 共生社会ホストタウン…

パラリンピアンとの交流などをきっかけに、共生社会の実現に向け、ユニバーサルデザインの街づくりと心のバリアフリーに取り組むホストタウン。

現在日本全国で14自治体が登録されている。


飯塚市の共生社会ホストタウン 活動計画

アジア最高峰の車いすテニスの大会「飯塚国際車いすテニス大会*」

1985年から続く本大会を、2000名超のボランティアを中心に市全体で盛り上げてきた「イツカ方式*2」の経験と精神を基盤として、共生社会の実現を目指す。

*飯塚国際車いすテニス大会(1985～)
世界4大大会に次ぐグレードの大会“JAPAN OPEN”として開催され、世界中からトップクラスの選手が参加。
男子シングルス及び女子シングルス優勝者にそれぞれ天皇杯・皇后杯が贈られる。

*2 イツカ方式
大会期間中の輸送やボールパーソン、通訳等をすべて民間企業、自衛隊、学生、市民等のボランティアが運営しており、世界から高く評価されている。



目指すべき
共生社会の姿

○市全体が、自然と障がいがある方への手伝いができるまちへ
○障がいがある方も安心して生活できるまちへ

ユニバーサルデザインの街づくり	心のバリアフリー
<ul style="list-style-type: none"> ◆障がいがある方もない方も楽しめるスポーツ施設の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者視線を取り入れたテニスコートの観客スタンドを設置 ・高齢者や障がい者スポーツにも対応できる新体育館の建設 ◆ユニバーサルツーリズムの推進 <ul style="list-style-type: none"> ・車いすテニス大会の会場でもあるスポーツ施設が併設する公共宿泊施設のバリアフリー化 ・民間宿泊施設にバリアフリー化を推奨 ◆誰もが住みやすさを実感できるまちへ <ul style="list-style-type: none"> ・市主要駅前に多目的トイレや音声案内板を設置 ・中心市街地の歩道の段差解消や点字ブロックの整備 ・市内バリアフリー情報の集約および発信 	<ul style="list-style-type: none"> ◆イツカ方式の担い手の継承 <ul style="list-style-type: none"> ・車いすテニス大会を継続開催し、さらに発展させるため、次世代のボランティア担い手を育成 ◆パラスポーツの普及促進・パラリンピアンとの交流 <ul style="list-style-type: none"> ・パラスポーツ（車いすテニス、ゴールボール等）体験の実施 ・日本人パラリンピアンと市民との交流 ・南アフリカ共和国のパラスポーツ（車いすテニス競技・水泳競技）の合宿受入及び市民との交流 ◆市民啓発活動 <ul style="list-style-type: none"> ・自治会等や民間企業に対し、障がい者への合理的配慮などをテーマとした研修やイベントの実施 ・手話奉仕員養成講座の実施

出典：飯塚市共生社会ホストタウン活動計画

iii) ホストタウンとしての交流事業等

< ボッチャ体験会・競技用車いす体験会 >

2018年の第34回飯塚国際車いすテニス大会開催に合わせ、筑豊緑地公園のエントランス駐車場広場にて、ボッチャ体験会・競技用車いす体験会を実施している。

(2) 飯塚国際車いすテニス大会の現状と課題

飯塚市では、毎年、庄内温泉筑豊ハイツ及び福岡県筑豊緑地内のテニスコートで、JAPAN OPEN-飯塚国際車いすテニス大会が開催されている。

この大会は、1985年に九州車いすテニスクラブと地元・飯塚ロータリークラブの主催により、第1回大会が開催され、1990年の第6回大会からは世界ランキング認定大会に指定されている。さらに、2004年の第20回大会からはスーパーシリーズに格上げされ、現在では世界6大大会のひとつとなっている。

アジアでは最高峰の国際車いすテニス大会で、世界ランキング認定大会に指定されていることから、高いポイントを獲得するため、毎年世界約15か国から100名程のトッププレイヤーが参戦している。

2018年の第34回大会では、障がい者スポーツ初となる「天皇杯・皇后杯」が下賜されている。

① 大会概要（2019年大会）

大会名	天皇陛下御在位三十年記念 天皇杯・皇后杯 第35回飯塚国際車いすテニス大会（Japan Open 2019）
カテゴリー	UNIQLO 車いすテニスツアー（ITF・スーパーシリーズ）
会期	2019年4月23日（火）～4月28日（日） 6日間
目的	この大会は、車いすテニスを通じ、日本国内及び海外の車いすテニスプレイヤーが交流を深め、更には車いすスポーツが健全なスポーツ競技として普及・認知されることを目的とする。
主催	一般社団法人日本車いすテニス協会（JWTA）・特定非営利活動法人九州車いすテニス協会（KWTA）
公認	国際テニス連盟（ITF）・公益財団法人日本テニス協会（JTA）
会場	

出典：JAPAN OPEN-飯塚国際車いすテニス大会ホームページ (<https://japanopen-tennis.com/>)

② 大会会場

i) 庄内温泉筑豊ハイツ

庄内温泉筑豊ハイツ（以下「筑豊ハイツ」という。）は、もともと旧雇用促進事業団による地域勤労者・家族及び地域住民の福祉施設として利用されてきた施設である。その後、2003年度に旧庄内町へ売却され、2006年の合併時に飯塚市の施設となって現在に至っている。

筑豊ハイツは、一般宿泊客のみならず、附属テニスコートや隣接する福岡県営筑豊緑地等のスポーツ施設を利用したスポーツ合宿等の際には、地域内外から多くの人々が訪れている。

また、毎年、同施設を中心として「飯塚国際車いすテニス大会」が開催され、世界のトップレベルの選手が訪れているほか、ナショナルトレーニングセンター競技別強化拠点施設としてスポーツ庁から指定されており、車いすテニス JAPAN ナショナルチームの選手が、年に6回程度合宿を行っている。

さらに、東京大会においては、南アフリカの車いすテニス競技事前キャンプ地として利用されることとなっている。

なお、筑豊ハイツは建築から40年以上が経過し、老朽化や耐震の問題を抱えていることや、施設がバリアフリーや利用者ニーズへの対応が十分にできていない状況にあることから、2020年4月を竣工予定として再整備が進められている。

施設概要



天然温泉 「庄内(しょうない)温泉」

大浴槽に加えジャグジー、サウナ、水風呂等設備も充実。ゆったりとした時間が一日の疲れを癒してくれます。天然温泉は、疲労回復に効き目がありスポーツの後の入浴は快適です。






温泉大浴場



ジャグジー



サウナ

泉質	単純弱放射能冷鉱泉	
効能	神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、運動麻痺、腰痛のこわばり、うちみ、くじき、慢性消化器病、痔疾、冷え症、病後回復期、疲労回復、健康増進	
日帰り入浴料金	大人	420円 入湯税含む
	子供(児童) (4才～12才)	300円 ただし12才未満の入浴者は課税免除
入浴時間	日帰りのお客様：11時から19時まで ご宿泊のお客様：6時30分～9時まで、11時～23時まで	

様々な施設

セミナー、会議、研修や各種催し物、宴会、パーティ等に幅広くご利用いただけます。AVコントロールシステムも完備し、より一層充実しております。



宴会場

テニスコート

全天候型 屋内テニスコートを所有、テニス合宿にも最適。




全天候型 屋内テニスコート

屋外テニスコート

屋内テニスコート	1面 2時間	1,650円(税込)
屋外テニスコート	1面 2時間	660円(税込)

施設のご案内

客室	ツインルーム(トイレ付) 4室 シングルルーム(トイレ付) 8室 和室(10畳、トイレ付) 12室 合計 24室、収容人数64名
会議研修室	多目的ホール (240名) 大・中・小会議室、研修室、中ホール
レクリエーション施設	全天候型テニスコート 4面 屋外テニスコート 3面
附帯施設	結婚式場・写真・宴会場・レストラン・喫茶 駐車場130台

図 II-11 現在の筑豊ハイツの施設概要

出典：庄内温泉筑豊ハイツホームページ

i) 福岡県営筑豊緑地

福岡県営筑豊緑地（以下、「筑豊緑地」という。）は、筑豊生活圏におけるレクリエーション緑地として、1953年に計画決定された広域公園である。1989年には、建設省（現：国土交通省）により総合的な健康、運動施設整備事業の拠点公園（ウェルネスパーク）として指定されている。

隣接する筑豊ハイツとともに、「飯塚国際車いすテニス大会」をはじめ、インターハイや中体連などさまざまなスポーツの大会に利用されている。

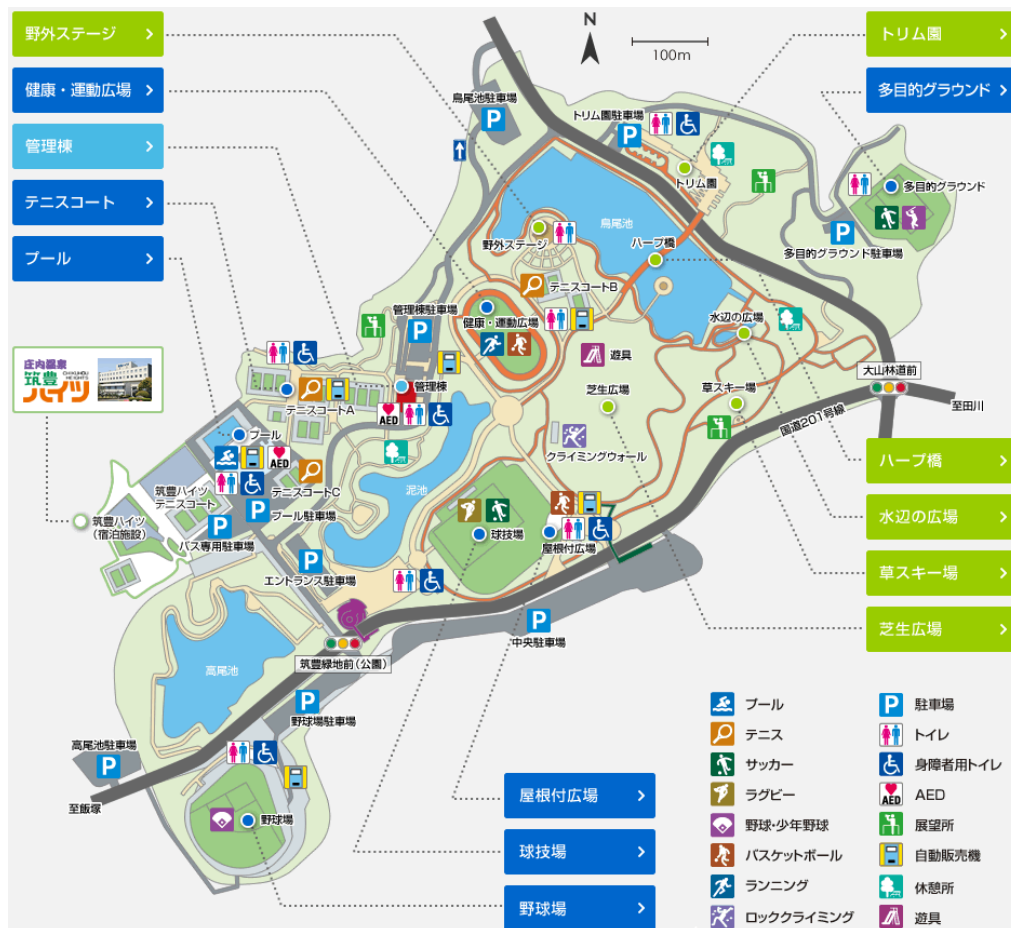


図 II-12 筑豊緑地園内マップ

出典：筑豊緑地ホームページ

③ 参加選手

飯塚国際車いすテニス大会の参加選手数は約 100 人で、国内・国外ほぼ同数の参加となっている。

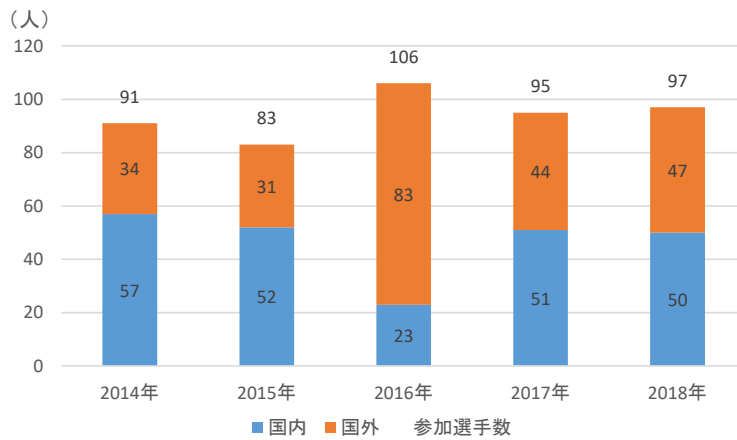


図 II-13 飯塚国際車いすテニス大会の参加選手数

出典：飯塚市資料

④ 観客数

飯塚国際車いすテニス大会の観客数（6日間）は、2016年、2017年は3,000人程度であったが、2018年は6,200人となっており、日本人選手の活躍や天皇杯・皇后杯が下賜されたこと、また東京大会が近づく中で、観客は増えている。

海外からは関係者（選手とコーチ）のみであり、観戦客の多くは市内をはじめ近隣からと思われる。

車いすテニス大会会場への交通手段として、駅からシャトルバス等の確保は行っていない。

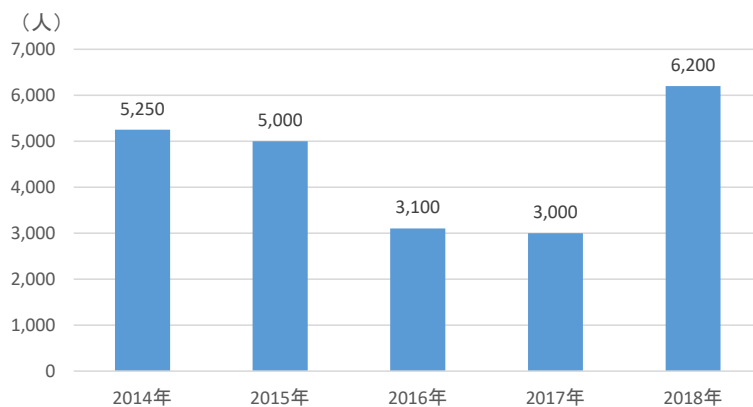


図 II-14 飯塚国際車いすテニス大会の観客数（6日間）

出典：飯塚市資料

⑤ ボランティアによる運営支援

飯塚国際車いすテニス大会では、延べ 2,000 人のボランティアが大会を支えており、地元の大学生などがその中心となっている。

運営にあたっては、8 つの実行委員会をはじめ、会場を花で飾る「飯塚市花いっぱい推進協議会」、福智町での選手との国際交流歓迎会を開催する「福智町実行委員会」など、多くのボランティアが大会を支えている。

こうした、市民ボランティアが支える大会運営は「イイヅカ方式」と呼ばれている。

<8 つの実行委員会>

- ・ 広報・メディア対応の「広報・観客対応委員会」
- ・ 大会期間中のボールパーソンを対応する「競技委員会」
- ・ 選手食事会や、表彰式を対応する「式典委員会」
- ・ 選手の送迎や、大会備品の搬送を対応する「輸送委員会」
- ・ 大会の施設整備を対応する「施設委員会」
- ・ 大会期間中の選手メディカルを対応する「健康管理委員会」
- ・ 外国選手の到着・出発を対応する「総務」(国際担当)
- ・ 通訳を担当する「総務」(通訳担当)

⑥ 飯塚国際車いすテニス大会についての課題認識

調査結果を踏まえ、飯塚国際車いすテニス大会に関する現状や課題認識について、以下のとおり整理した。

i) 市民交流

- ✓ 大会期間中に市内の小学生を対象とした児童観戦による選手との交流を行っているが、市民との交流の場としてイベント等は設けていない。
- ✓ 以前は車いすテニス大会の前夜祭を開催していた。イイヅカコスモスコモン（飯塚市文化会館）で、街の人がラーメン屋を出すなど市民参加型の交流会があった。
- ✓ 大会関係者（選手とコーチ）は、1 週間程滞在するが、車いすで入れない店、会話できないお店もあり、ホテルの中やコンビニで食事を済ませていることが多い。

ii) 観光との連携

- ✓ これまで、大会への回遊のサポートイベントとして、グルメフェスタを開催したが、期待した結果が得られなかった。
- ✓ 商店街において、車いすテニス大会期間中に連動させる催しは行っているが、誘客につなげていない。
- ✓ 市として、車いすテニス大会観戦と観光・グルメなど組み合わせた観戦ツアーなどでの連携が必要であると感じている。
- ✓ 飯塚観光協会において、パンフレットを配布したりしているが、観戦客は地元住民が多いため、観光に行ってみようとなる人は少ないようである。

iii) 今後の観光振興の期待

- ✓ 市としては、何らかの形で人を取り込み、留ませ、大会期間中は車いすテニスと併せて観光施設などを見に行くという観光ルートができれば良いと考えている。
- ✓ なぜ情報発信をしても集客が増えないのかを把握し、打開策を考えていかなければいけない。東京大会以降においても、来訪してもらえるような仕組みづくりを検討することが必要である。
- ✓ スポーツ・ツーリズムを絡めた新規の観光ルートとして、例えば午前中に車いすテニス大会に行き、午後は市内の観光施設に行くというようなルートである。車いすテニス大会を観戦に来る方の年齢層と観光（施設、食事等）、または滞在につながるための状況の把握ができれば、観光地としてのPRに結びつくものと考えられる。
- ✓ 今後の観光振興の方向性として、市としては、インバウンド狙いというよりは、市外からの観光客を増やしたいと考えている。
- ✓ また、市民と大会関係者の交流をより強めることが必要であり、地域として、観光面からも継続的に支えていくことが重要である。
- ✓ 市としては、市外からの集客が増えることで、商店街など民間事業者から、より観光客を喜ばせるための商品・サービスやイベント等の発案や意見が自発的に出てくるようになることを期待している。

2. 延岡市の現状と課題

(1) 延岡市の概況

① 地域の概況

i) 位置・地勢

延岡市は、東九州、宮崎県の北端に位置し、東は日向灘に面し、西は日之影町、南は門川町及び美郷町、北は大分県佐伯市にそれぞれ接している。

2006年に、(旧)延岡市、北方町、北浦町が、2007年に北川町が合併し、現在の市域となっている。

宮崎県北部の中心都市であり、江戸時代には延岡藩の城下町として栄え、その後、近代以降は、旭化成を中心とする工業都市として発展してきている。

市内には、東九州自動車道と接続する延岡道路、延岡南道路が通じ、延岡、延岡南の2つのインターチェンジがある。そのほか主要幹線道として一般国道10号が南北に、218号が日之影、高千穂方面と、326号が豊後大野方面と通じている。JRは日豊本線が走っており、宮崎駅まで特急利用で約1時間、大分駅までは約2時間となっている。



図 II-15 延岡市の位置

ii)人口

2015年国勢調査による総人口は125,159人で、近年は減少傾向が続いている。

表 II-3 延岡市の人口推移

区分	1985年	1990年	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年
総人口	153,835	146,989	141,751	139,176	135,182	131,182	125,159
年少人口	36,443	30,359	25,395	22,250	19,923	18,294	16,510
生産年齢人口	100,480	96,553	91,691	87,214	81,771	77,004	69,376
老年人口	16,912	19,962	24,664	29,700	33,458	35,699	38,904
(年少人口比率)	23.7%	20.7%	17.9%	16.0%	14.7%	13.9%	13.2%
(生産年齢人口比率)	65.3%	65.7%	64.7%	62.7%	60.5%	58.7%	55.4%
(老年人口比率)	11.0%	13.6%	17.4%	21.3%	24.8%	27.2%	31.1%

出典：総務省「国勢調査」(各年)

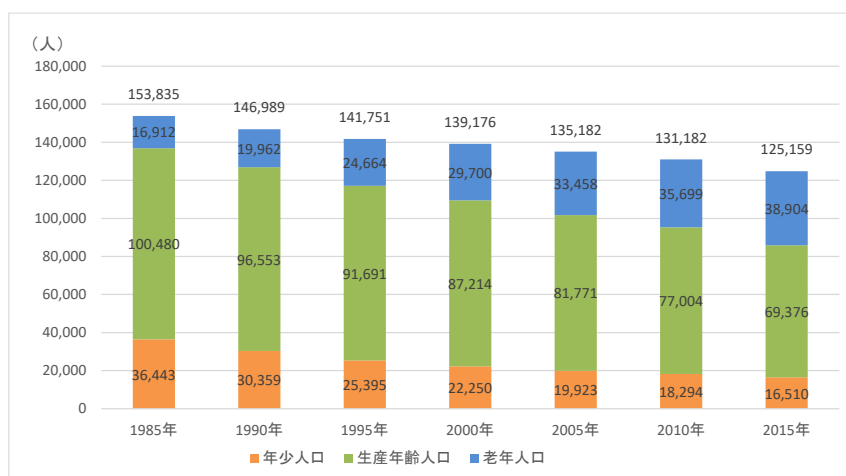


図 II-16 延岡市の人口推移

出典：総務省「国勢調査」(各年)

iii)産業構造

産業大分類別の就業者数をみると、全国や宮崎県と比較して、建設業、医療・福祉の割合がやや高い。

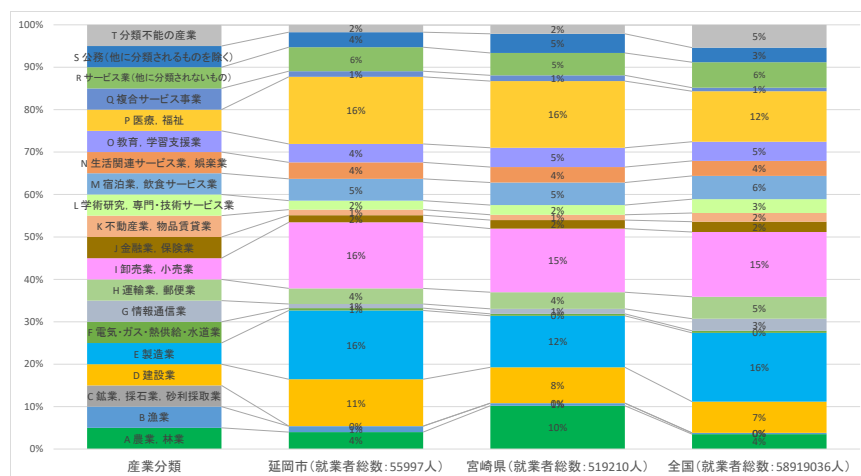


図 II-17 延岡市の産業大分類別就業者数割合

出典：総務省「国勢調査」(2015年)

② 観光の概況

i) 観光入込客数

延岡市の2017年の観光入込客数は2,198千人で、増加傾向にある。2014年から2015年にかけては、東九州自動車道の開通や道の駅のオープンなどにより、大きく増加している。月別の動向をみると、4月、7月にピークがある。

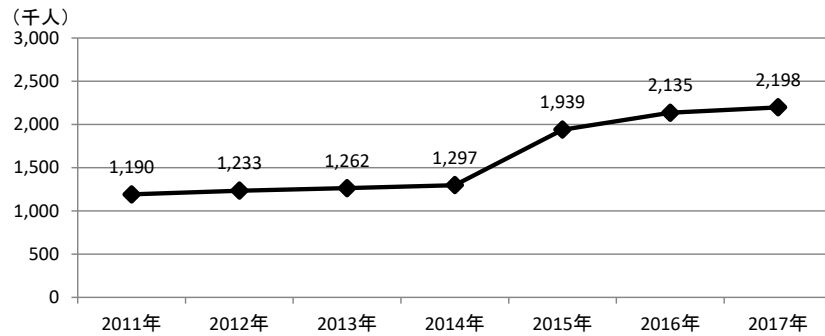


図 II-18 延岡市の観光入込客数の推移

出典：宮崎県「宮崎県観光入込客統計調査結果」(各年)

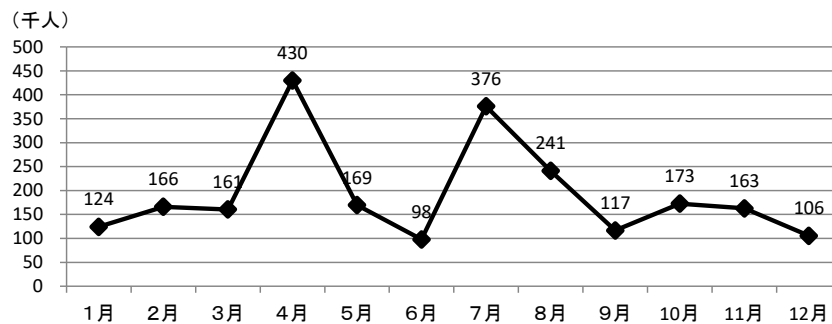


図 II-19 延岡市の月別観光入込客数の推移

出典：延岡市資料(2017年)より作成

ii) 観光産業の状況（宿泊業、飲食業の労働生産性）

延岡市の2016年の宿泊業、飲食業の労働生産性（従業者ひとりあたり付加価値額）は、いずれも2012年と比較して上昇しており、特に飲食業は大きく上昇している。

宿泊業は、全国平均、宮崎県平均と比べて低い水準であるが、飲食業については、全国平均、宮崎県平均を超えている。

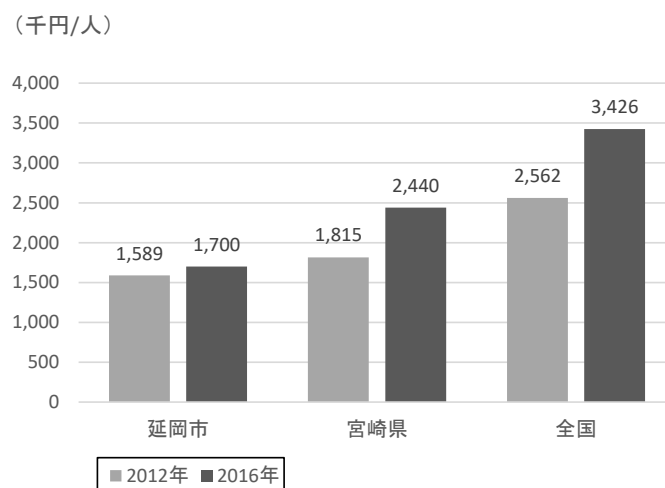


図 II-20 延岡市の宿泊業の労働生産性

出典：総務省「経済センサス-活動調査」（各年）より作成

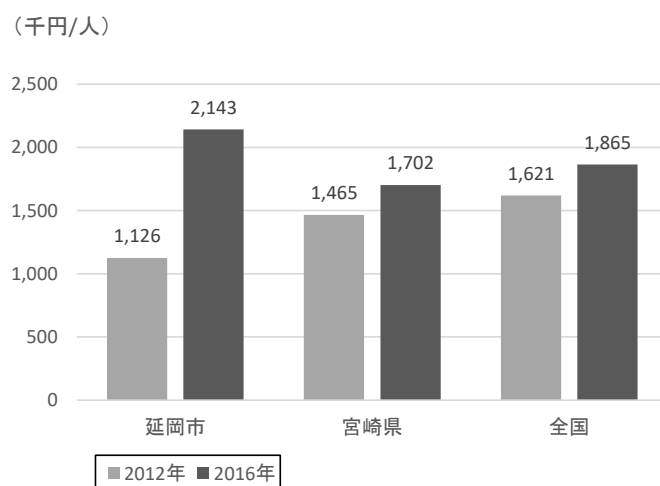


図 II-21 延岡市の飲食業の労働生産性

出典：総務省「経済センサス-活動調査」（各年）より作成

iii) 観光資源

延岡市は、九州で2番目に広い面積を有しており、エリアごとに特色のある観光資源が存在している。

【延岡エリア】

城下町として栄え、歴史とともに歩んできたまちであり、延岡城跡をはじめとする歴史・文化史跡などが多数存在している。

【北浦エリア】

日豊海岸国立公園のほぼ中心に位置し、海と山の自然に恵まれ、キャンプやマリッジャーが楽しめる。

【北川・北方エリア】

自然と景観美、気象動植物の宝庫であり、ユネスコエコパークに登録されている。美しい山や複数の清流が流れており、登山、釣り、キャンプなど、緑と水に恵まれたレジャースポットとなっている。

【全体】

超一級の海・山・川を活かした「自然体験」、チキン南蛮や鮎やな、伊勢えび、酒蔵などの「食」、高千穂町をはじめとした神話の舞台や西郷隆盛ゆかりの地などの「神話・歴史」といった様々な観光資源が存在している。



図 II-22 延岡市の観光マップ

出典：一般社団法人延岡観光協会「わけあって延岡」ホームページ

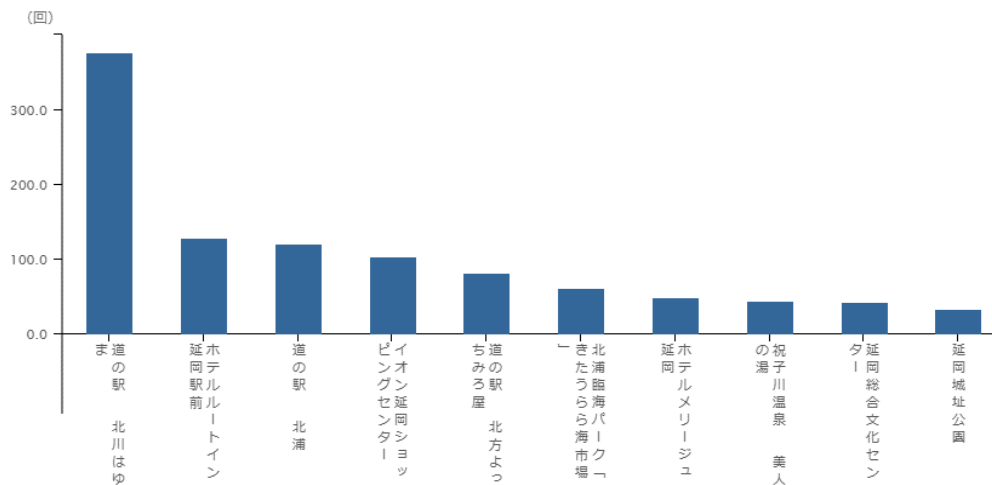


図 II-23 延岡市内の目的地検索数 (2017年・休日・自動車)

出典：地域経済分析システム (RESAS) 観光マップ

表 II-4 延岡市の主な観光地の入込客数 (2017年)

地域	観光地	2017年入込客数 (人)
延岡	須美江家族旅行村	87,996
	海水浴場(須美江、熊野江)	58,250
	今山公園	164,676
	城山公園	37,151
	むかばき青少年自然の家	34,046
	愛宕山	34,195
	延岡植物園	50,852
	内藤記念館	3,276
	延岡ゴルフクラブ	36,944
	ヘルストピア延岡	263,109
鮎やな	16,308	
北浦	浜木綿村	6,141
	清流荘	929
北川	道の駅北川はゆま	409,180
	ホテルの宿	882
	ホテルの館川舟の館	748
	祝子川温泉美人の湯	10,518
	祝子川キャンプ場コテージ大崩	819
	民宿祝子川溪流荘	0
	祝子川バンガロー、森の家	64
	大崩山	8,493
	鏡山	1,204
	祝子川溪谷	2,157
	北川河川	10,894
	西郷隆盛宿陣跡資料館	9,748
	北川湿原(家田・川坂湿原)	2,729
	神さん山	2,019
北方	北方ゴルフクラブ	32,840
	ETOランド	6,907
	鹿川溪谷	24,018
	鮎やな	0
	道の駅北方よっちみろ屋	285,026

出典：延岡市資料

③ ホストタウンとしての取組

i) 相手国

延岡市は、宮崎県、宮崎市、小林市とともに、東京大会のドイツ連邦共和国のホストタウンに登録されており、ドイツ柔道連盟の各世代の代表合宿を受け入れ、スポーツや文化等の交流を通じ、地域の活性化や国際意識の醸成を図っている。

ii) ホストタウンとしての交流事業等

<ドイツ柔道連盟代表合宿の受け入れ>

2017年度にはドイツ柔道連盟男子代表合宿、2018年度には同連盟U18合宿を受け入れ、柔道を通じた交流だけでなく、市内の中学校や高校での日本の文化・遊び体験や各種交流事業を行っている。

<ドイツ&スポーツフェスタ>

延岡市内では、2018年6月30日・7月1日の2日間、市内ショッピングセンターにおいて、東京大会に向けた機運醸成と地域活性化などを目的としたイベント「～Go For 2020!! スポーツがつなく ひなたの絆～「ドイツ&スポーツフェスタ 2018 in Nobeoka」が開催されている。

このイベントには37,000人以上が来場し、延岡市長や大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館副総領事をはじめとする各団体関係者が出席した開会セレモニー、ボッチャやボルダリングなどのスポーツ体験コーナー、ドイツの文化に触れることができるドイツブース、トップアスリートによるトークショーなどにより、多くの市民がスポーツやドイツとの交流を楽しんだほか、ホストタウンとしてのPRが図られている。



図 II-24 ドイツ&スポーツフェスタのチラシ

出典：延岡市資料

(2) スポーツ合宿やスポーツ大会受け入れの現状と課題

① 「アスリートタウンのべおか」

延岡市は、「アスリートタウンのべおか」として、市民と行政が一体となり、スポーツを活かした活動や交流を進めながら、地域のイメージ向上や交流人口の増加を目指している。

日本陸連公認のマラソン大会「延岡西日本マラソン」や「ゴールデンゲームズ in のべおか」、また、全日本柔道代表合宿やサッカーJ1 ベガルタ仙台の春季キャンプなど、トップアスリートが集結する大会や合宿が行われている。

また、アスリートタウン延岡補助事業などに取り組んでいるほか、県などの行政機関やのべおかアスリートタウンサポーターズ、NPO 法人アスリートタウンのべおかなど、様々な関係団体と連携し、アスリートタウンづくりを進めている。

<事業例>

- ✓ スポーツ競技大会出場への補助(九州大会以上の規模)
- ✓ 市内でスポーツ合宿を行う団体などへの合宿支援
- ✓ スポーツ競技大会開催への支援(東九州大会の規模以上)
- ✓ キャンプシーズンに合わせた徹底した芝生の維持・管理 等

② スポーツ合宿の受け入れ

延岡市では、毎年プロや実業団から学生まで、複数のスポーツ合宿を受け入れている。

表 II-5 延岡市内での主な春季キャンプ・合宿日程 (2019年)

チーム名	競技種目	日程	場所
ベガルタ仙台(宮城県)	サッカー	1月30日～2月8日	西階陸上競技場
SUBARU 硬式野球部(群馬県)	野球	2月5日～15日	西階野球場
SGホールディングスグループ陸上部(滋賀県)	陸上	2月8日～19日	市内各ロードコース
東京経済大学硬式野球部(東京都)	野球	2月16日～25日	西階野球場
敬愛大学硬式野球部(千葉県)	野球	2月25日～3月5日	西階野球場
全日本実業団連合 長距離	陸上	3月13日～22日	旭化成グラウンド(中川原町)など
ドイツ柔道連盟(ドイツ)	柔道	3月11日～16日	旭化成柔道場(共栄町)
吉備国際大学Charme 岡山高粱(岡山県)	サッカー	3月22日～29日	西階陸上競技場

出典：延岡市ホームページ

<主な合宿の現状と特徴>

○ドイツ柔道連盟代表合宿

- ✓ 柔道は練習時間も短く、試合形式の練習は少ない。練習だけでの集客は難しい。
- ✓ 2019年3月に実施したドイツ柔道連盟男子代表合宿では、地元高校調理科の生徒が、市内のGAP取得農産物など地元食材を活用した料理を提供し、選手団と高校生との交流に加え、“食”のPRも行っている。
- ✓ 現在のホストタウン事業は、観光に繋げるというものではなく、合宿に参加している選手団と中高生を中心とした市民が交流することで、ドイツに対する興味や国際意識の醸成を図っている。

○ベガルタ仙台（サッカーJリーグ）合宿

- ✓ 合宿期間中に、同じサッカーJリーグのチームである大分トリニータと練習試合を行っている。期間中は他に、地元小学生を対象としたサッカー教室、大学生や地元チームとの練習試合を行っている。
- ✓ 練習の見学を目的とした市外からの観客は少ないが、ベガルタ仙台のキャンプ期間中に行われる試合形式の練習には、休日を利用して市外から多くの観客が訪れている。
- ✓ 合宿期間中には、チームマスコット（ベガッタ君）が市内の幼稚園、保育園で交流を実施している。
- ✓ 市民と選手の交流パーティーを行い、市民と選手が直接触れ合う機会を創出している。
- ✓ 野球のキャンプと違い、サッカーの場合は1日の練習時間が短く、見学には向かない面もある。

○全日本柔道合宿

- ✓ 例年、8月上旬に全日本柔道代表の強化合宿が行われている。また、同時期に、延岡市に活動拠点を置く旭化成柔道部主催の合宿（全国各地の実業団や大学が参加）も行われている。
- ✓ 合宿期間中は、毎日約200名の選手が滞在しており、市内の消費効果も大きい。

③ スポーツ大会の実施状況

i) 延岡西日本マラソン

延岡西日本マラソンは、毎年2月に、延岡市をスタート及びゴール地点、日向市を折り返し地点とする42.195kmのコースで行われるフルマラソン大会である。

福岡国際マラソン、別府大分毎日マラソンとともに、日本陸上競技連盟公認の「九州三大マラソン大会」のひとつであり、新人の登竜門的な大会となっている。

1963年に第1回が開催され、2015年からは女子の部も開催されている。

<大会の開催状況と特徴>

- ✓ 第57回延岡西日本マラソンは、選手のエントリー数は男女合わせて約700名。招待選手はそのうち11名。それぞれに監督、コーチ等が同行する。
- ✓ 延岡西日本マラソンの見物客は主に市民であるため、観光消費が増えるわけではないが、ホテル等の宿泊施設は満室になる。
- ✓ 38都道府県から参加者があり、選手のほか、家族等も一緒に来ているケースも多い。第57回大会では、初めて、大会の開催に合わせて食のイベントを実施している(2月10日(日)の大会前、2月8日(金)、9日(土)に延岡タパスを出店)。
- ✓ この食のイベントには、マラソン関係者のほか、市民も多く参加があったとみられ、開催に一定の効果はあったとの声もある。

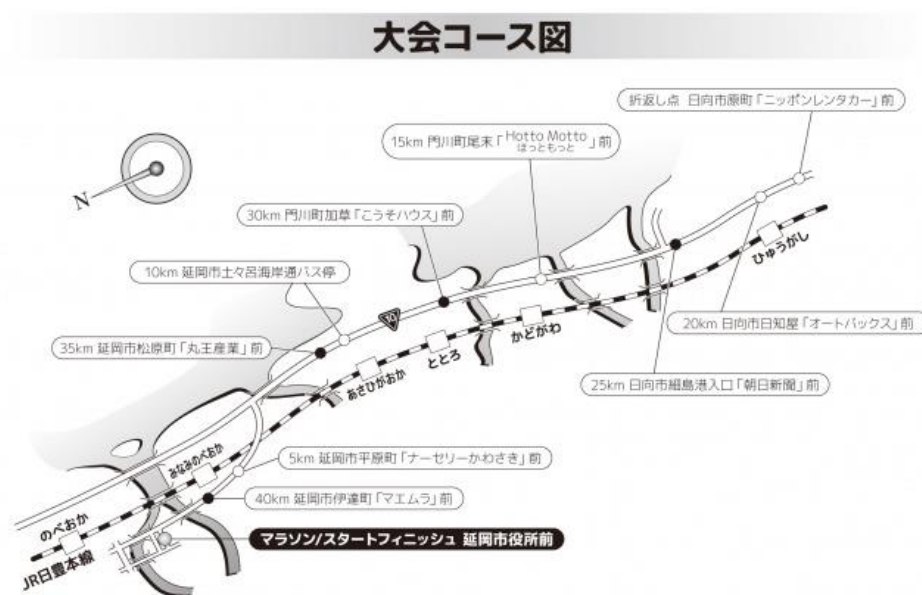


図 II-25 延岡西日本マラソン大会コース図 (2019年第57回大会)

出典：延岡市ホームページ

ii) ゴールデンゲームズ in のべおか

ゴールデンゲームズ in のべおかは、毎年5月に、延岡市西階総合運動公園陸上競技場で開催される陸上競技大会で、日本陸上競技連盟の「日本グランプリシリーズ」と呼ばれるトラック・アンド・フィールドの大会のひとつである。

中距離・長距離走を中心とした大会であるが、参加標準記録突破が参加条件となるなど、全国からトップレベルの選手が参加している。

<大会の開催状況と特徴>

- ✓ ゴールデンゲームズ in のべおかは、市内のスポーツイベントで最も集客力があり、2018年の大会の来場者は、約25,000名となっている。
- ✓ スタンドからの観戦だけでなく、競技場内のトラック外側に設置されたブリキ板の広告を叩きながらヨーロッパスタイルの応援が繰り返されており、陸上ファンだけでなく、出場する選手からも好評を得ている。



図 II-26 ゴールデンゲームズ in のべおかのチラシ

出典：延岡市資料

④ その他（実業団チームの拠点）

延岡市には、旭化成グループの企業スポーツ部（陸上部、柔道部）が活動拠点を置いている。同社の企業スポーツ部は、これまでにオリンピック競技大会に（延べ）50名近い社員を代表選手として送り出しており、延岡市のスポーツ振興にも大きな役割を果たしている。

⑤ スポーツ大会やスポーツ合宿受け入れに関する課題認識

調査結果を踏まえ、延岡市におけるスポーツ大会や合宿受け入れに関する現状や課題認識について、以下のとおり整理した。

i) スポーツ合宿と国際交流

- ✓ ホストタウンとしての取組は、観光というより、市民による国際交流という位置付けが大きい。
- ✓ ホストタウンに登録され、2016年度の夏から、ドイツ人の国際交流員を招聘している。ドイツ語会話教室や料理教室、また、ドイツクリスマスマーケットなどの国際文化交流事業を行っている。
- ✓ 延岡市には元々ドイツとの交流がなかったため、合宿受け入れ時に市役所庁舎に国旗を掲げるほか、まちなかにドイツ柔道連盟の歓迎の意を込めたペナントを飾っている。また、国際交流員が市内各地でイベント等を実施し、ドイツに対する意識の醸成を図っており、徐々にではあるが、成果が現れてきている。
- ✓ 現在の市民交流の中心は、中学生や高校生である。特に昨年の夏はドイツ柔道連盟のU18男女代表チーム52名を受け入れ、県内の柔道強豪校から協力をいただき強化合宿を実施した。合宿期間中には、市内の高校や中学校を訪問し、様々な交流事業を実施している。
- ✓ ドイツ柔道連盟代表合宿においては、選手は市内のホテルに滞在している。ホテルだけでなく、延岡のまちなかでも食事したいという要望を受け、商工会議所と協議のうえ、市内の数店舗でドイツ選手団の食事を受け入れている。各店舗とも、合宿前には抵抗感を示していたが、現在は良い交流ができていると捉えられている。
- ✓ 国際交流をコンテンツとするイベントを2018年度に実施している。ドイツのPRコーナー、松田丈志さんや宗茂さんといったオリンピックによるトークショー、ボッチャなどのパラスポーツの体験等を実施している。
- ✓ これまでの取組により、ドイツとの良好な関係が構築されてきている。市としては、東京大会以降も交流を続けていきたいと考えており、ドイツ柔道連盟や旭化成柔道部と、今後の連携について意見交換を行っている。
- ✓ インバウンド狙いではなく、国際交流の場やイベントをコンテンツとして、近隣から誘客することが現実的と考えており、東京大会以降のオリンピック・レガシーにも近くづくものと捉えている。

ii) 市内の交流拠点施設

- ✓ 2018年4月に、食の拠点施設として「かわまち交流館」がオープンしている。通常は食を絡めたイベントを行ってもらえるよう、広く募集をかけており、市民の交流の場としても利用されている。
- ✓ 延岡市では秋口に鮎やなが設置され、その際には鮎やなの食事処として利用されている。昨年も10月～12月に、市外から2万人以上が訪れている。
- ✓ 2018年4月のオープンからの稼働率は約48%であるが、10月～12月の鮎やなのシーズンはフルで稼働している。4月から9月までは、食のイベントというよりも、市民の交流の場や観光ツアーバスの昼食会場として使用されている。

iii) 今後の観光振興の期待

- ✓ 延岡市は、旭化成を中心とした工業都市として認識されており、観光都市としての認知度は低いため、2014年度より、高速道路の開通を見据え、観光振興の取組を積極化している。
- ✓ 近くには高千穂峡や別府等の有名な観光地があり、観光客にもう少し足を延ばして来てもらいたいと考えている。
- ✓ インバウンド客も来ているようだが、ほとんどが通過客とみられる。
- ✓ 延岡市のアウトドアスポーツは、全国から集客があり、特にダイビング等は、市街地からのアクセスがよいなどダイバーから人気で、ダイビングだけで年間3,000名ぐらいの来訪者がある。
- ✓ 2026年の宮崎県国体に向け、宮崎県が現在の延岡市民体育館の敷地に県体育館を整備する予定であり、県体育館が整備されれば、これまで以上に規模の大きい大会や合宿の誘致が可能となると考えている。

III. 国際スポーツ大会やホストタウンについてのアンケート調査

本調査研究では、国際スポーツ大会や国際スポーツ合宿を契機とした観光誘客の条件や可能性等について把握・分析を行うため、パラリンピック競技及び「飯塚国際車いすテニス大会」に関するアンケート調査、及び飯塚市、延岡市におけるホストタウンとしての誘客可能性等に関するアンケート調査を実施した。

1. パラリンピック競技についてのアンケート調査

(1) 調査概要

<調査方法>

- ・ インターネット WEB アンケート調査

<調査期間>

- ・ 2019年3月8日～3月10日

<調査対象>

- ・ (株)クロス・マーケティングが保有するアンケートパネルのうち、福岡県内に居住する15歳～79歳 2,893人
Q7以降は、飯塚国際車いすテニス大会の観戦意向あり1,000人、観戦意向なし1,000人を対象に実施

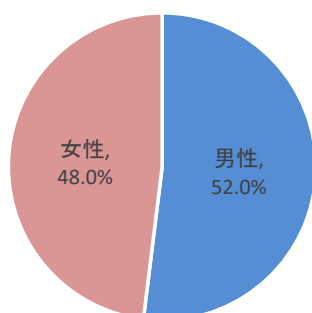
<調査項目>

- ・ パラスポーツや車いすテニスへの興味、飯塚国際車いすテニス大会観戦の条件、観戦時の周辺観光ニーズ等

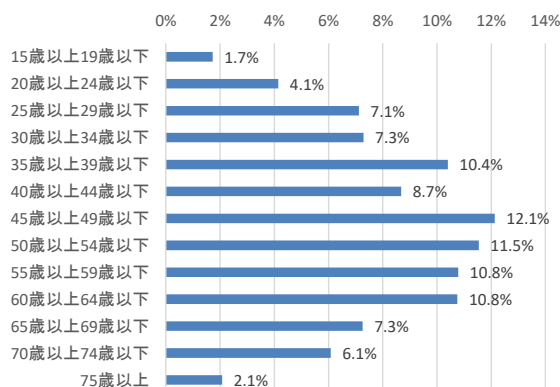
(2) 回答者属性

(いずれも N=2893)

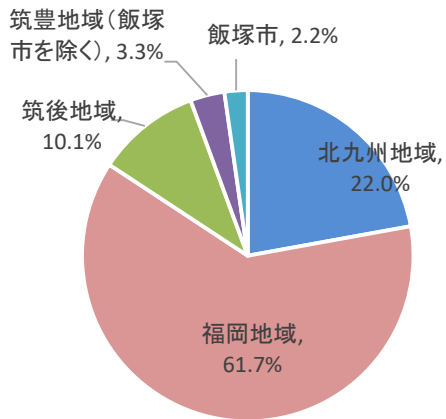
【性別】



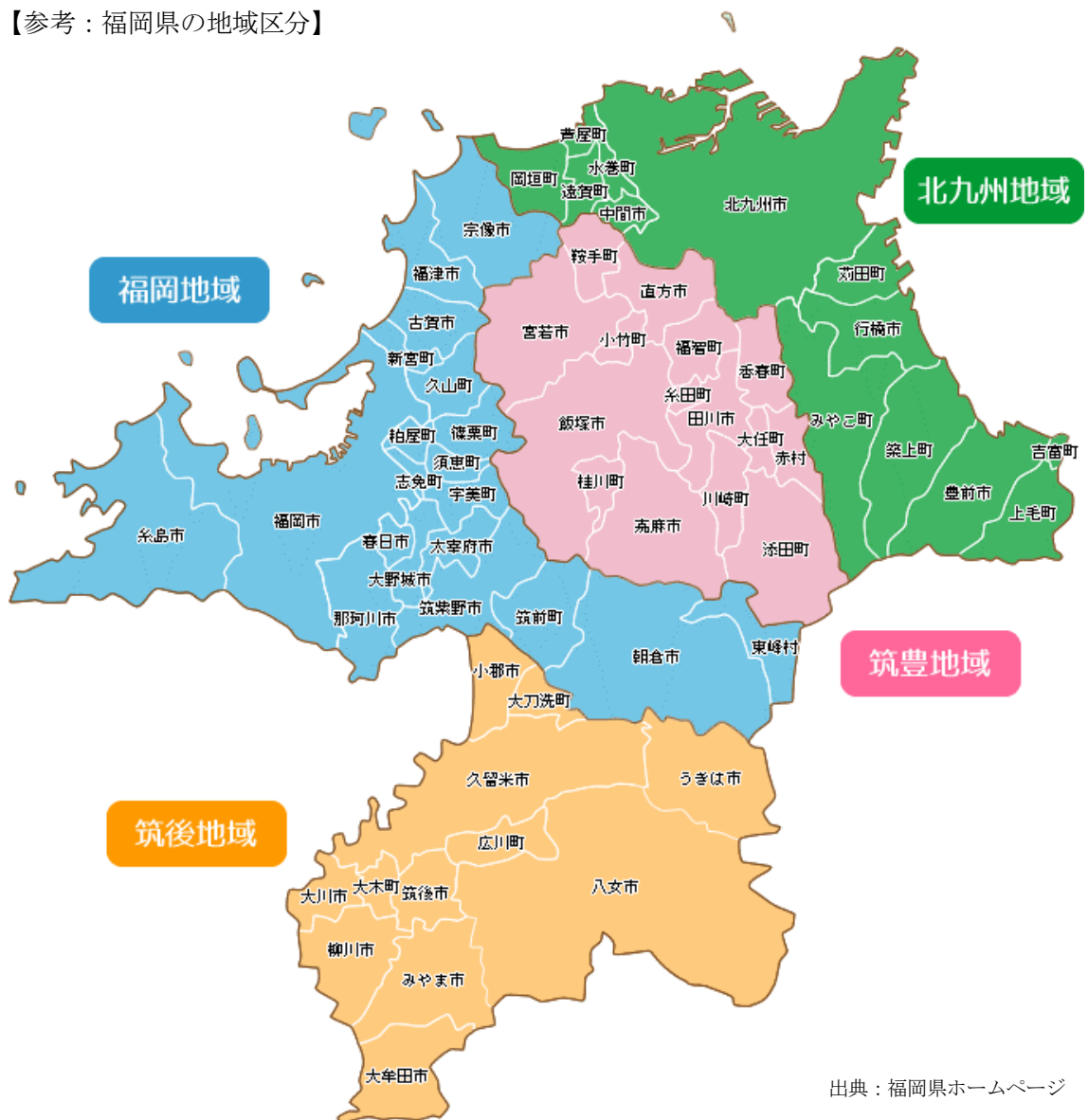
【年齢】



【居住地】



【参考：福岡県の地域区分】



(3) 集計結果

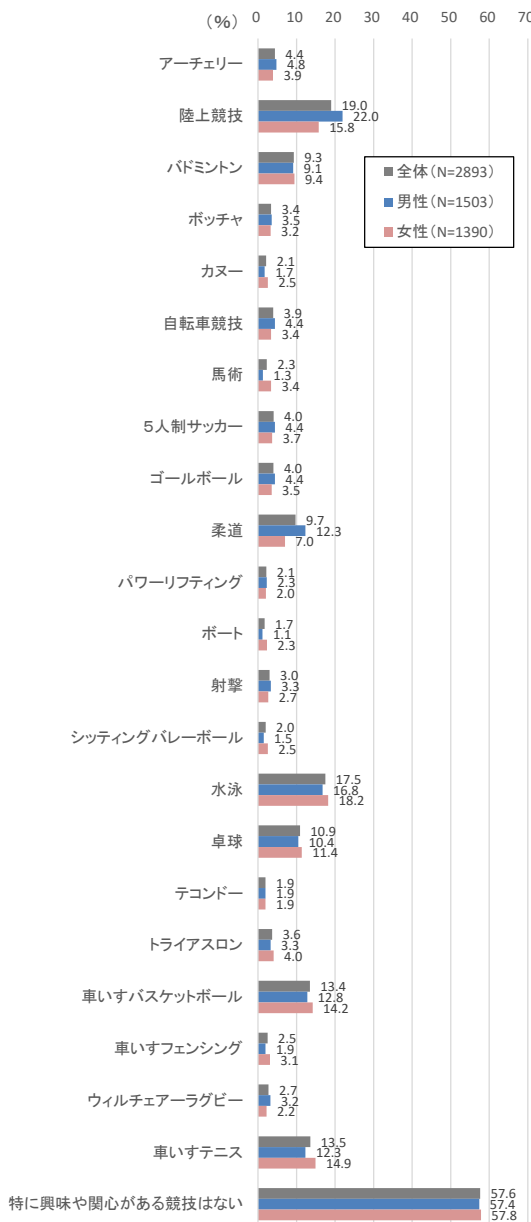
① 東京大会の実施競技への興味・関心

Q1 あなたが、東京大会の以下の競技について、興味や関心があるものはどれですか？ (MA)

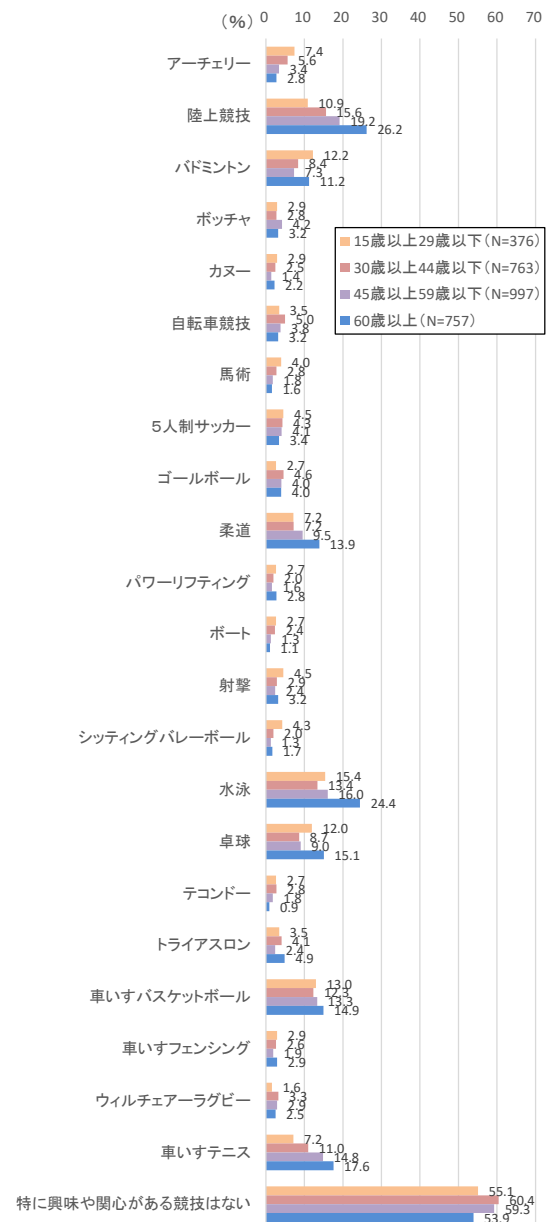
東京大会のパラリンピック実施競技（22 競技）のうち、最も興味や関心が高いのは陸上競技（19.0%）で、次いで水泳（17.5%）、車いすテニス（13.5%）、車いすバスケットボール（13.4%）の順となっている。ただし、全体の約6割は「特に興味や関心がある競技はない」としている。

年齢階層別にみると、陸上競技、車いすテニス、柔道などは、年齢が高くなるほど興味・関心があるとする割合が高くなっている。

【全体・男女別】



【年齢階層別】



② 飯塚国際車いすテニス大会の認知度・観戦経験

Q2 あなたは、毎年、飯塚市で「飯塚国際車いすテニス大会（JAPAN OPEN）」が開催されているのをご存知ですか。（MA）

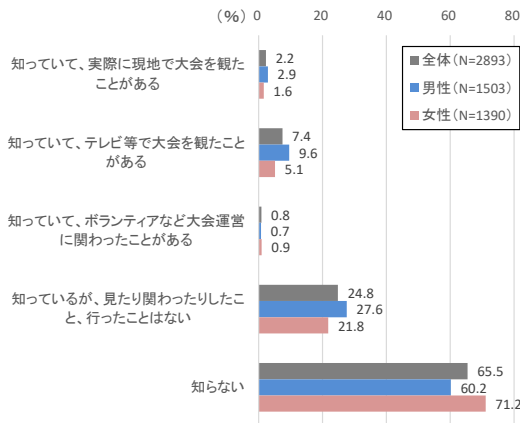
飯塚国際車いすテニス大会を「知っている」（「知らない」以外）は全体の3割強程度であり、実際に現地での観戦経験があるのは2%程度となっている。

年齢階層別にみると、年齢階層が高いほど大会の認知度は高くなる傾向があるが、現地での観戦経験自体は、年齢階層が低いほど高い。

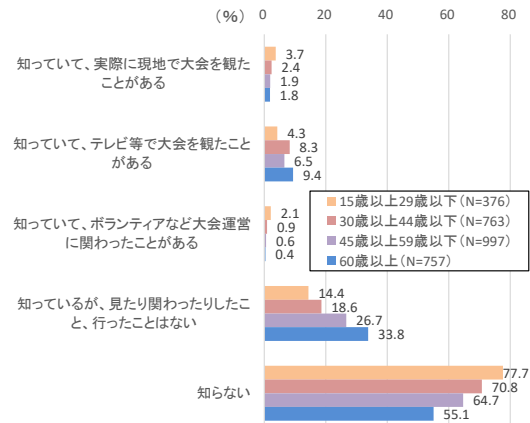
居住地別にみると、飯塚市居住者は7割以上の認知度があるが、筑豊地域では6割程度、その他の地域は3割程度となっている。現地観戦経験も、飯塚市居住者は2割弱みられるが、筑豊地域では5%程度であり、福岡地域では2%を下回っている。

パラ競技への興味・関心別にみると、車いすテニスに興味・関心がある層では6割程度の認知度があるが、現地観戦経験は5%程度となっている。

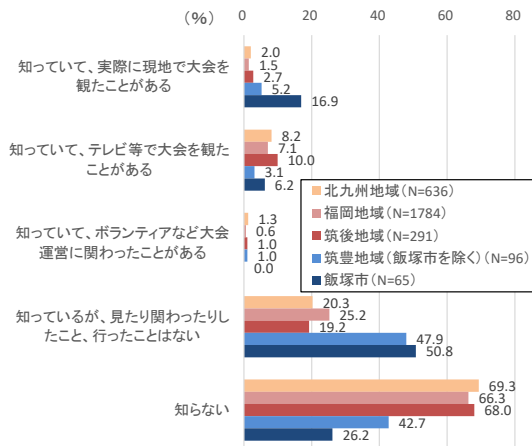
【全体・男女別】



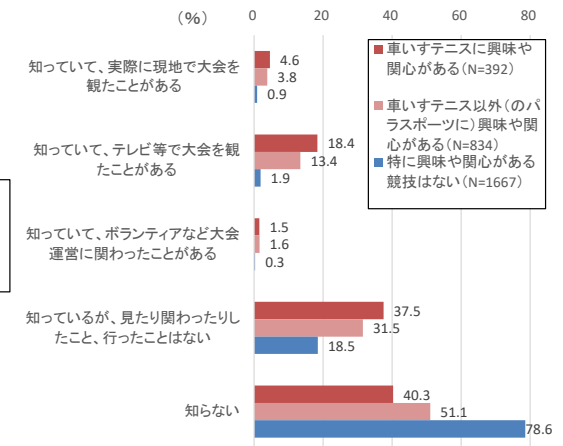
【年齢階層別】



【居住地別】



【パラ競技への興味・関心別】



③ 飯塚国際車いすテニス大会観戦時の飯塚市内や周辺での行動

Q3 (Q2で「実際に現地で大会を観たことがある」「大会運営に関わったことがある」と回答した方にお尋ねします。)大会を見たり、運営に関わったりした際、大会会場以外の、飯塚市内や周辺でどのようなことをしましたか。(MA)

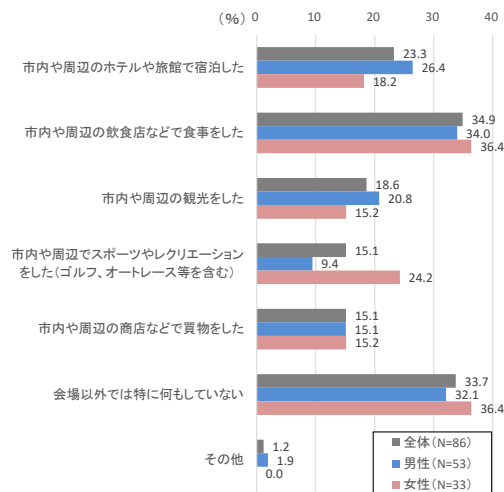
現地観戦経験者(「実際に現地で大会を観たことがある」または「大会運営に関わったことがある」のいずれかひとつでも回答した方)(N=86)に、飯塚市内や周辺での行動について尋ねたところ、「飲食店などで食事した」が35%で最も多いが、「会場以外では特に何もしていない」も34%みられている。「観光をした」は2割程度となっている。

年齢階層別にみると、年齢が低いほど「市内や周辺のホテルや旅館で宿泊した」の割合が高い。また60歳以上では「会場以外では特に何もしていない」が半数を超える。

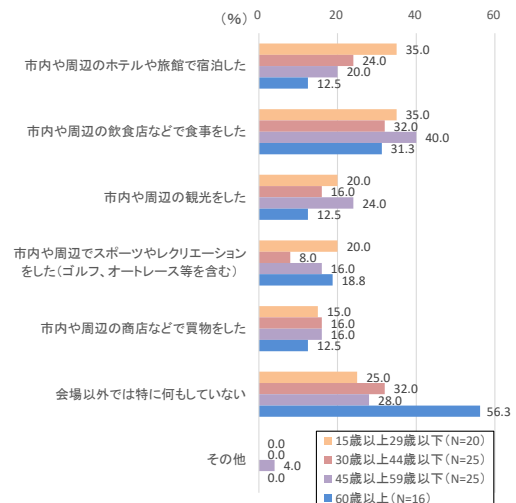
居住地別にみると、飯塚市居住者は「会場以外では特に何もしていない」が7割を占めるが、福岡地域居住者は「市内や周辺の飲食店などで食事した」が46%となっている。

パラ競技への興味・関心別にみると、車いすテニスに興味・関心がある層のほうが、他と比べて宿泊、食事、買物、観光等を経験している割合が高い。

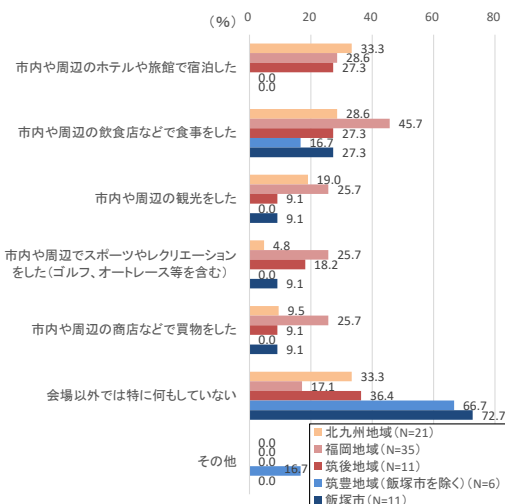
【全体・男女別】



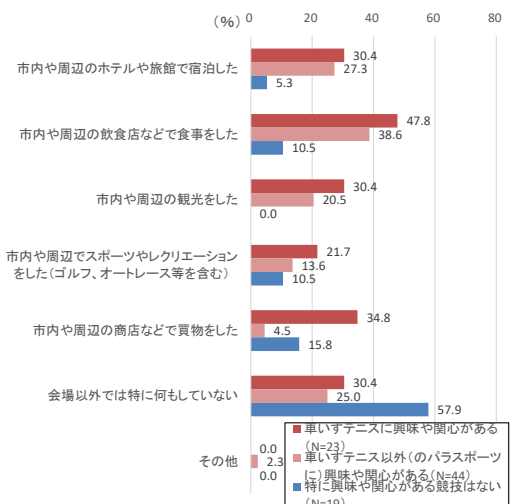
【年齢階層別】



【居住地別】



【パラ競技への興味・関心別】



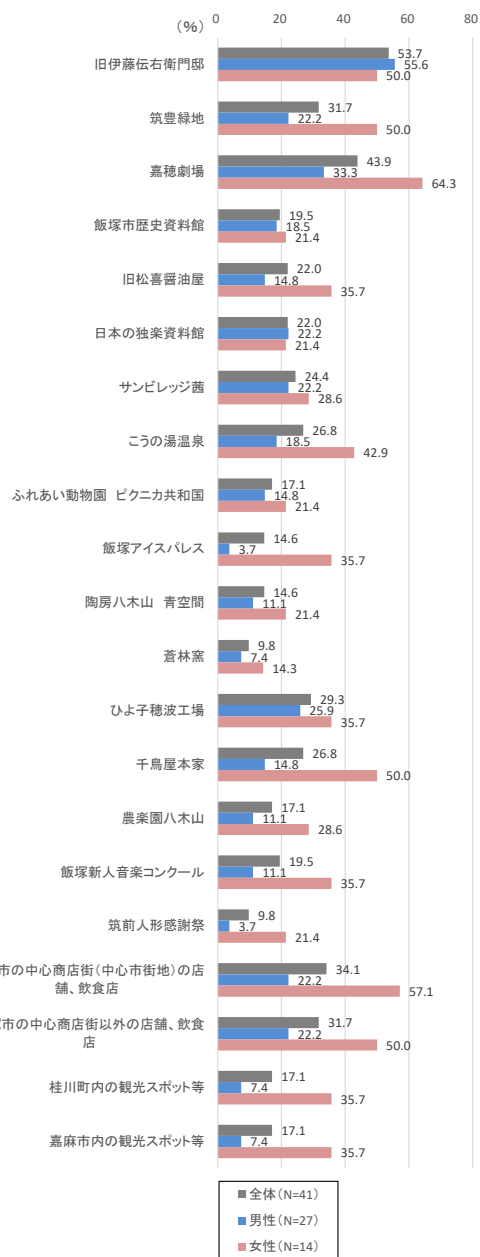
④ 飯塚国際車いすテニス大会観戦時の飯塚市内や周辺の訪問先

Q4 (Q3で「食事」「観光」「買物」をしたという方にお尋ねします。) どちらに訪問しましたか。(MA)

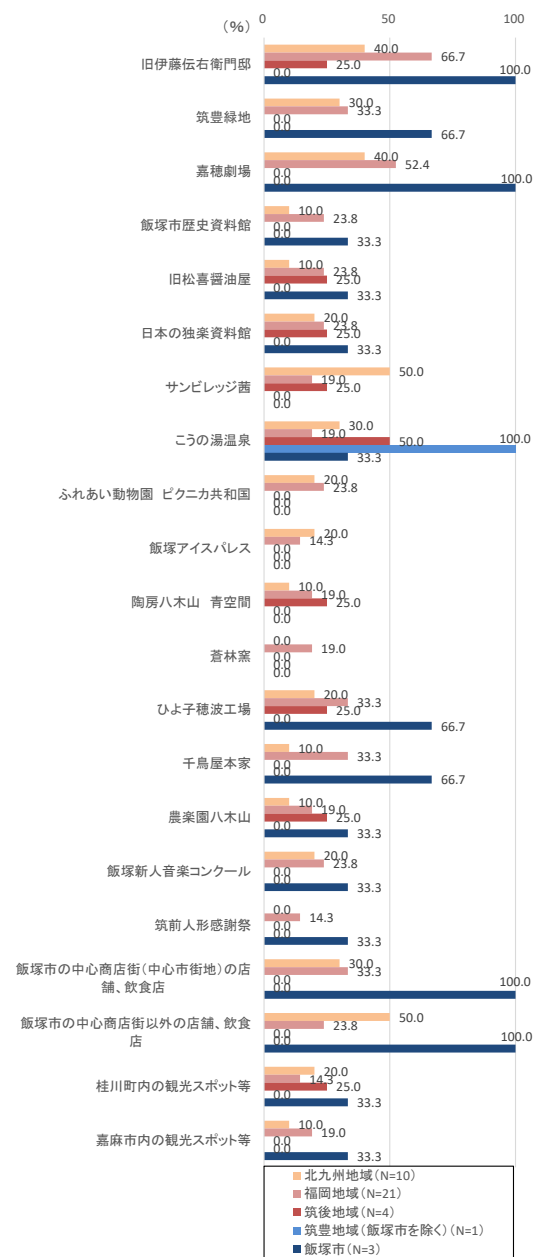
現地での観戦経験者で、かつ「食事」「観光」「買物」のいずれかひとつでも経験した方(N=41)に、具体的な飯塚市内や周辺での訪問先について尋ねたところ、「旧伊藤伝右衛門邸」「嘉穂劇場」といった市内の主要観光施設で訪問割合が高いほか、飯塚市の中心商店街、中心商店街以外ともに3割以上の訪問率となっている。

男女別にみると、女性のほうが、男性よりも各施設の訪問率が高く、積極的に回遊していることがうかがえる。

【全体・男女別】



【居住地別】



⑤ 大会観戦時に観光等をしなかった理由

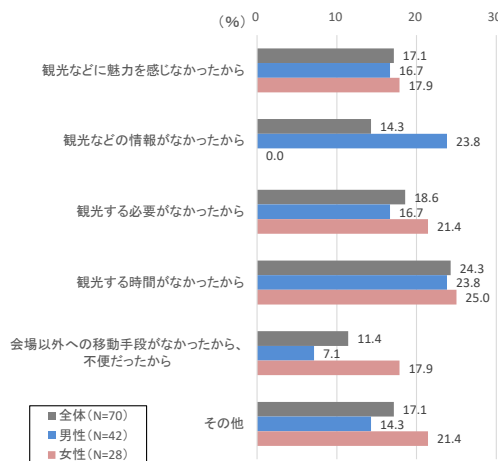
Q5 (Q3で「観光した」を選ばなかった方にお尋ねします。) 観光などをしなかった理由は何ですか。(MA)

現地での観戦時に、「観光」をしなかった方(N=70)に、その(観光をしなかった)理由を尋ねたところ、全体では「観光する時間がなかったから」が25%で最も多く、次いで「観光する必要がなかったから」「観光などに魅力を感じなかったから」が続くが、各要素とも、2割近い回答率があり、理由は輻輳的であることがうかがえる。

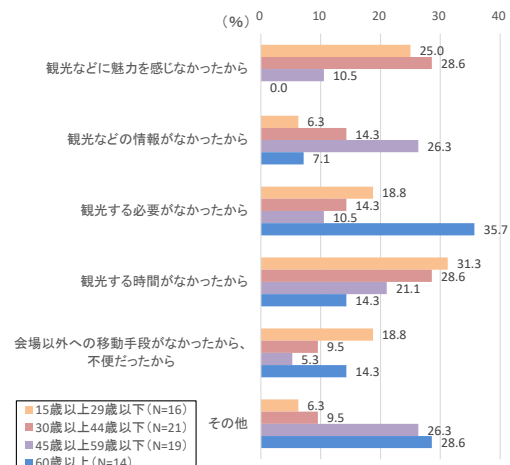
男女別では、男性は「観光する時間がなかったから」「観光などの情報がなかったから」がいずれも29%で最も多く、女性は「観光する時間がなかったから」が25%、次いで「観光する必要がなかったから」が21%となっており、やや傾向に違いがみられる。

年齢階層別では、各階層によって傾向が異なり、15歳以上29歳以下では「観光する時間がなかったから」、30歳以上44歳以下では「観光などに魅力を感じなかったから」「観光する時間がなかったから」、45歳以上59歳以下では「観光などの情報がなかったから」「その他」、60歳以上では「観光する時間がなかったから」の割合がそれぞれ高い。なお、「その他」の具体的回答としては「住んでいた(いる)から」等が複数みられた。

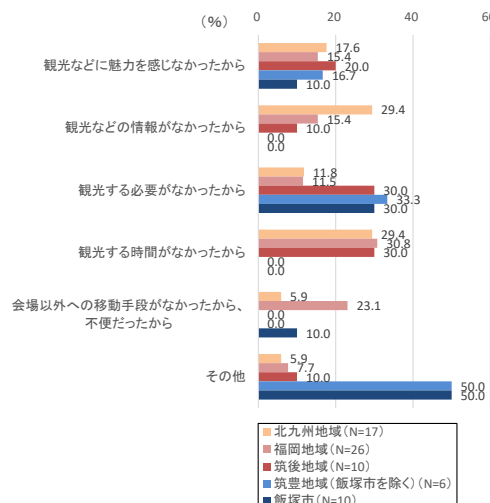
【全体・男女別】



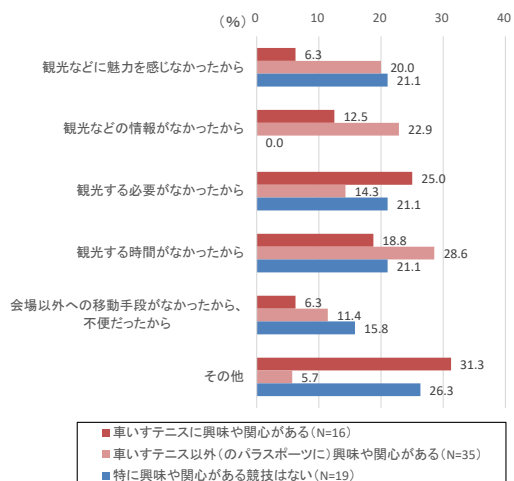
【年齢階層別】



【居住地別】



【パラ競技への興味・関心別】



⑥ 今後の飯塚国際車いすテニス大会の観戦意向

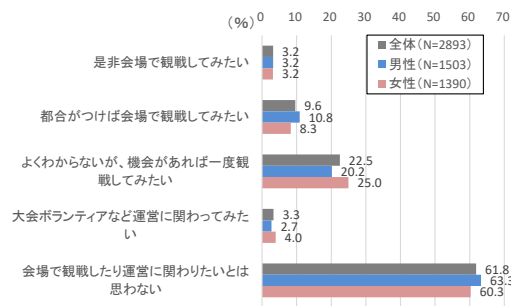
Q6 あなたは、「飯塚国際車いすテニス大会（JAPAN OPEN）」（毎年、4月下旬に開催）を会場で観戦したいと思いますか。（MA）

今後の飯塚国際車いすテニス大会の観戦意向は、「よくわからないが、機会があれば一度観戦してみたい」「都合がつけば会場で観戦してみたい」なども含め、現地観戦意向は4割程度となっている。

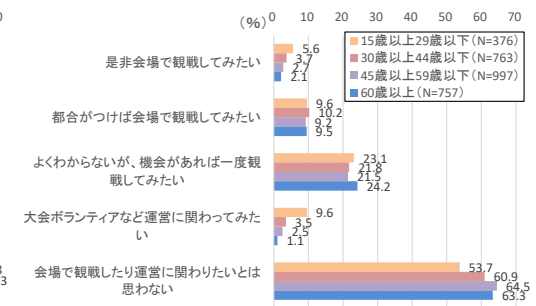
現地観戦意向は、年齢が低いほど高い傾向がある。また、車いすテニスに興味・関心がある層では8割近くが現地観戦意向を有しているが、パラスポーツに興味・関心がない層の観戦意向は2割に満たない。

現地観戦経験者は、「是非会場で観戦してみたい」が4割を超えており、「機会があれば・・・」「都合がつけば・・・」なども含めると観戦意向は9割近くに上る。

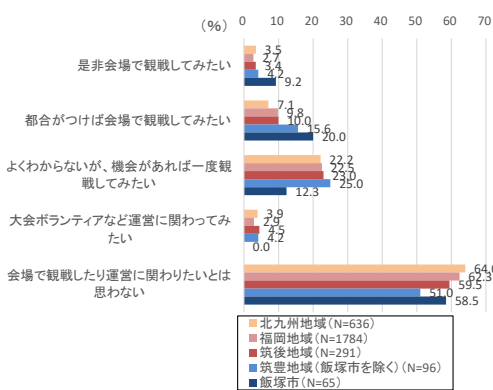
【全体・男女別】



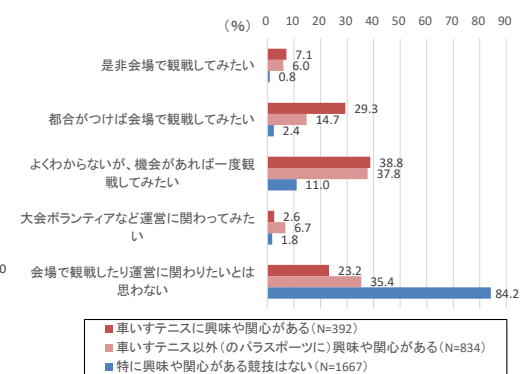
【年齢階層別】



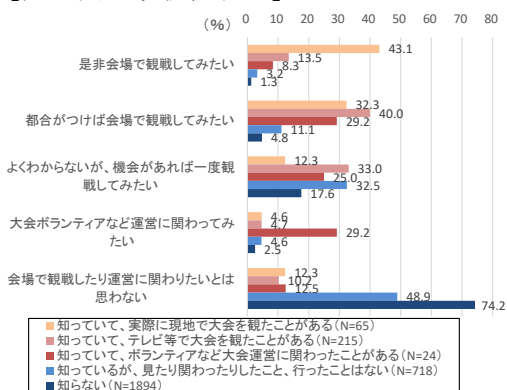
【居住地別】



【パラ競技への興味・関心別】



【認知度・観戦経験別】



⑦ 飯塚国際車いすテニス大会観戦時の観光等の意向

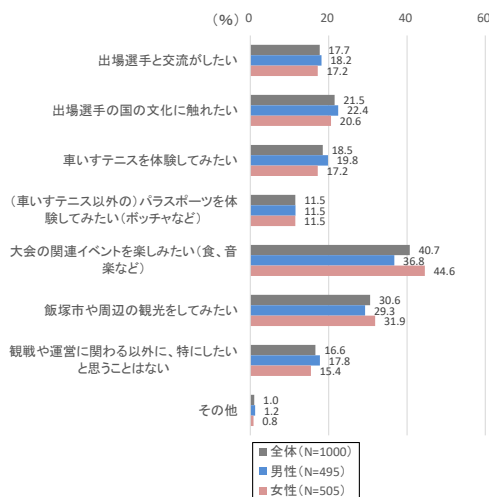
※ 以降 Q7~Q8 は、Q6 で「是非会場で観戦してみたい」「よくわからないが、機会があれば一度観戦してみたい」「都合がつけば会場で観戦してみたい」「大会ボランティアなど運営に関わってみたい」のいずれかひとつでも回答した方 1,000 人を対象として実施

Q7 (Q6 で「会場で観戦してみたい」「運営に関わってみたい」と回答した方にお尋ねします。) あなたは、「飯塚国際車いすテニス大会 (JAPAN OPEN) を観戦したり運営に関わる際、あわせてどのようなことをしたいと思いますか。(MA)

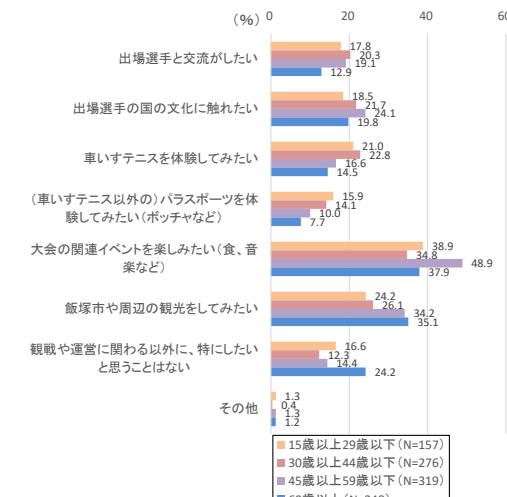
飯塚国際車いすテニス大会の観戦時にあわせて (現地等で) したいことを尋ねたところ、「大会の関連イベントを楽しみたい」が 41%で最も多く、次いで「飯塚市や周辺の観光をしてみたい」が 31%となっている。

男女別にみると、男性は交流や体験に関するニーズが女性よりもやや高く、女性は、イベントや周辺観光のニーズが男性よりもやや高い。年齢階層別にみると、競技体験は年齢が低いほどニーズが高く、観光は年齢が高いほどニーズが高い。

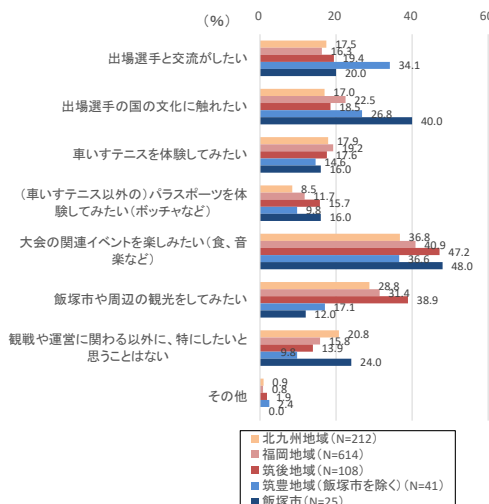
【全体・男女別】



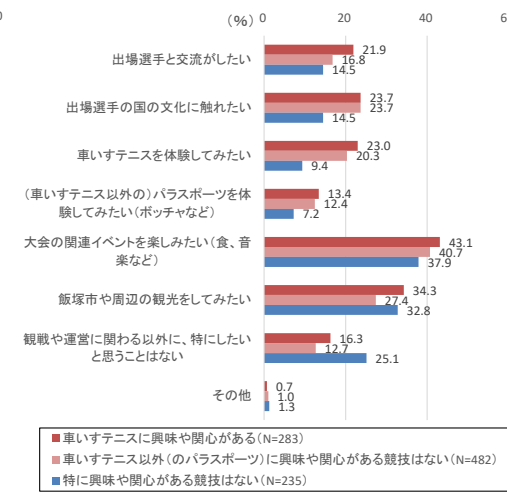
【年齢階層別】



【居住地別】



【パラ競技への興味・関心別】



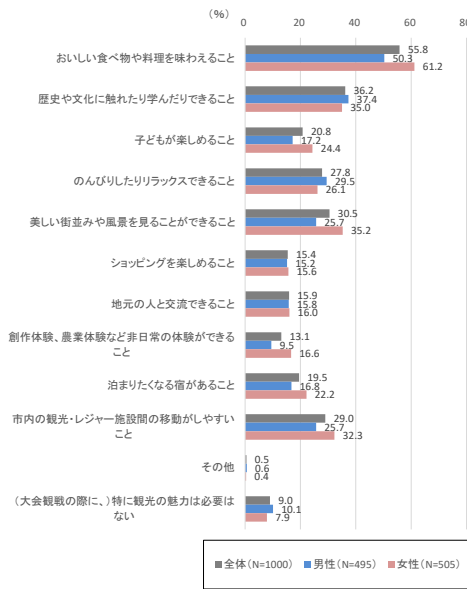
⑧ 飯塚国際車いすテニス大会の観戦にあたり、魅力向上を期待する観光要素

Q8 (Q6で「会場で観戦してみたい」「運営に関わってみたい」と回答した方にお尋ねします。) 飯塚市内の観光について、どのような魅力が高まれば、大会に行くことが、より楽しくなると思いますか。

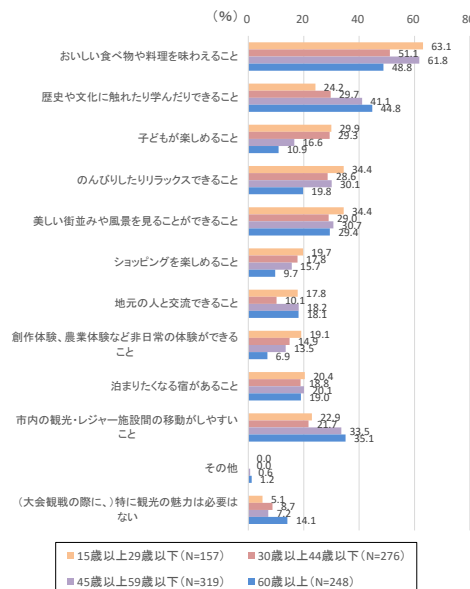
飯塚国際車いすテニス大会の観戦時に、どのような観光の魅力が高まれば大会に行くことがより楽しくなると思うか尋ねたところ、全体では、「おいしい食べ物や料理を味わえること」が56%で最も多く、次いで「歴史や文化に触れたり学んだりできること」が36%となっている。

女性や、車いすテニスに興味・関心がある層は、各要素とも回答率が高く、多様な観光要素の魅力向上に期待していることがうかがえる。

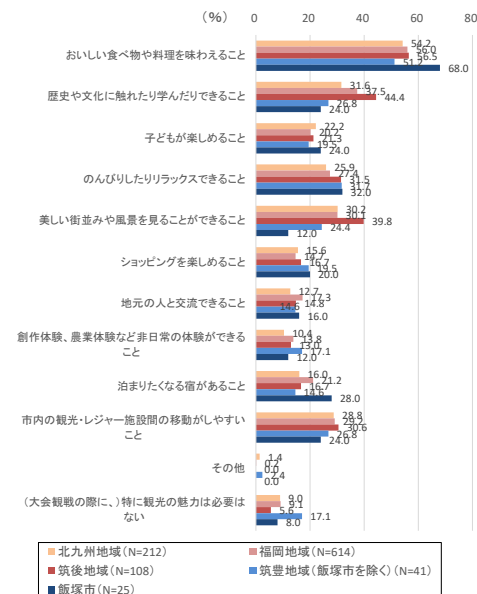
【全体・男女別】



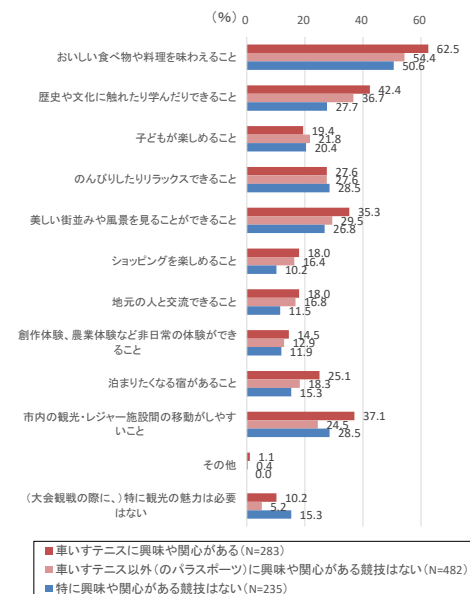
【年齢階層別】



【居住地別】



【パラ競技への興味・関心別】



⑨ 飯塚国際車いすテニス大会の観戦をしたいと思わない理由

※ 以降 Q9～Q11 は、Q6 で「会場で観戦したいとは思わない」と回答した方 1,000 人を対象として実施

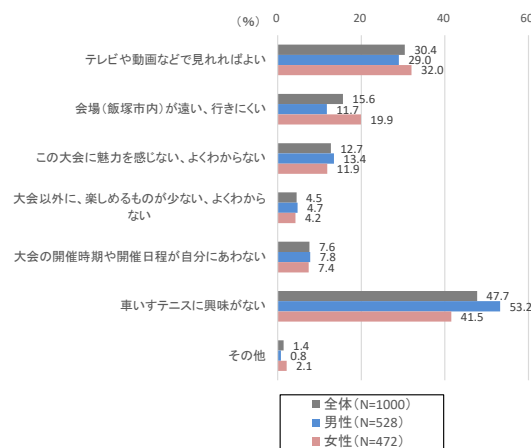
Q9 (Q6 で「会場で観戦したいとは思わない」と回答した方にお尋ねします。) その理由は何ですか。(MA)

飯塚国際車いすテニス大会について「会場で観戦したいとは思わない」と回答した方に、その理由を尋ねたところ、「車いすテニスに興味がない」が 48%で最も多く、次いで「テレビや動画などで見ればよい」が 30%となっている。

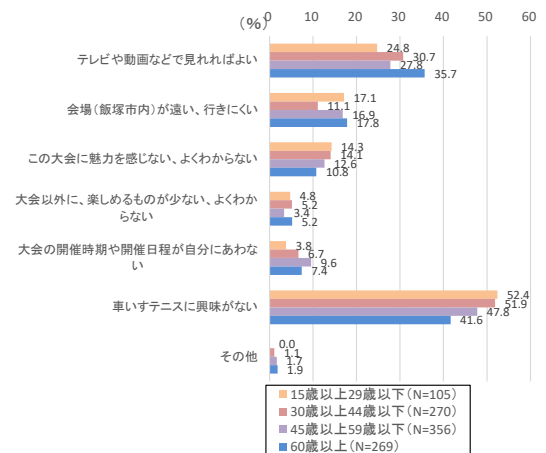
これら上位 2 つの理由以外では、「会場が遠い、行きにくい」といった理由を、女性 20%、筑後地域居住者の 24%、車いすテニス興味関心がある層の 37%があげている。

また「大会に魅力を感じない、わからない」は年代が低いほど理由として挙げる割合が高い。

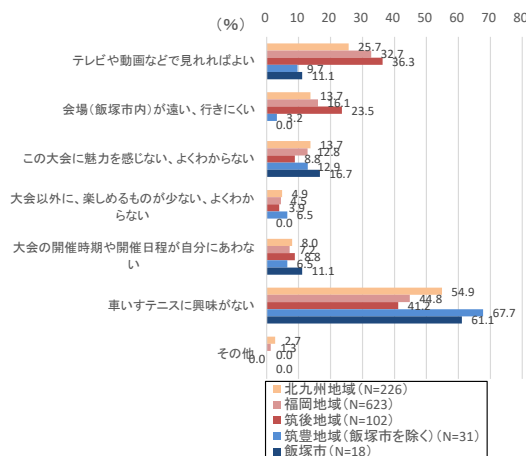
【全体・男女別】



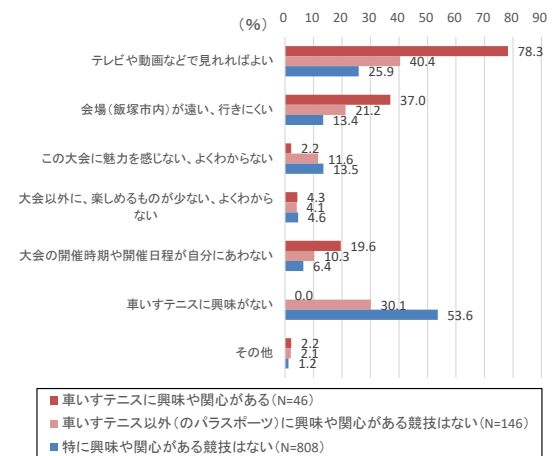
【年齢階層別】



【居住地別】



【パラ競技への興味・関心別】

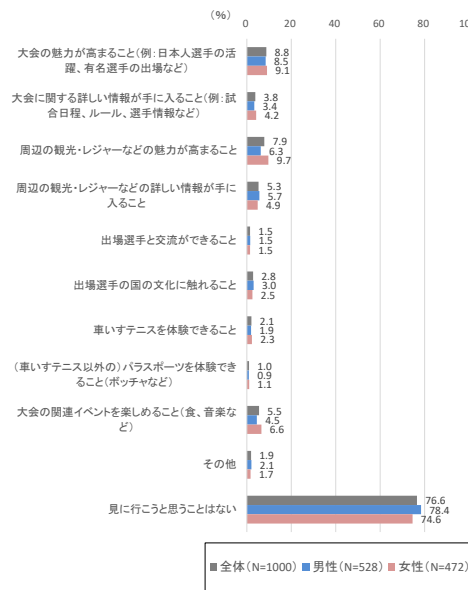


⑩ 飯塚国際車いすテニス大会の観戦のきっかけとなること

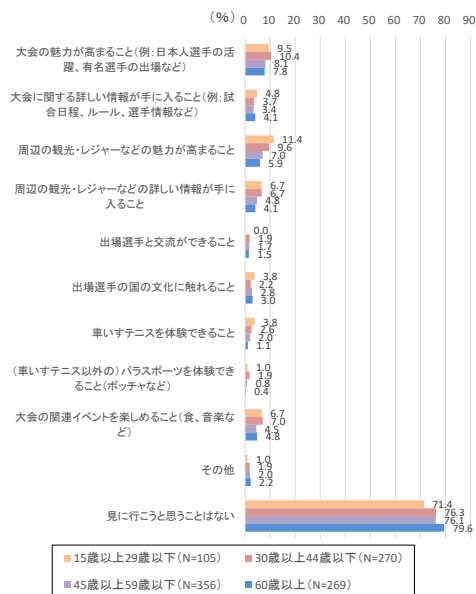
Q10 (Q6で「会場で観戦したいとは思わない」と回答した方にお尋ねします。) どういったことがあれば、この大会を観に行こうと思うきっかけになりますか。(MA)

飯塚国際車いすテニス大会について「会場で観戦したいとは思わない」と回答した方に、どういったことがあればこの大会を見に行こうと思うきっかけとなるか尋ねたところ、全体では約8割が「見に行こうとは思わない」としているものの、車いすテニスに興味・関心がある層では、「大会の魅力が高まること」「周辺の観光・レジャーなどの魅力が高まること」がそれぞれ22%となっている。

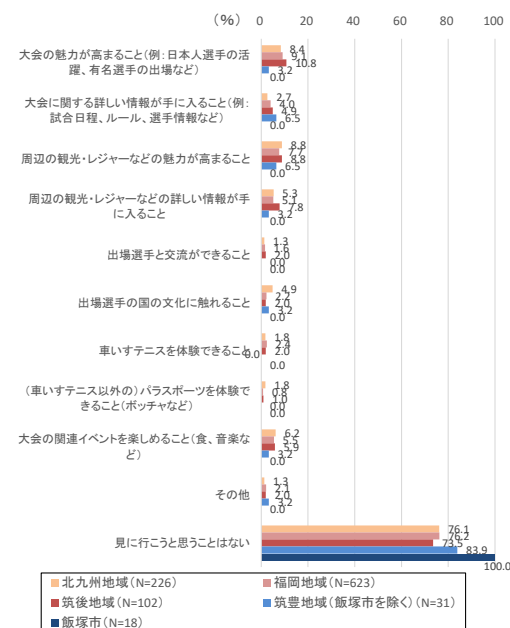
【全体・男女別】



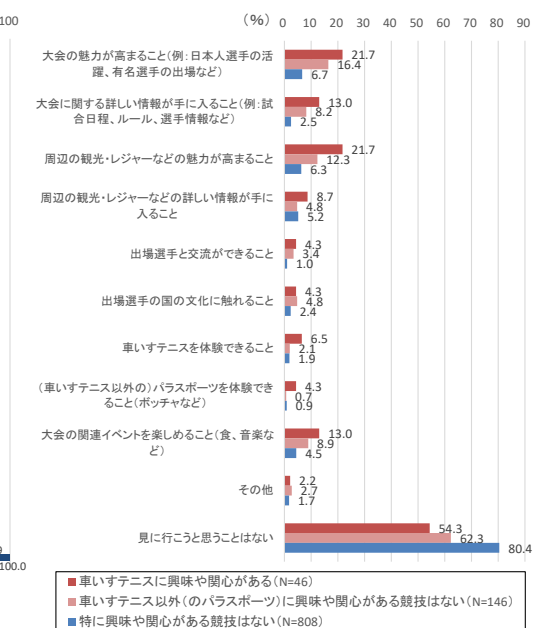
【年齢階層別】



【居住地別】



【パラ競技への興味・関心別】

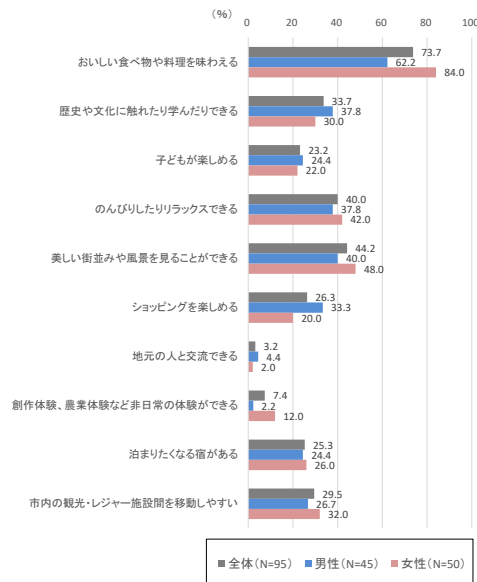


⑪ 飯塚国際車いすテニス大会の観戦のきっかけになりうる観光の魅力や情報

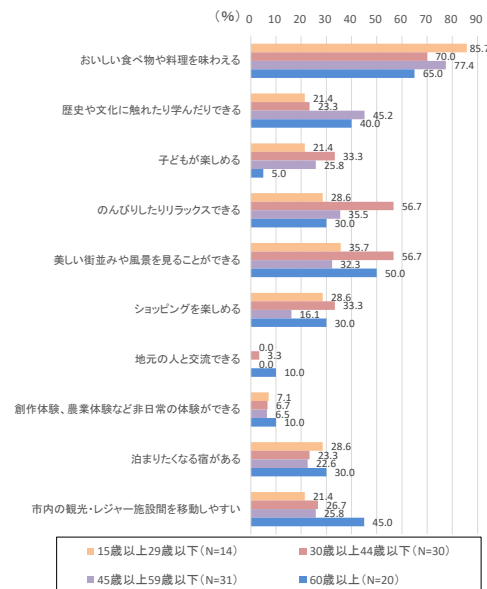
Q11 (Q10で「周辺の観光・レジャーなどの魅力が高まること」「周辺の観光・レジャーの詳しい情報が手に入ること」と回答した方にお尋ねします。) 観光についてのどのような魅力や情報があれば、大会を観に行こうと思うきっかけになりますか。(MA)

飯塚国際車いすテニス大会の観戦意向がないものの、観戦のきっかけとなる要素として観光の魅力や情報を挙げた方(N=95)に対し、具体的な魅力や情報の要素を尋ねたところ、全体では「おいしい食べ物や料理を味わえる」が74%で最も多く、次いで「美しい町並みや風景を見ることができる」、「のんびりしたりリラックスできる」が4割を超えている。

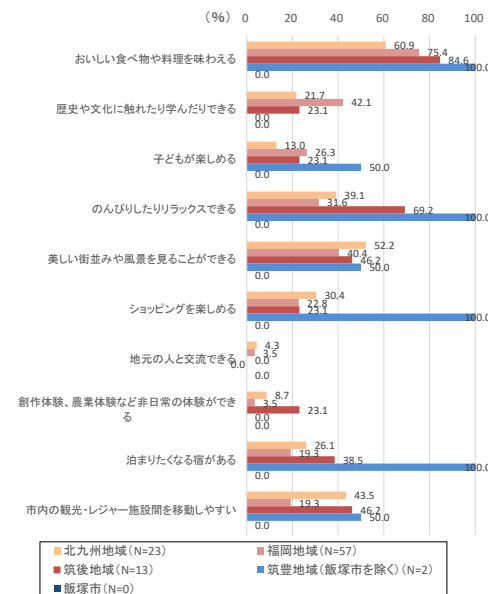
【全体・男女別】



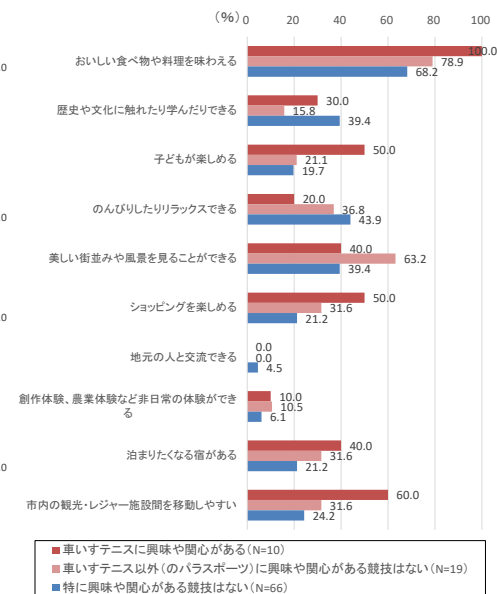
【年齢階層別】



【居住地別】



【パラ競技への興味・関心別】



(4) 集計結果まとめ

○パラリンピック競技及び車いすテニスの興味・関心度

- ✓ パラリンピック競技への興味・関心があるのは約4割。
- ✓ パラリンピック 22 競技の中で、車いすテニスは、比較的興味・関心が高い競技となっている（全体で13.5%。陸上競技、水泳に次いで3番目）。

○飯塚国際車いすテニス大会の認知度

- ✓ 飯塚国際車いすテニス大会の認知度は、飯塚市で7割、筑豊地域で6割であるが、筑豊地域以外では3割程度となっている。

○現地観戦経験者の行動

- ✓ 現地観戦経験者は、飯塚市居住者で2割、筑豊地域以外では2%程度となっている。
- ✓ 現地観戦時に、周辺の観光をしたのは2割程度であり、訪問先は、旧伊藤伝右衛門邸、嘉穂劇場など主要観光施設が多い。女性はより多くの観光地を訪問している。
- ✓ 観戦時に観光をしなかった場合、その理由は「時間」、「魅力」「情報」などがいずれも2割程度となっている。

○今後の現地観戦意向

- ✓ 現地での観戦意向は（積極、消極含めて）4割程度であるが、年齢階層が低い層、車いすテニスに興味がある層、観戦経験があるほど観戦意向は高い。現地観戦経験がある場合、積極的な観戦意向者だけで4割近くに上る。

○観戦時に合わせてしてみたいこと

- ✓ 現地観戦の際に併せてしてみたいこととして、「関連イベント（食、音楽など）」が4割、「市内や周辺の観光」が3割。選手との交流や体験のニーズも2割程度見られる。
- ✓ 大会観戦がより楽しくなる要素としては、「おいしい食や料理が味わえること」が5割を超え、「歴史や文化に触れる」「子供が楽しめる」「のんびりしたりリラックスする」「美しい街並みや風景を見る」「施設間の移動がしやすい」もそれぞれ3割程度となっている。

○現地観戦したくない理由

- ✓ 現地観戦意向がない人の理由としては、「興味がない」（5割）「テレビで見ればよい」（3割）以外では、「会場が遠い・行きにくい」が2割、「大会に魅力を感じない、よくわからない」が1割程度見られている。
- ✓ 現地観戦意向がない人のうち、約1割は、「大会の魅力が高まること」「周辺の観光レジャーの魅力が高まること」「周辺の観光レジャーの情報が手に入ること」「大会の関連イベントを楽しめること」が、観戦に行こうと思うきっかけになるとしている。
- ✓ 観光要素については特に「食に関する魅力向上」が観戦のきっかけになるとしている。

2. ホストタウンについてのアンケート調査

(1) 調査概要

<調査方法>

- ・ インターネット WEB アンケート調査

<調査期間>

- ・ 2019年3月8日～3月10日

<調査対象>

- ・ (株)クロス・マーケティングが保有するアンケートパネルのうち、九州7県内に居住する15歳～69歳 2,297名
Q7以降は、ホストタウンの訪問意向あり1,000名を対象に実施

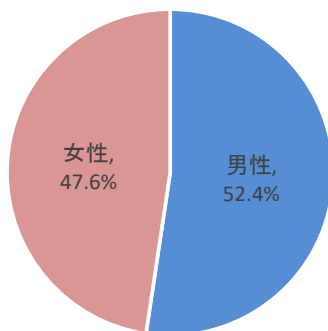
<調査項目>

- ・ ホストタウンへの興味、ホストタウン訪問の条件、訪問時の周辺観光ニーズ、ホストタウンにおける国際交流意識等

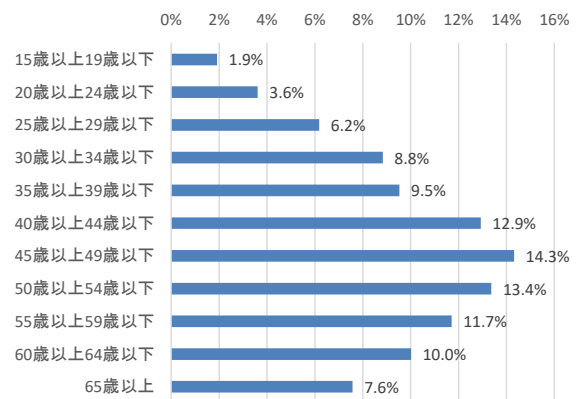
(2) 回答者属性

(いずれも N=2297)

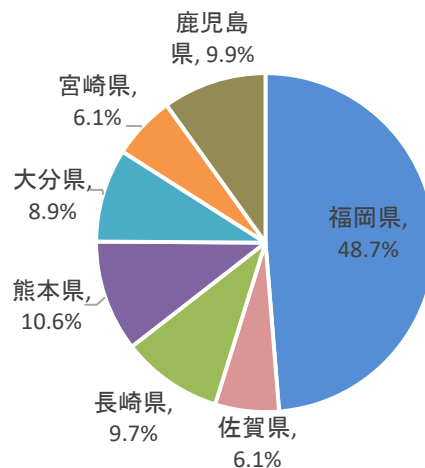
【性別】



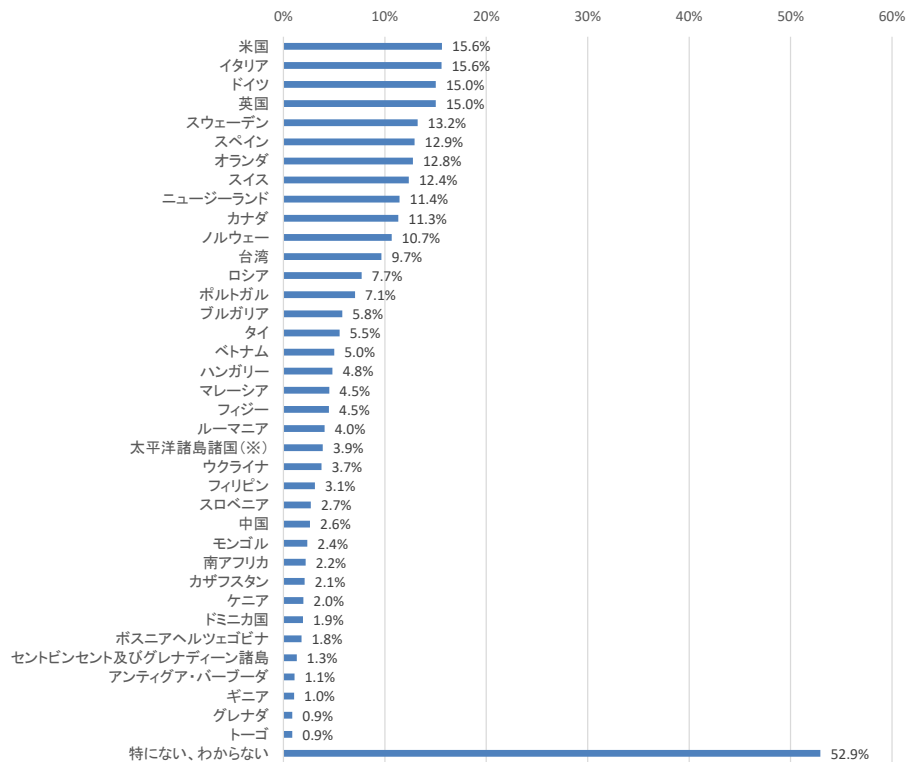
【年齢】



【居住地】



【九州内のホストタウンの相手国・地域のうち、興味のある国・地域】



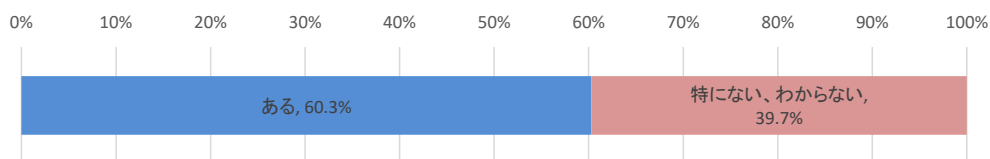
※太平洋諸島諸国

…米領サモア、パラオ、クック諸島、パプアニューギニア、ミクロネシア、サモア、フィジー、ソロモン諸島、グアム、トンガ、キリバス、ツバル、マーシャル諸島、バヌアツ、ナウル

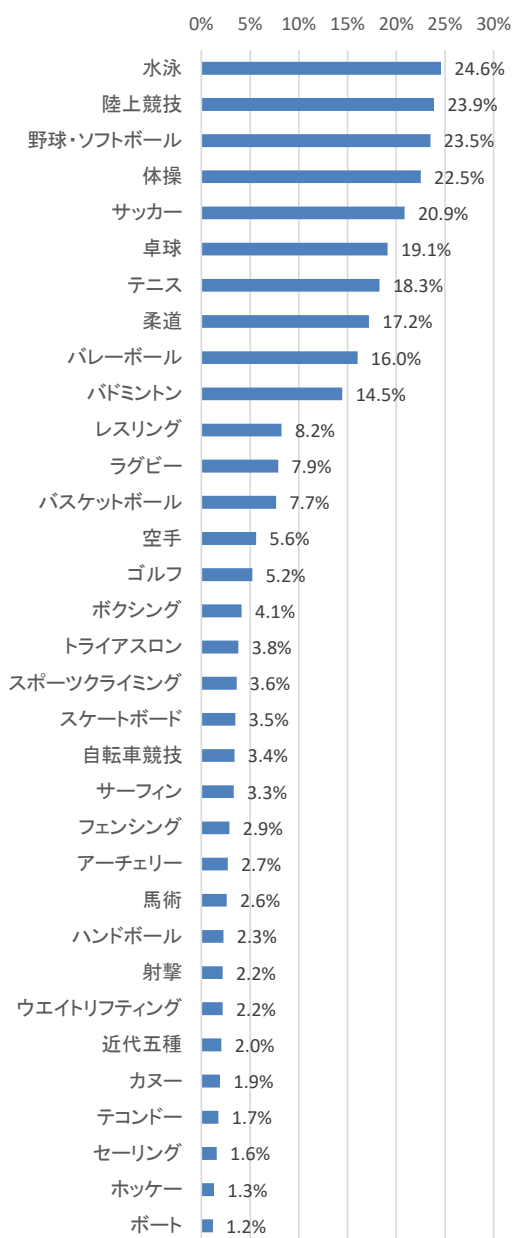
<参考：九州内のホストタウン（県単位での登録を除く）2019年2月28日時点>

県	市町村	相手国・地域	県	市町村	相手国・地域
福岡県	福岡市	スウェーデン	大分県	大分市	ポルトガル
	福岡市	ノルウェー		大分市	ロシア
	久留米市	ケニア		大分市	イタリア
	久留米市	カザフスタン		大分市	米国
	柳川市	太平洋諸島諸国(※)		大分市	ハンガリー
	みやま市	太平洋諸島諸国(※)		大分市	ルーマニア
	みやこ町	太平洋諸島諸国(※)		大分市	ウクライナ
	築上町	太平洋諸島諸国(※)		大分市	フィジー
	北九州市	タイ		別府市	フィジー
	飯塚市	南アフリカ		中津市	マレーシア
	田川市	ドイツ		大分市	スイス
	宗像市	ブルガリア		別府市	ニュージーランド
	宗像市	ロシア		宇佐市	モンゴル
	福津市	ルーマニア		宮崎市	ドイツ
古賀市	ルーマニア	延岡市	ドイツ		
佐賀県	佐賀市	オランダ	宮崎県	小林市	ドイツ
	佐賀市	フィジー		宮崎市	英国
	佐賀市	ニュージーランド		宮崎市	カナダ
	嬉野市	オランダ		宮崎市	イタリア
	嬉野市	フィジー		日南市	イタリア
	嬉野市	ニュージーランド		西都市	イタリア
	長崎市	ベトナム		都城市	モンゴル
佐世保市	ベトナム	日向市	米国		
島原市	ベトナム	日向市	トーゴ		
諫早市	ベトナム	鹿児島県	鹿屋市	スロベニア	
大村市	ベトナム		鹿屋市	タイ	
杵崎市	ベトナム		西之表市	ポルトガル	
雲仙市	ベトナム		薩摩川内市	中国	
南島原市	ベトナム		大崎町	台湾	
川棚町	ベトナム		三島村	ギニア	
長崎市	ポルトガル		徳之島町	セントビンセント及びグレナディーン諸島	
大村市	ポルトガル		伊仙町	ボスニアヘルツェゴビナ	
島原市	スペイン		和泊町	ドミニカ国	
諫早市	フィリピン		知名町	グレナダ	
			与論町	アンティグア・バーブーダ	

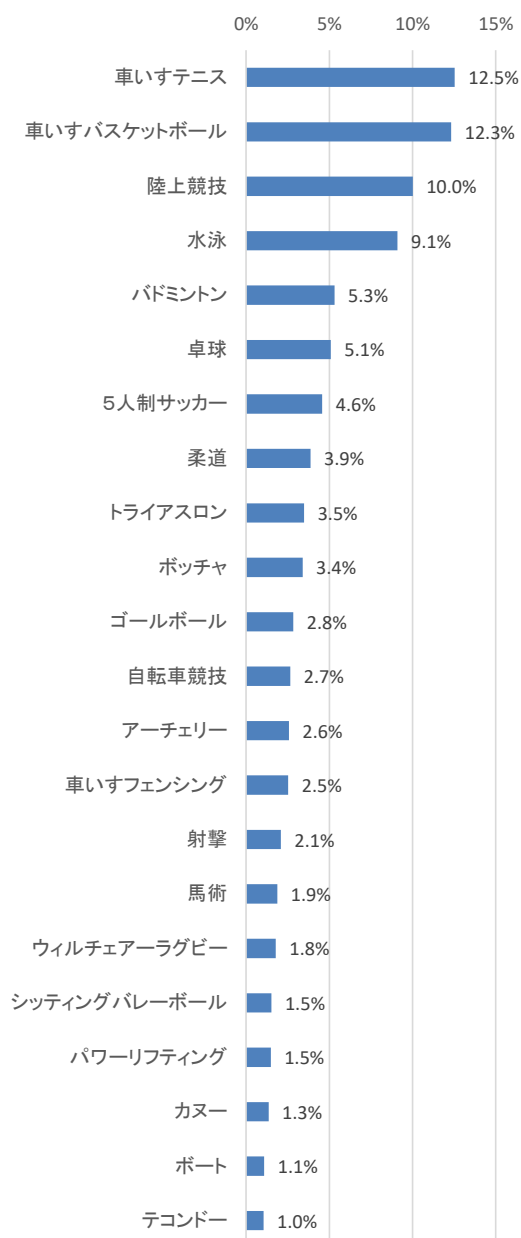
【東京大会の実施競技のうち、興味のある競技の有無】



【興味のある競技：オリンピック競技】



【興味のある競技：パラリンピック競技】



(3) 集計結果

① ホストタウンを訪問しようとした場合に重視する要素

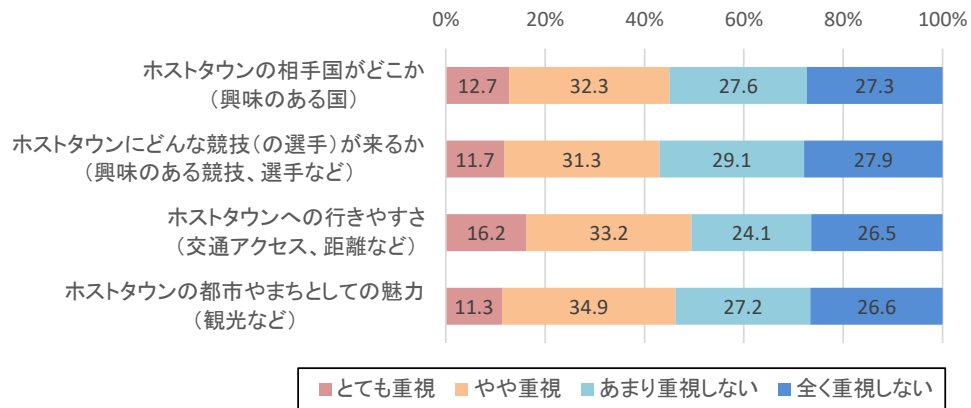
SC5 あなたが、仮に、先程のホストタウンで行われる事前合宿の見学や、相手国との交流イベントに参加しようとした場合、以下のことは、それぞれどの程度重視しますか。(SA)

仮に、九州内のホストタウンで行われる事前合宿の見学や、相手国との交流イベントに参加しようとした場合に、「相手国」「競技（選手）」「行きやすさ」「都市やまちとしての魅力」の各要素項目についてどの程度重視するか尋ねたところ、各項目とも、「全く重視しない」が3割近くを占め、「とても重視」「やや重視」の合計もおおむね半数程度となっており、重視度が特に高い要素は見られない。

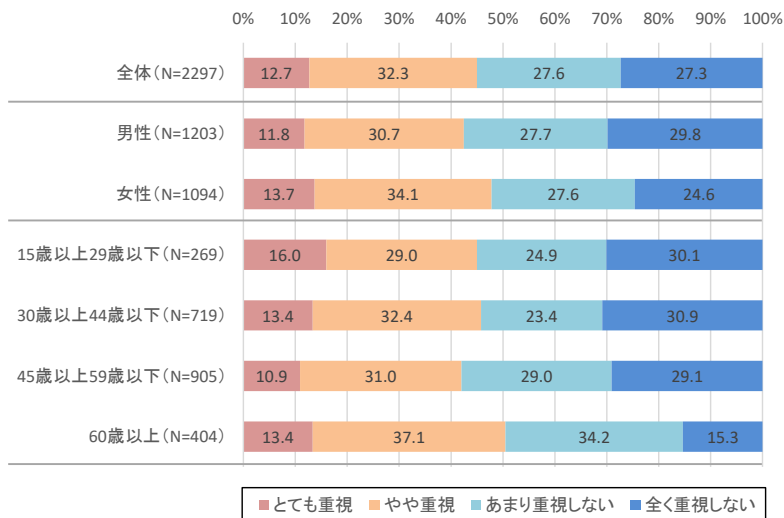
その中で、「行きやすさ」については、「とても重視」が16%と最も多いなど、やや重視度が高い。

各項目について男女別でみると、男性よりも女性のほうが全体的な重視度が高い。

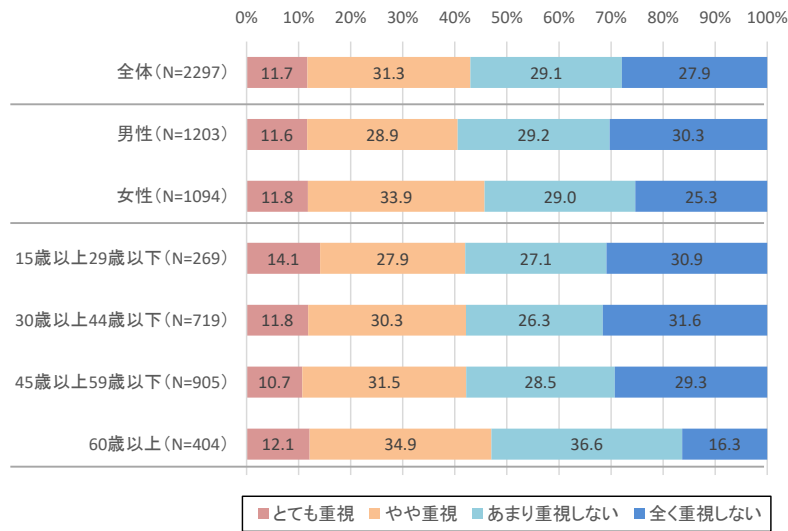
また、年齢階層別にみると、60歳以上で、全体的に重視度が高い。



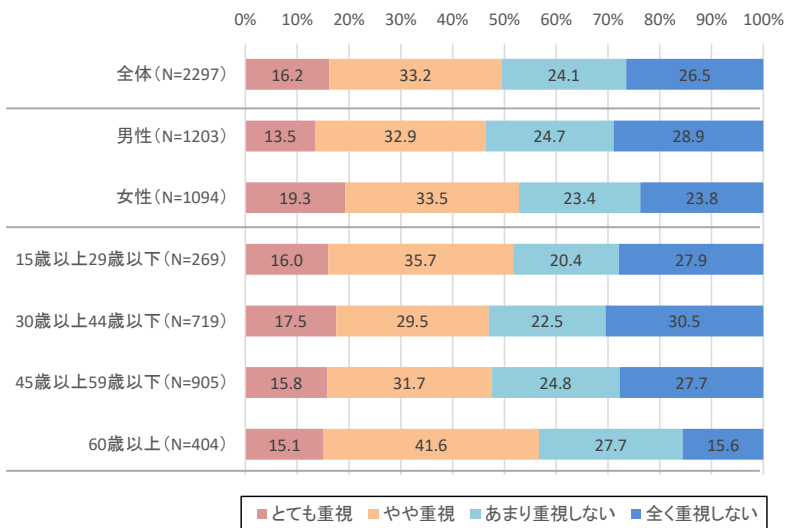
< 「相手国がどこか」 >



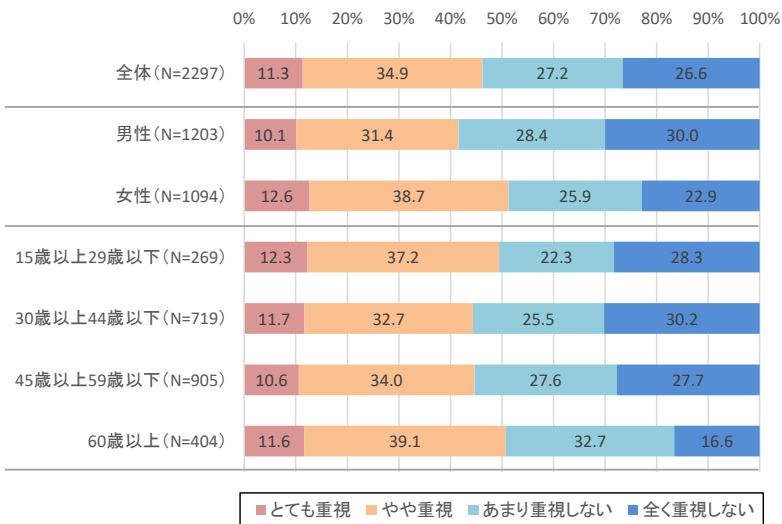
< 「どんな競技 (の選手) が来るか」 >



< 「行きやすさ」 >



< 「都市やまちとしての魅力」 >



② 興味のある国・地域 - 南アフリカ、ドイツ

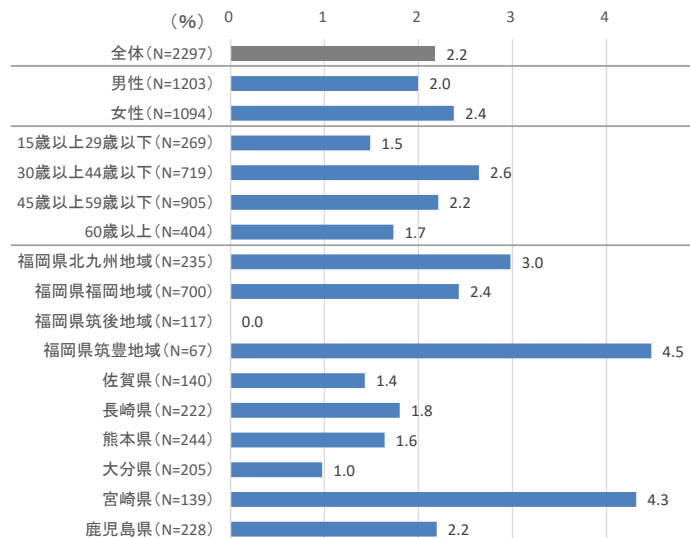
SC6 以下の国・地域（九州内のホストタウンの相手国・地域）のうち、あなたが興味のある国・地域はありますか。(MA)

※飯塚市の相手国である南アフリカ、延岡市の相手国であるドイツについて集計

i) 南アフリカ（飯塚市のホストタウン相手国）

南アフリカについては、全体の興味は 2.2%で、九州内のホストタウン相手国となっている 37 の国・地域のうちの 28 番目となっている（回答者属性参照）。

男女別では女性のほうが、年齢階層別では 30～44 歳の興味がやや高いほか、地域別でみると福岡県筑豊地域、宮崎県で特に割合が高くなっている。

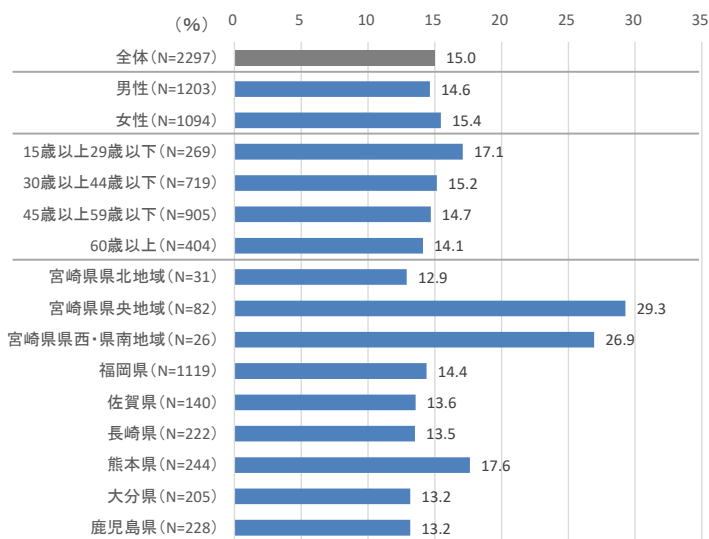


ii) ドイツ（延岡市（ほか、田川市、宮崎市、小林市）のホストタウン相手国）

ドイツについては、全体の興味は 15.0%で、九州内のホストタウン相手国となっている 37 の国・地域のうちの 3 番目となっている（回答者属性参照）。

男女別では女性、年齢階層別では年齢が低いほど興味が高い。

地域別でみると宮崎県県央地域、県西・県内地域で特に割合が高くなっている。



＜宮崎県県北地域＞
延岡市、日向市、東臼杵郡（門川町ほか）、西臼杵郡（高千穂町ほか）
＜宮崎県県央地域＞
宮崎市、西都市、東諸県郡（国富町ほか）、児湯郡（高鍋町ほか）
＜宮崎県県西地域＞：
都城市、小林市、えびの市、北諸県郡（三股町）、西諸県郡（高原町）
＜宮崎県県南地域＞
日南市、串間市

③ 興味のある競技 - 車いすテニス、柔道

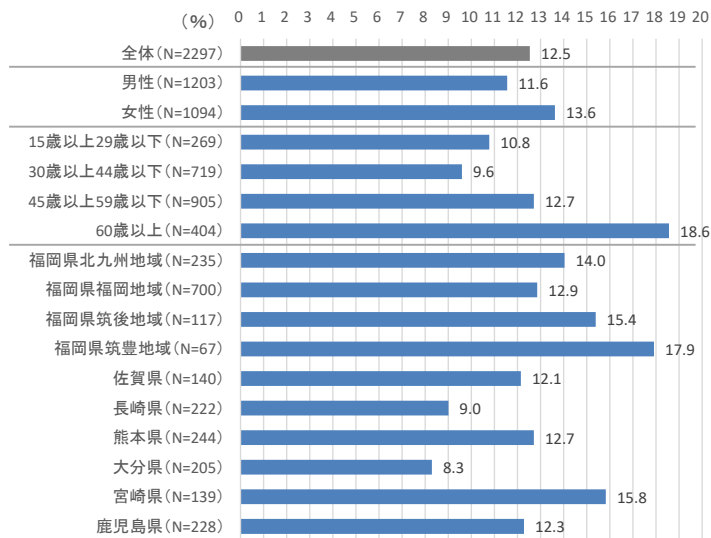
SC7 以下の競技（東京大会の競技）のうち、あなたが興味のある競技はありますか。
(MA)

※飯塚市の誘致競技である車いすテニス、延岡市の誘致競技である柔道について集計

i) 車いすテニス

車いすテニスについては、全体の興味は 12.5%で、パラリンピック 22 競技中 1 番目、オリンピック 33 競技を含めた 55 競技中でも 11 番目となっている。

年齢階層別では 60 歳以上の興味がやや高く、地域別でみると福岡県筑豊地域で特に割合が高くなっている。

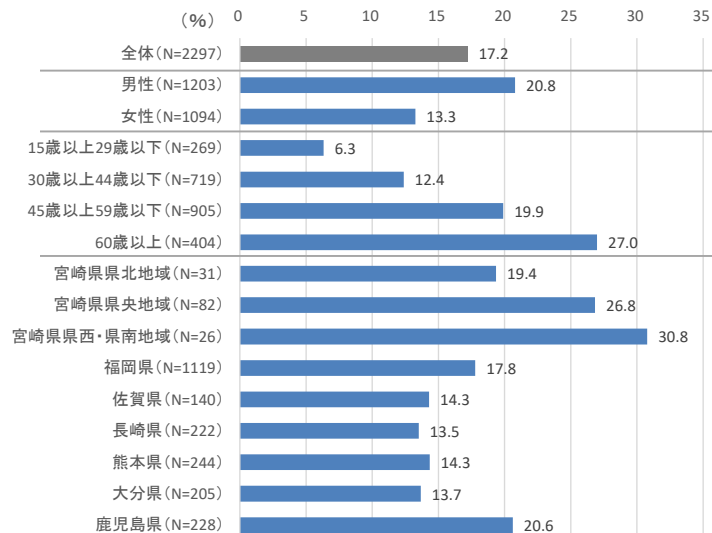


ii) 柔道

柔道については、全体の興味は 17.2%で、オリンピック 33 競技中 8 番目となっている（パラ柔道については 3.9%）。

男女別では男性の興味が高く、年齢階層別では年齢が高いほど興味が高い。

地域別でみると、宮崎県県央地域、県西・県内地域で特に割合が高くなっている。



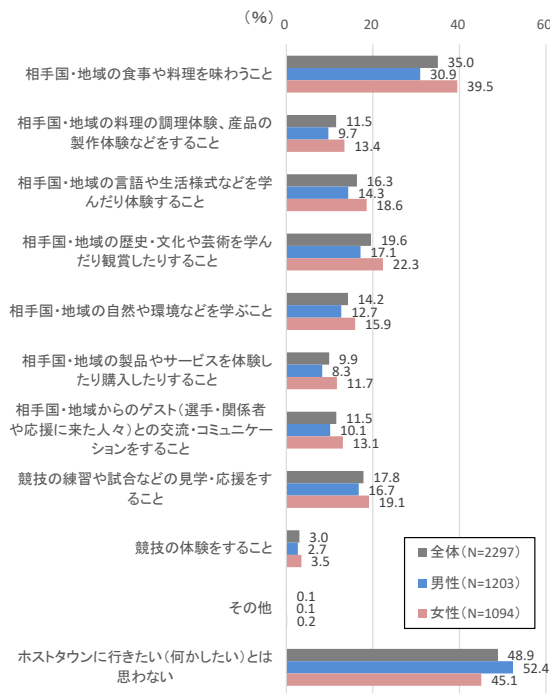
④ ホストタウンに行ってみてみたいと思うこと

SC8 あなたが、実際にホストタウンに行って、してみたいと思うことは何ですか。
(MA)

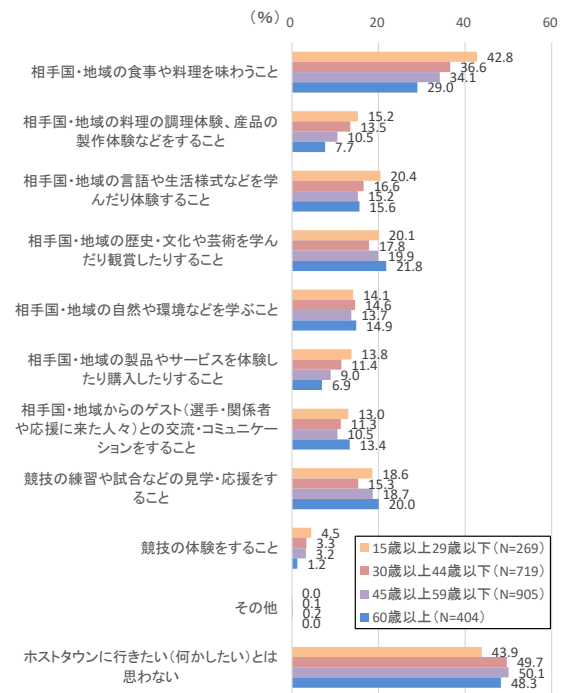
実際にホストタウンに行って、してみたいと思うことについて尋ねたところ、全体の約半数がホストタウンへの訪問意向を有しており、具体的なニーズとしては「相手国・地域の食事や料理を味わうこと」が35%で最も多く、次いで「相手国・地域の歴史・文化や芸術を学んだり鑑賞したりすること」「競技の練習や試合などの見学・応援をすること」の順となっている。

男女別で見ると、男性より女性が、年齢階層別では年齢が高いほうが、各要素の回答割合が高く、女性やシニア層は、ホストタウン訪問時に多様な活動をしたいと考えていることがうかがえる。

【全体・男女別】



【年齢階層別】



⑤ ホストタウン訪問の動機づけになると思う要素

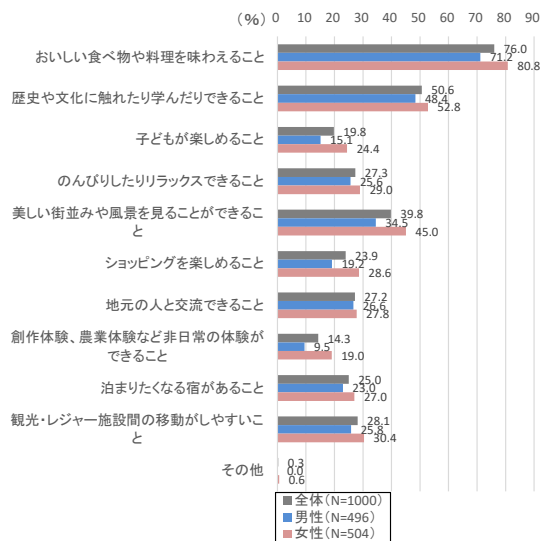
※ 以降 Q1～Q6 は、SC8 で「ホストタウンに行きたい（何かしたい）とは思わない」と回答した方以外（実際にホストタウンに行つて、何かしらしてみたいことがある方）1,000 人を対象として実施

Q1 （「実際にホストタウンに行つて、何かしらしてみたいこと」がある方にお尋ねします。）ホストタウンでは、ホストタウンならではのことで、どういったことができるか、実際に行つたり、参加したりする動機づけになると思いますか。（MA）

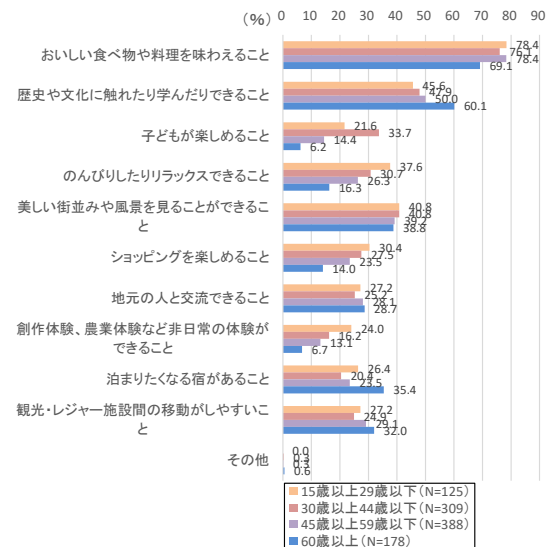
実際にホストタウンに行つてみたいという意向を有する方に、ホストタウンでどういったことができるか訪問の動機づけになると思うか尋ねたところ、「おいしい食べ物や料理を味わえること」が76%で最も多く、次いで「歴史や文化に触れたり学んだりできること」「美しい街並みや風景を見ることができること」の順となっている。

男女別でみると、女性のほうが男性よりも多様な要素を期待していることがうかがえる。年齢階層別でみると、「のんびりしたりリラックスできること」「ショッピングを楽しむこと」「創作体験、農業体験など非日常の体験ができること」は年齢が低いほど回答割合が高く、「歴史や文化に触れたり学んだりできること」は年齢が高いほど回答割合が高い。

【全体・男女別】



【年齢階層別】



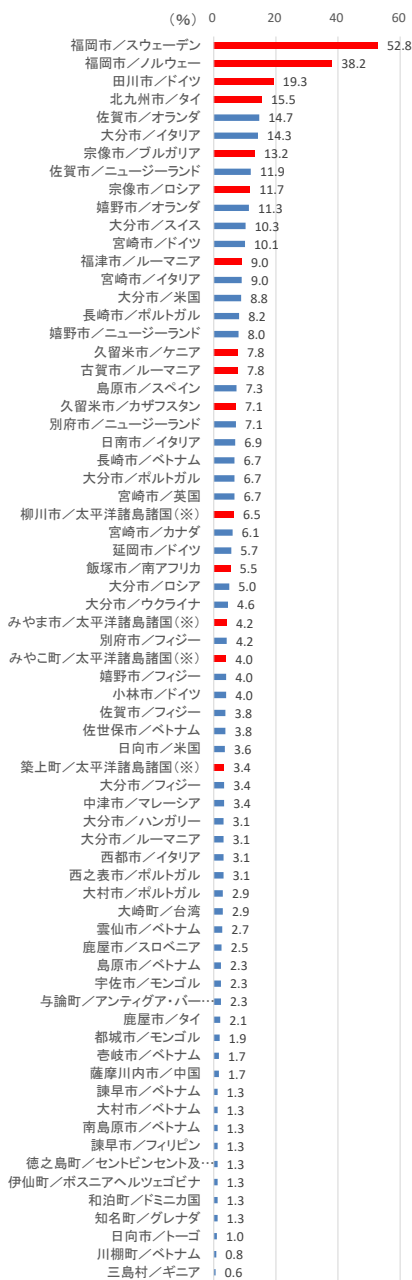
⑥ 実際に行ってみたいと思う九州内のホストタウン

Q2 「実際にホストタウンに行ってみて、何かしらしてみたいこと」がある方にお尋ねします。以下の中で、あなたが実際に行ってみたい（見学や交流に参加したい）と思うホストタウン（と相手国・地域の組み合わせ）はどれですか。（MA）

実際にホストタウンに行ってみてみたいという意向を有する方に、実際に行ってみたいホストタウン（と相手国・地域の組み合わせ）を尋ねたところ、全般的に居住地周辺の大都市と興味・関心の高い国の組み合わせが上位となっている。

一方で、同一県内でも、アクセスがしにくい地域や、興味・関心がそれほど高くない国・地域は、回答割合も低くなっている。

【福岡県居住者 (N=477)】



【宮崎県居住者 (N=66)】

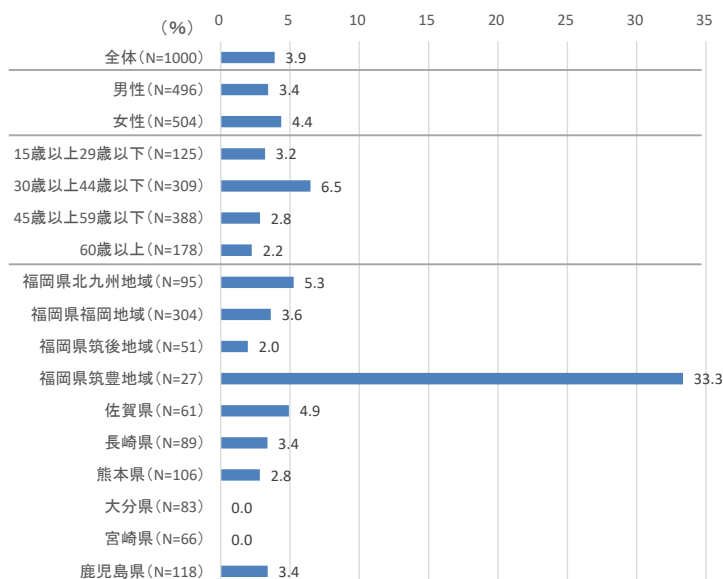


(赤のグラフは、当該県内のホストタウン)

<飯塚市と回答した方のカテゴリ別割合>

実際に行ってみたいと思うホストタウンとして、飯塚市を回答したのは全体の3.9%となっている。

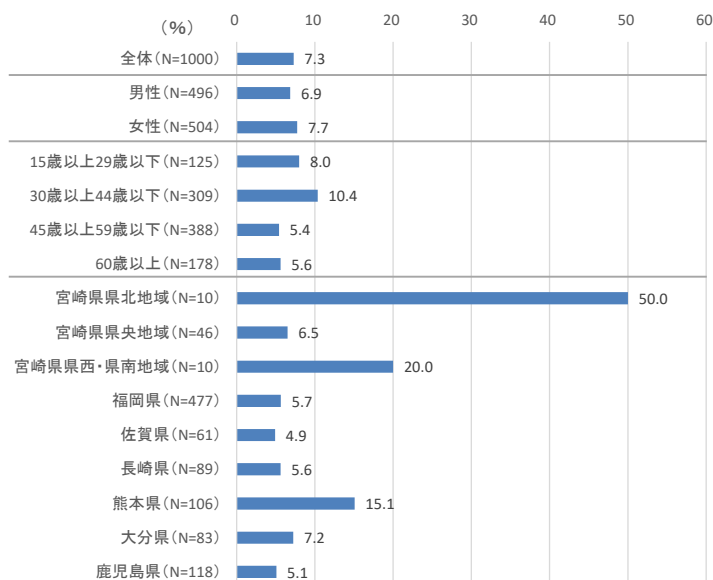
居住地域別で見ると福岡県筑豊地域の居住者の3割超が「実際に行ってみたい」としているが、福岡県内の他の地域の回答割合は高くない。



<延岡市と回答した方のカテゴリ別割合>

実際に行ってみたいと思うホストタウンとして、延岡市と回答したのは全体の7.3%となっている。

居住地域別で見ると宮崎県北地域の居住者の5割、同県西・県南地域居住者の2割が「実際に行ってみたい」としているほか、熊本県居住者も15%となっている。

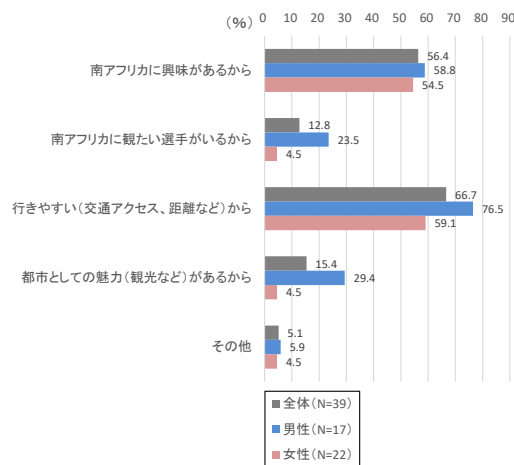


⑦ 飯塚市に行ってみたくと思った理由

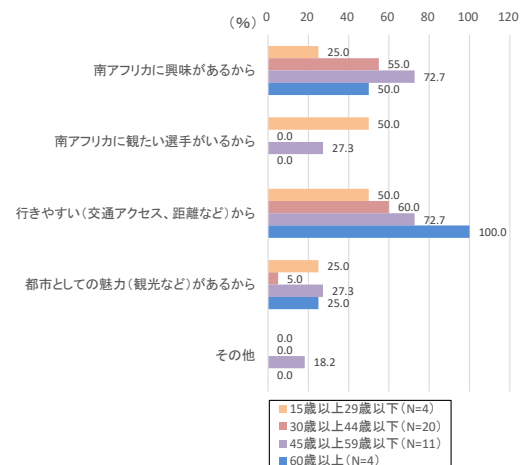
Q5 飯塚市（ホストタウン相手国：南アフリカ）に行ってみたくと思ったのはなぜですか。（MA）

Q2 で、実際に行ってみたくと思うホストタウンとして、飯塚市と回答した方（N=39）に、その理由を尋ねたところ、「行きやすい（交通アクセス、距離など）から」が 67% で最も多く、次いで「南アフリカに興味があるから」が 56% となっている。

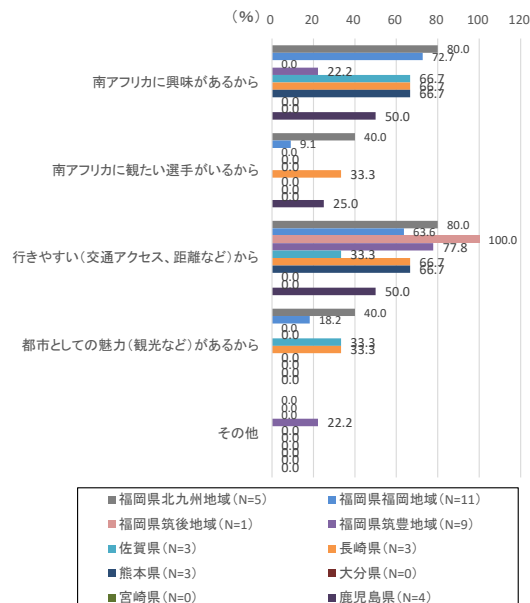
【全体・男女別】



【年齢階層別】



【居住地別】

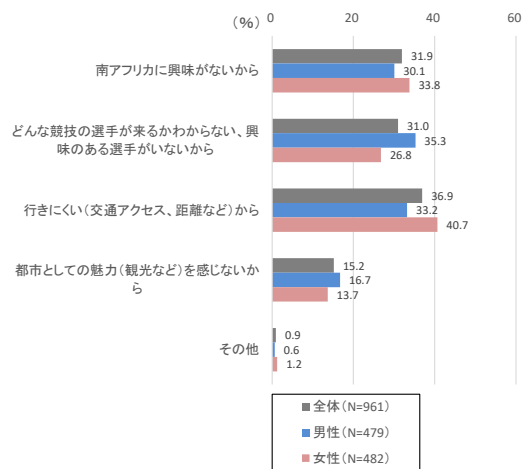


⑧ 飯塚市に行ってみたくと思わなかった理由

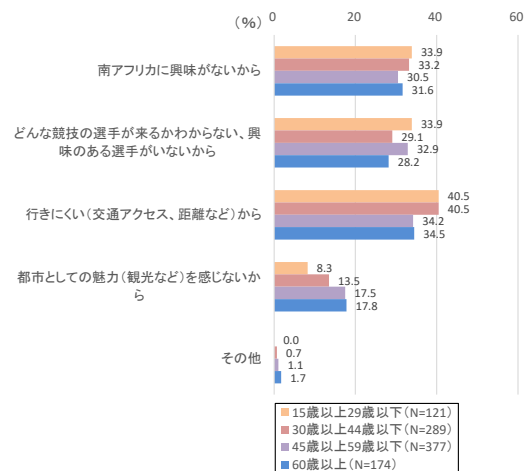
Q6 飯塚市（ホストタウン相手国：南アフリカ）に行ってみたくと思わなかったのはなぜですか。（MA）

Q2 で、実際に行ってみたくと思うホストタウンとして、飯塚市と回答しなかった方（N=961）に、その理由を尋ねたところ、「行きにくい（交通アクセス、距離など）から」が37%で最も多いが、「南アフリカに興味がないから」「どんな競技の選手が来るかわからない、興味のある選手がいないから」もいずれも3割程度みられている。

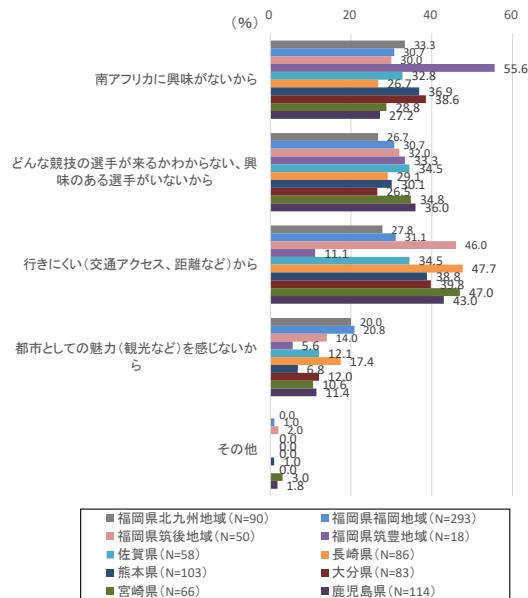
【全体・男女別】



【年齢階層別】



【居住地別】



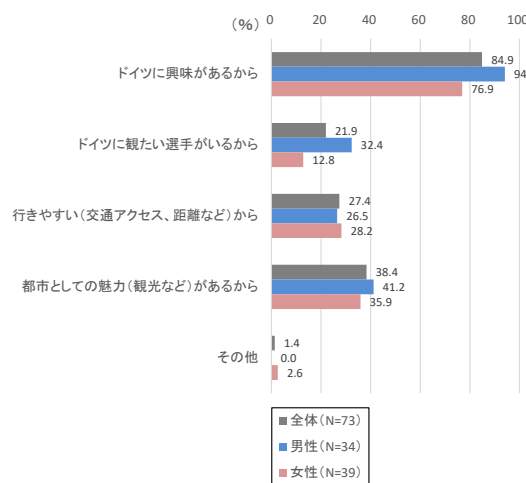
⑨ 延岡市に行ってみたくと思った理由

Q3 延岡市（ホストタウン相手国：ドイツ）に行ってみたくと思ったのはなぜですか。
 (MA)

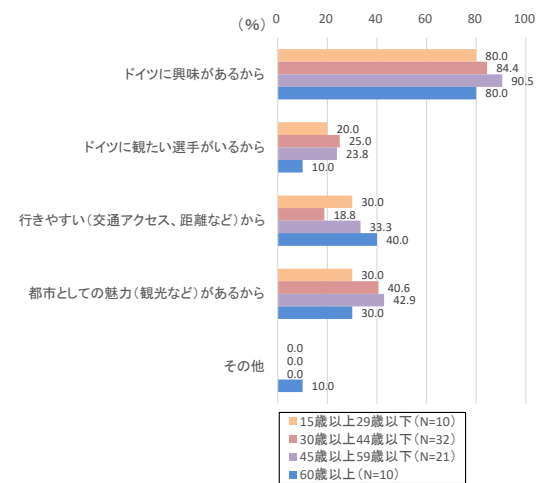
Q2 で、実際に行ってみたくと思うホストタウンとして、延岡市と回答した方（N=73）に、その理由を尋ねたところ、「ドイツに興味があるから」が 85%で最も多く、他の理由と比べて突出している。

居住地別にみると、（一部サンプル数が少なく統計的な妥当性は高くないが、）宮崎県北地域や大分県居住者は、「行きやすいから」との回答割合が高いほか、熊本県居住者は「都市やまちな魅力があるから」の割合が高くなっている。

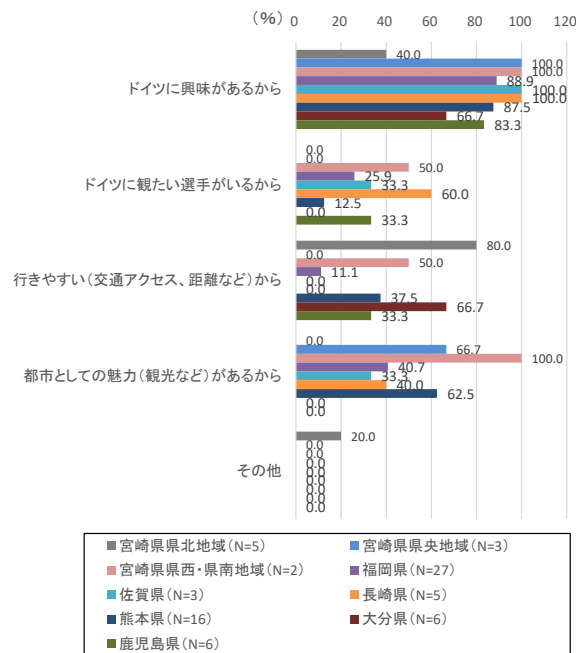
【全体・男女別】



【年齢階層別】



【居住地別】

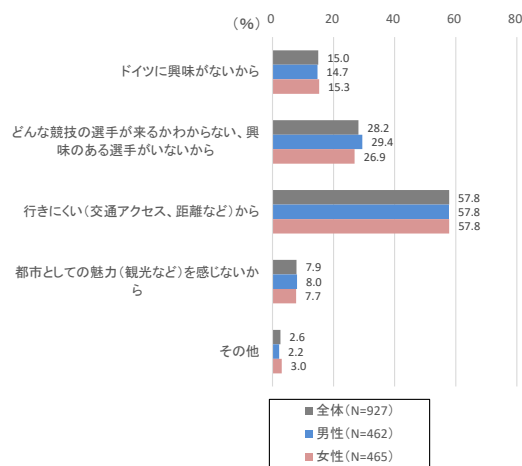


⑩ 延岡市に行ってみたくと思わなかった理由

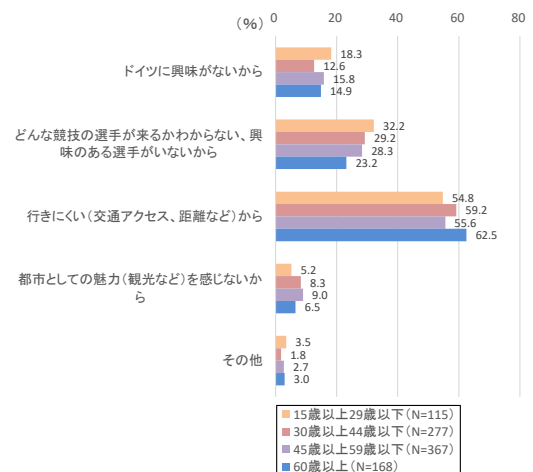
Q4 延岡市（ホストタウン相手国：ドイツ）に行ってみたくと思わなかったのはなぜですか。（MA）

Q2 で、実際に行ってみたくと思うホストタウンとして、延岡市と回答しなかった方（N=927）に、その理由を尋ねたところ、「行きにくい（交通アクセス、距離など）から」が58%で最も多く、他の理由と比べて突出している。

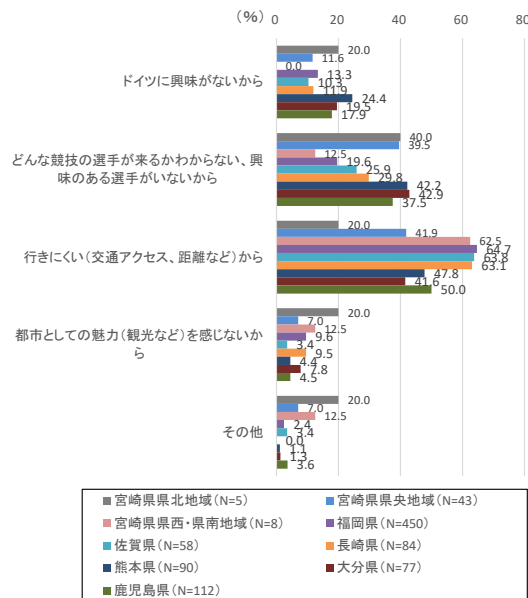
【全体・男女別】



【年齢階層別】



【居住地別】



⑪ ホストタウン居住者の意識

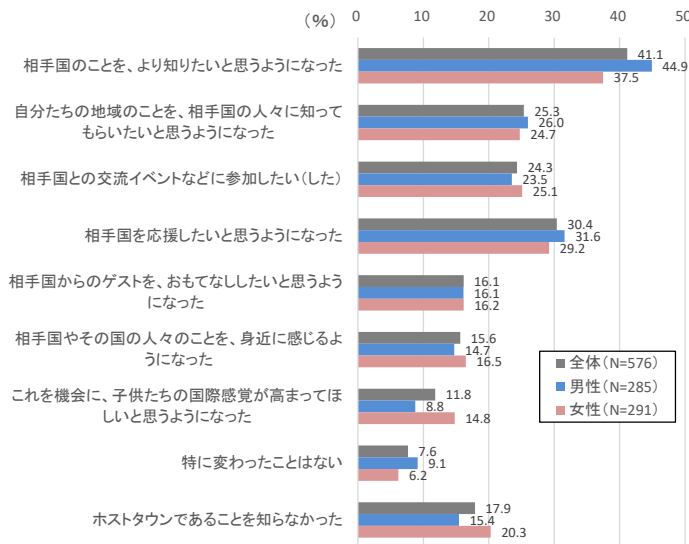
※ 以降 Q7～Q8 は、居住地がホストタウンである回答者 576 人を対象として実施

Q7 ホストタウンになっていることに関して、あなた自身のことについて、以下のうちあてはまるものをすべて選んでください。(MA)

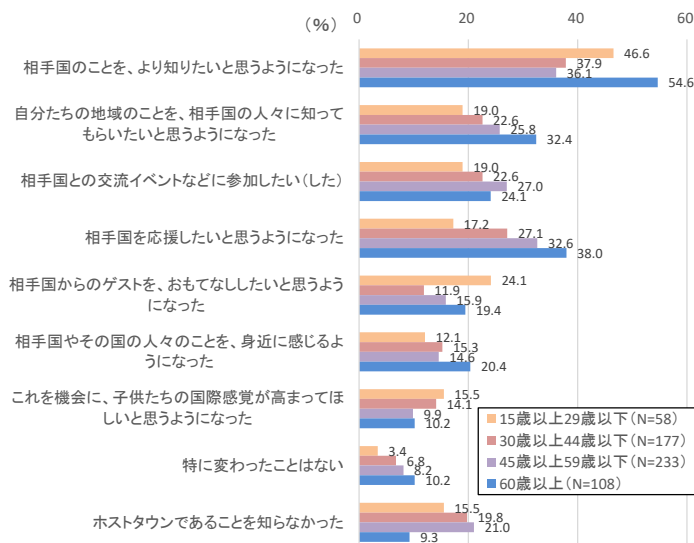
ホストタウンに居住している方に、ホストタウン居住者としての意識について尋ねたところ、「相手国のことを、より知りたいと思うようになった」が 41%で最も多く、次いで「相手国を応援したいと思うようになった」「自分たちの地域のことを、相手国の人々に知ってもらいたいと思うようになった」の順となっており、国際交流意識の契機となっていることがうかがえる。

一方で、「ホストタウンであることを知らなかった」も 18%みられており、より一層の周知が必要といえる。

【全体・男女別】



【年齢階層別】

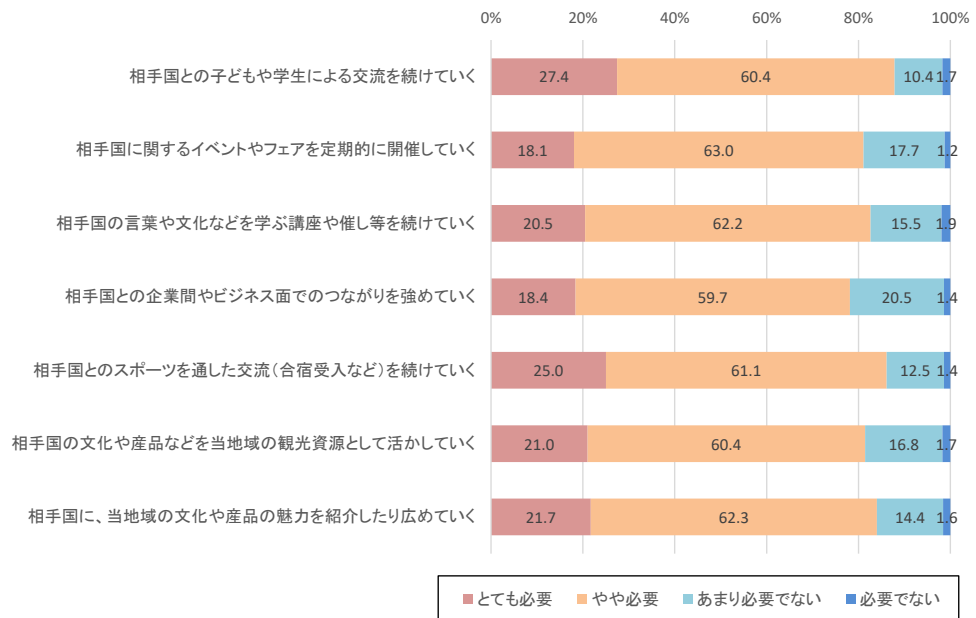


⑫ 東京大会終了後のホストタウン相手国・地域との関わり方

Q8 東京大会終了後、あなたの市町村では、ホストタウン相手国・地域とどのように関わりつづけることが必要だと思いますか。(各 SA)

ホストタウンに居住している方に、東京大会終了後のホストタウン相手国・地域との関わりについて、7つの要素についてその必要性を尋ねたところ、各項目とも「とても必要」「やや必要」をあわせて8割程度となっており、継続的な交流や関りを望んでいることがうかがえる。

このうち、「相手国の子どもや学生による交流を続けていく」「相手国とのスポーツを通じた交流を続けていく」は「とても必要」が25%以上であり、「やや必要」を合わせると9割近くに上り、特にニーズが高い。



(4) 集計結果まとめ

○興味のある国・地域

- ✓ 全体では、米国、イタリア、ドイツ、英国など、欧米の主要国の回答割合が高い。
- ✓ 飯塚市のホストタウン相手国である南アフリカは 2%、延岡市のホストタウン相手国であるドイツは 15%であるが、それぞれの周辺地域居住者の回答割合はやや高くなっている。

○興味のある競技

- ✓ オリンピック競技では水泳、陸上競技、野球・ソフトボール、体操、サッカーがいずれも 2 割を超えている。
- ✓ パラリンピック競技では、車いすテニス、車いすバスケットボール、陸上競技が 1 割を超えている。
- ✓ 飯塚市が誘致している車いすテニスは 13%で、福岡県筑豊地域居住者や 60 歳以上で回答割合が高い。延岡市が誘致している柔道は 17%で、男性、シニア層、宮崎県居住者で割合がやや高い。

○ホストタウンに行ってみてみたいと思うこと

- ✓ 約半数がホストタウン訪問意向を有しており、訪問時には「ホストタウン相手国・地域の食事や料理を味わうこと」のニーズが 3 割程度見られている。
- ✓ また訪問の動機づけとなる要素としては、ホストタウンならではの食や歴史・文化へのニーズが高い。

○実際に行ってみてみたいと思うホストタウン（ホストタウンへの訪問意向）

- ✓ 全体として、実際に行ってみてみたいと思うホストタウンは、居住地周辺の大都市で、興味・関心が高い国の組み合わせが上位となっている。

<飯塚市訪問意向>

- ✓ 飯塚市訪問意向は、福岡県筑豊地域が 3 割であるが、ほかの福岡県内の回答割合は高くない。
- ✓ 飯塚市に行ってみてみたいと思う理由としては、「南アフリカに興味がある」「行きやすい」が多いが、行ってみたいと思わない理由としては、「南アフリカに興味がないから」「どんな競技の選手が来るかわからない、興味のある選手がいないから」「行きにくい」などがそれぞれ 3 割超となっている。

<延岡市訪問意向>

- ✓ 延岡市訪問意向は、宮崎県県北地域が 5 割であるほか、同県西・県内地域居住者が 20%、熊本県居住者が 15%となっている。
- ✓ 延岡市に行ってみてみたいと思う理由としては、「ドイツに興味がある」が 8 割超と突出している。行ってみたいと思わない理由としては、「行きにくい」が 6 割と突出しており、それぞれ理由が明確となっている。

○ホストタウン居住者の意識

- ✓ ホストタウン居住者においては、ホストタウン登録が、相手国の理解促進など国際交流の契機となっている。また、東京大会終了後も子供やスポーツを通じた交流など、交流を継続していくべきというニーズが高い。

IV. 対象団体における、東京大会を契機とした観光・交流人口の 拡大方策の検討

1. 飯塚市における観光・交流人口拡大方策の検討

(1) 課題と観光・交流人口拡大の方向性

① 飯塚国際車いすテニス大会に関する観光面からの現状・課題

<大会の認知度、現地観戦意向>

- ・ 福岡県内居住者のうち、車いすテニスへの興味・関心を有しているのは13%、飯塚国際車いすテニス大会の認知度は35%程度となっている。
- ・ 今後の現地観戦意向は約4割みられるが、うち積極的な現地観戦意向は全体で3%程度となっている。ただし、車いすテニスに興味・関心を有している場合は7%、過去に現地観戦経験がある場合は43%と、競技への興味・関心や観戦経験の有無によって、現地観戦意向に大きな違いがある。

<大会の集客状況>

- ・ 2018年度の観客数は6,200人で、日本人選手の活躍や天皇杯・皇后杯が下賜されたこと、また東京大会が近づく中で、以前よりも増加している。
- ・ ただし、現状の観客やボランティアの多くは飯塚市民であり、観光集客や域内消費の機会とはなっていない
- ・ 市民や市内事業者において、大会を集客コンテンツとして活用しよう、あるいは観客により楽しんでもらおうという意識はあまり高くない。

<観光の課題と車いすテニス大会を通じた観光交流人口拡大への期待>

- ・ 飯塚市の観光入込客数は、2014年をピークに減少傾向となっている。
- ・ 観光入込客数のうち、ゴルフやオートレースといったスポーツ・レクリエーション目的が全体の半数近くを占めており、旧伊藤伝右衛門邸や嘉穂劇場など、まちなかやその周辺の観光スポットには、域外からの観光客をあまり呼び込めていない。また、飯塚国際車いすテニス大会の観戦経験者へのアンケートでも、観戦時に市内や周辺で観光をしたのは2割程度となっている。
- ・ 一方で、今後の飯塚国際車いすテニス大会の現地観戦の動機となりうることで、食や料理などの観光要素の魅力向上や大会関連イベントの開催が比較的多く挙げられている。
- ・ 車いすテニス大会のPRとあわせて、食や料理、歴史・文化など、飯塚市らしい観光資源のさらなるPRや磨き上げ、さらには市民を巻き込んだ新しい来訪価値の提案を行うことにより、新たな観戦客の獲得や域内消費の掘り起しにつながることを期待される。

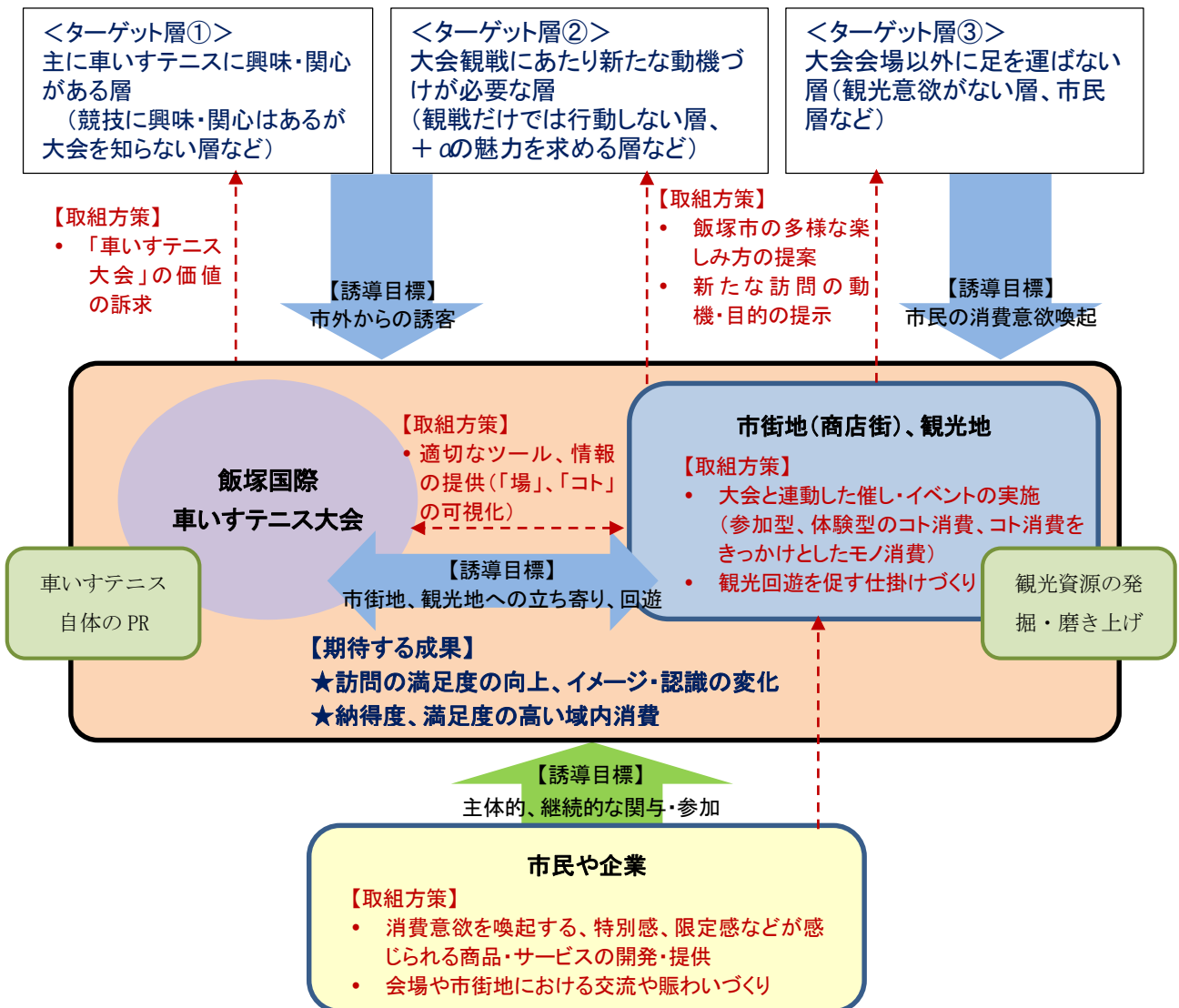
② 観光・交流人口拡大の方向性

○飯塚国際車いすテニス大会の市外からの集客を増やしていく

- ・ まずは、車いすテニスに興味・関心がある層に対し、大会の価値や魅力を適切に訴求し、市外からの集客につなげていく

○車いすテニス大会と連動し、市内の観光需要を掘り起こしていく

- ・ 車いすテニス大会開催と連動し、市内観光施設への立ち寄りや消費を促す仕掛けを創出することなどにより、大会会場だけでなく市内を回遊したりするための新たな動機づけ、あるいは大会自体ではないコンテンツによる飯塚市来訪の動機づけを行い、市内の観光需要を掘り起こすとともに、経済的な効果につなげていく
- ・ その際、来訪者のほか、市民や企業も、新たな交流や賑わいづくりに主体的に参加できるような仕掛けづくりを進めていく



(2) 展開方策

① 車いすテニス大会と都市の PR・プロモーション

車いすテニスに対する興味・関心は13%で、パラリンピック競技の中では興味・関心が高いほうであるが、大会観戦者の拡大にあたっては、まずはこの興味・関心の一層の喚起（対象市場の底上げ）が必要である。筑豊地域以外居住者の大会の認知度は3割程度であることから、こうした層に対して、「大会の価値」を効果的にPRし、観戦意識を喚起することが必要である。例えば、SNSなども活用して、過去の大会での名場面動画や大会注目選手の紹介記事の発信など、大会により興味を持てるような情報発信を行うことが考えられる。

アンケート調査によると、車いすテニスに興味・関心がある層が13%で、その興味・関心層のうち「是非会場で観戦してみたい」が7%であることを踏まえると、仮に福岡市だけでも、少なくとも1万人程度が、現状で、積極的な観戦意向を有していることとなる（福岡市の15-64歳人口約100万人×13%×7%≒1万人）。

また、観戦経験者は観戦意向が高いというアンケート結果もあることから、一度でも観戦に来てもらうことは、観戦客拡大の重要なポイントであるといえる。

これらについては、競技団体との連携も視野に入れて取り組むことも有効と考えられる。

さらに、飯塚市という都市自体の「楽しみ」の要素となる観光や食などの魅力について、さらなるPRのほか、新たな商品・サービスの提案を行うことが来訪の動機づけになるものと考えられる。

② まちなか（中心市街地）における新たなコンテンツづくり

アンケートによると、大会観戦時にあわせてやってみたいこととして、大会関連イベントや周辺観光へのニーズは比較的高いものとなっている。

また、大会の盛り上がりには、市民レベルでの盛り上がりが必要であるが、近年は大会関係者と市民との交流が密でなくなってきたとの課題認識もあり、イベントを通じたこれら多様な主体間の交流を活発化することは、観光誘客のみならず、大会自体の発展にも重要な要素であるといえる。

例えば、市民や事業者等が主体となった、前夜祭、後夜祭、ボランティア決起大会、グルメイベント、音楽イベントなどの参加型、体験型のイベントを開催し、多様な交流の場や機会を設けることが考えられる。

また、まちなかでの消費行動を誘導するためには、大会期間ならではの、あるいは飯塚市ならではの特別感や限定感が感じられるような、消費意欲を喚起する商品・サービス等の提供が有効と考えられる。市民や企業による、こうした商品・サービスの企画・販売への積極的、主体的な関与、継続的な利益獲得を促すことで、大会や都市の魅力がさらに高まっていくことが期待される。

③ 市内の観光スポット巡りの誘導

大会会場での観戦者を、まちなかや観光スポットに誘導し、市内を回遊してもらえるようにするためには、モデルルートなどの情報提供のほか、目的や意味をもって回遊したくなる仕組みづくりが必要である。

そのため、各観光施設の魅力の発掘・磨き上げを継続的に進めていくとともに、例えば、市内各所を巡る謎解きイベントやスタンプラリーなど、回遊行動そのものに意味や楽しさを持たせていくような取組を行うことが有効と考えられる。

④ 大会の価値と都市の価値の連動

大会を契機とした観光集客を継続的に展開していくためには、大会観戦をメインとして来訪する人、関連イベントや観光をメインとして来訪する人の双方が、それぞれ当初の期待を満たしつつ、それ以上の感動や満足度を得られるようにしていくことが必要である。そのため、大会会場のほか、まちなか、観光スポットなど市内のどこからでも、市内の回遊につながる情報を入手できたり、イベントなどに参加・体験できるよう、「コト」や「場」の可視化を積極的に進めていくことが必要である。

例えば、大会スケジュール、モデルコース、観光スポット、イベント等の情報がまとめて掲載されたチラシ・パンフレット等を作成し、市内各所で配布するほか、試合の進捗状況、交通状況、店舗営業状況等のタイムリーな情報が得られるWEBサイトを作成するなどが考えられる。

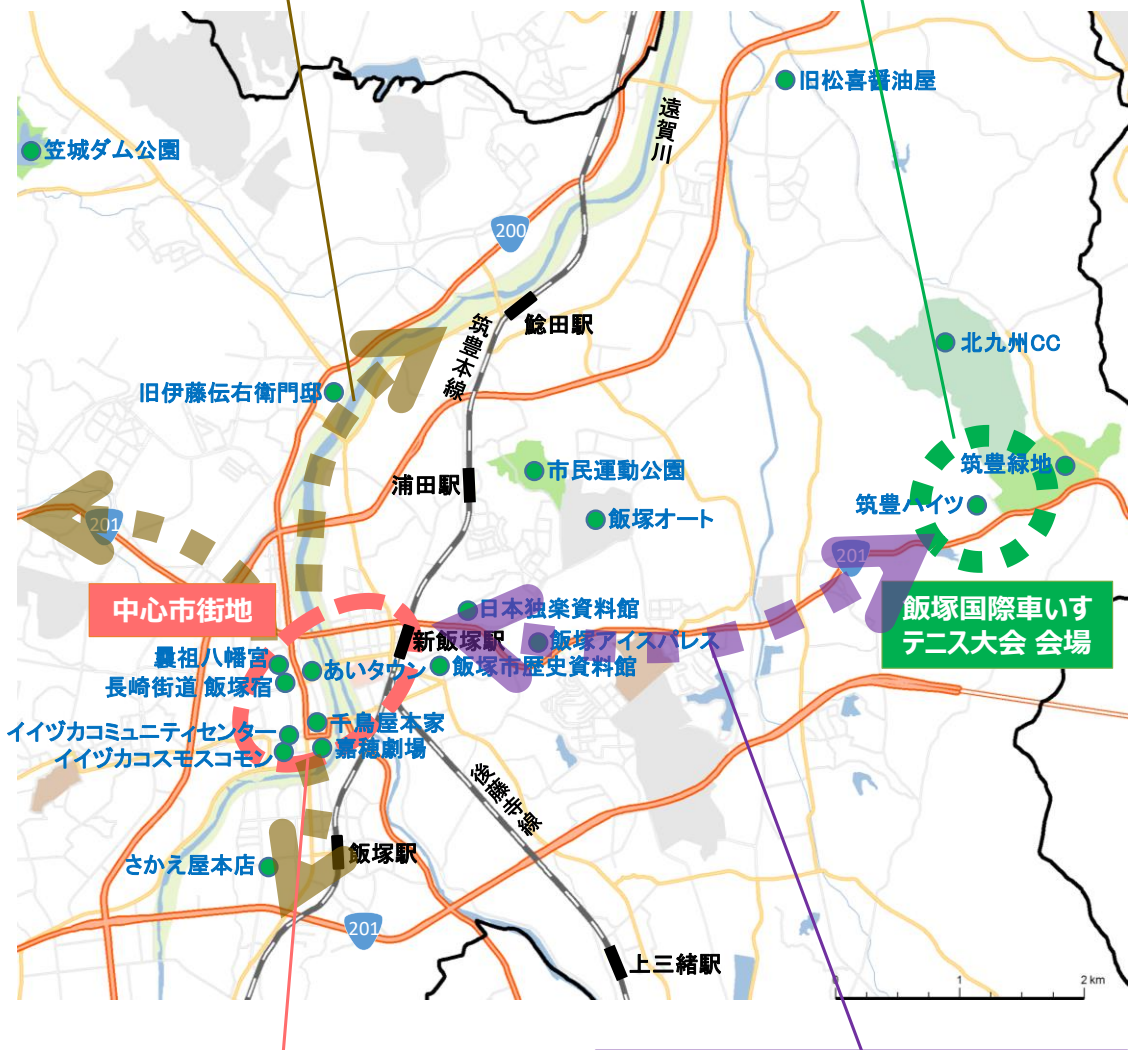
また、市内の回遊を円滑に行うためには、モビリティの確保・円滑化も必要であり、実際の人の流れ、利用交通手段の動向も見ながら、必要な対策を講じることができるような体制を構築していくことが必要と考えられる。

観光スポット巡りの誘導

- 各施設の磨き上げ
- モデルルートなどの情報提供
- ストーリー性のある「つながり」づくり
- 回遊行動に意味を持たせる仕掛け

大会と都市のPR・プロモーション

- 「車いすテニス」に対する興味・関心の喚起（対象市場の底上げ）
- 「車いすテニス」関心者に対する「大会の価値」の認知促進（観戦意識の喚起）
- 大会期間中ならでは「楽しみ」の提案（来訪決定の動機づけ）



中心市街地のコンテンツづくり

- まちなかを会場とした大会との連動イベントの企画・開催（前夜祭・後夜祭：食や音楽等による集客装置化）
- 消費行動の誘導（特別感のある商品・サービス等の提供）
- 市民・事業者等による主体的活動の企画・実施

「大会の価値」と「都市の価値」の連動

- 大会とまちなかの双方を訪れることで感動や満足度の最大化
 - 必要な情報の適切な提供
 - 訪れたいくなる仕掛け・演出（意味・目的性の提供）
- モビリティの確保・円滑化（公共交通機関利用者向け、自家用車向け）

2. 延岡市における観光・交流人口拡大方策の検討

(1) 課題と観光・交流人口拡大の方向性

① 国際スポーツ合宿の受け入れに関する観光面からの現状・課題

<ホストタウンとしての延岡市への来訪意向>

- ・ ホストタウンとしての延岡市への来訪意向は、宮崎県で15%程度となっており、ホストタウンの中では比較的来訪意向が高い都市となっている。
- ・ 延岡市のホストタウン相手国であるドイツは、ホストタウン相手国・地域の中でも比較的人気の高い国であり、延岡市への来訪意向の理由としても、ドイツへの興味を理由として挙げる人の割合が高い。

<現在のスポーツ合宿や大会を通じた集客状況>

- ・ 現状、スポーツ合宿としては、日本柔道代表チーム、ドイツ柔道代表チーム、Jリーグの春季キャンプなどを受け入れているが、公開練習が限られていることなどから、集客にはそれほどつながっていない。
- ・ スポーツ大会としては、延岡西日本マラソン、ゴールデンゲームズinのべおかなど、全国レベルのスポーツ大会が開催されており、これらは域外からも一定の集客があるが、市内の観光スポットへの広がりや消費喚起にはそれほどつながっていない。

<スポーツを通じた国際交流>

- ・ ホストタウン登録を契機として、ドイツフェスタなどのイベントのほか、語学講座なども開催されており、広く市民に認識されてきている。

<今後の課題、期待>

- ・ 対外的には工業都市としての印象が強く、観光面での訴求力は現状では高くはない。
- ・ 一方で、北浦、北川、北方など郊外部のエリアではアウトドアスポーツ等のレジャーが盛んであるほか、観光客の経由地となっているなど、今後の観光誘客につながる要素は存在している。

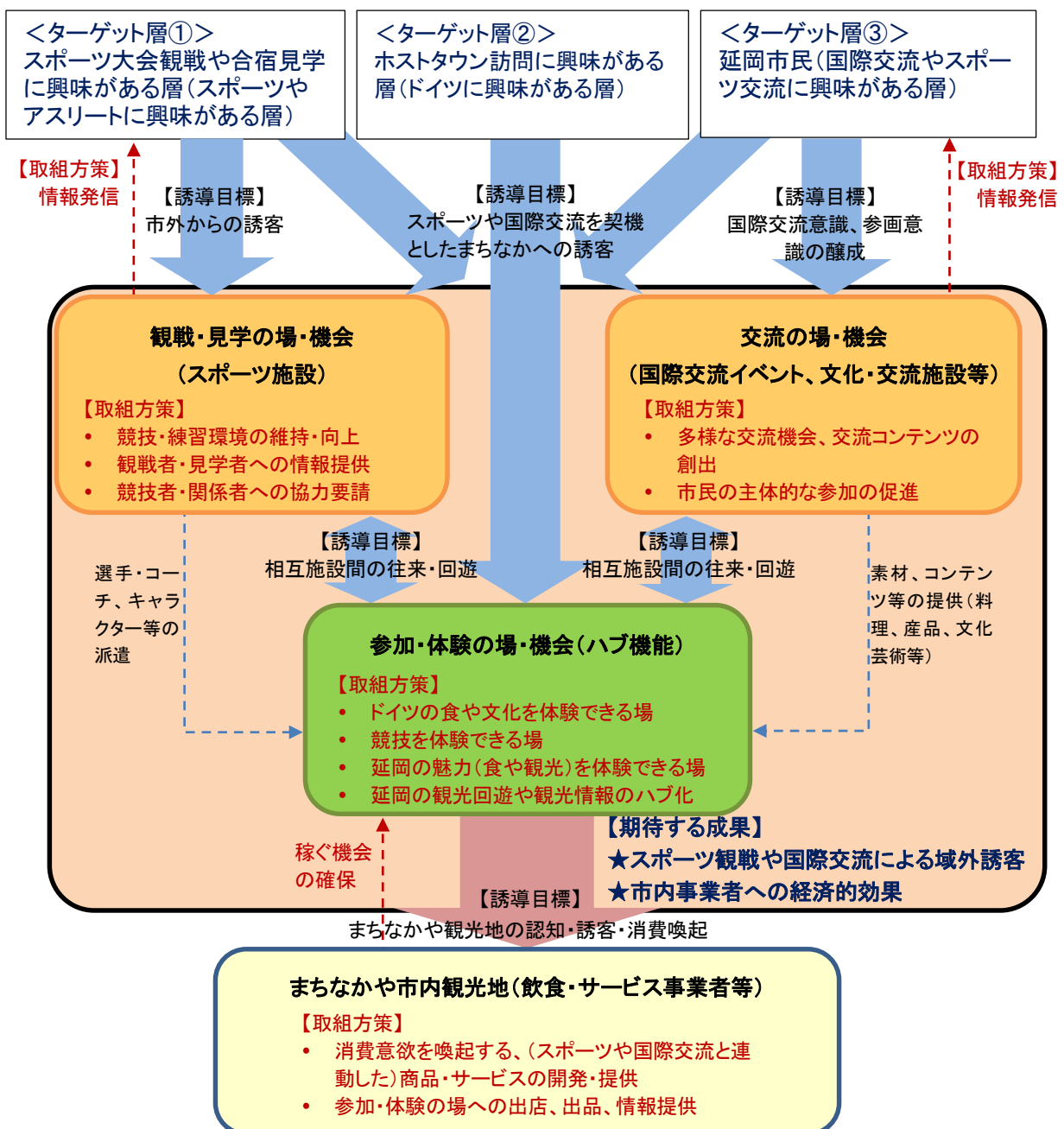
② 観光・交流人口拡大の方向性

○ドイツとの国際交流を観光資源として活用していく

- ・ ホストタウン登録やドイツ代表チーム合宿の受入実績などを背景にドイツとの国際交流が盛んになってきていることや、ドイツという国自体のコンテンツ力が高いことから、ドイツとの国際交流の要素自体を観光資源として活用していく。

○スポーツ、国際交流、都市の魅力（観光）が相互に連動・連携して体験価値を提供できるハブ機能を構築し、付加価値を高めていく

- ・ スポーツの大会や合宿だけでは、市内の観光集客や消費喚起の拡大には限界があることから、前述の国際交流のコンテンツも含めて、多様な目的の来訪者を引き付ける参加・体験の場を戦略的に創出し、新しい人の流れと都市の魅力の発信の場としていく



(2) 展開方策

① ドイツとの国際交流の観光資源としての活用

ドイツは、ホストタウン国・地域の中でも興味・関心が高い国のひとつであり、食や産品のコンテンツも比較的豊富であることから、ドイツとの国際交流の取組自体を延岡市の観光資源として活用していくことが考えられる。

延岡市では、既に一定の気運が醸成されていることから、ホストタウンとして取り組まれる、民間での取組も含めた食のイベント、文化交流イベント等について、域外へのPRも積極的に行い、市内外の参加を促進させていくことが考えられる。また、こうした交流イベント時に、来訪者をまちなかの拠点に誘導し、さらに深い体験や、それを契機とした消費を喚起していくことが考えられる。

② スポーツ大会、合宿等における集客の促進

延岡市内で開催されるスポーツ大会やスポーツ合宿について、その魅力や競技環境、練習環境の維持向上等により、引き続き集客を促進していく。

また、こうした大会や合宿時に、観戦者、見学者、あるいは関係者も含めてまちなかの拠点に誘導し、さらに深い交流や、それを契機とした消費を喚起していくことも考えられる。

③ 市街地周辺での参加・体験拠点（ハブ機能拠点）の形成

延岡市が進めているスポーツを通じた交流、国際交流などのコンテンツと、延岡市の魅力的な観光資源をより効果的に連携させ、観光集客につなげていくためには、多様な主体がこれらの交流の機会に参加し、体験できるような場を設けることが有効である。例えば、延岡市の新しい食や体験の拠点となっている「かわまち交流館」を、スポーツ、国際交流、観光、食など、延岡の集客コンテンツが集まるハブ機能拠点として、多様な目的の来訪者が多様なコンテンツに参加・体験できる場として活用していくことが考えられる。

また、現在、観光客の経由地であるもののその多くが素通りしているという現状を踏まえ、延岡駅や延岡 IC/JCT からこのハブ機能拠点への誘導を積極的に行うことも有効と考えられる。

現在は、鮎やなシーズンを中心とした利用となっているが、例えば、春季キャンプ期間、西日本マラソン大会、ゴールデンゲームズの開催期間に連動して参加・体験イベントを展開し、域外からの集客を図っていくことが考えられる。

<イベントイメージ>

- ・ドイツの食・文化体験（文化交流施設での国際交流イベントと連携）
- ・スポーツ体験（合宿中や大会参加のアスリートによる実技等）
- ・延岡の食体験（タパス）
- ・アウトドア観光体験（ロッククライミング体験、カヌー教室等）

④ ハブ機能拠点を介した、市内各所への誘客・回遊促進と消費喚起の仕組みづくり

スポーツ、国際交流、延岡の魅力等のコンテンツが集まるハブ機能拠点では、来訪者に参加・体験の場や機会を提供するだけでなく、そこから延岡市内各所のスポットへの回遊に誘導するほか、市内の観光施設利用や商品・サービス購入などの消費を喚起するようしていくことが必要である。

例えば、市内の店舗や観光事業者がかわまち交流館のイベントに出店したり、観光体験会を開催したりするなど、企業や関係者の積極的な参画を図ることで、商品・サービスの認知促進（ショーケース化）を図ることも有効と考えられる。

スポーツ大会・合宿等における集客促進

- ・大会参加者・関係者、スポーツ合宿、観戦・見学・応援などによる集客促進
- 「参加・体験の機会」の提示と体験拠点への誘導

まちなか・観光スポット等への誘客

- ・「かわまち交流館」を介した交流人口への動機づけ
- 事業者等による延岡の魅力体験機会の創出・アピールを通じた中心市街地や観光スポット、アクティビティの認知促進



「かわまち交流館」のハブ機能化

- ・交流参加者、スポーツ観客、素通り観光客などを惹きつける「参加・体験の場」づくり
- ・各所の交流テーマと連携し、都市の魅力を伝えるべくアレンジした体験価値の提供（交流機会の高付加価値化）
- ドイツフェア、ドイツVS延岡の酒対決、スポーツファンミーティング、国際アートワークショップetc.
- 民間事業者・団体等の参画による市場機会の拡大、自主的な利活用（イベント企画・開催等）の推奨

「ドイツ」との国際交流等

- ・ホストタウンとしての取組や民間施設を活用したスポーツ合宿・国際交流イベントなどへの参加促進
- より深い交流機会を提供するため、体験拠点へ誘導

V. 国際スポーツ大会などの開催を通じた観光・交流人口拡大の方策の提示

ここまでの、飯塚市及び延岡市を対象とした検討結果を踏まえ、今後、全国の地方公共団体が、国際スポーツ大会や合宿などの開催を通じた誘客促進を図っていくための方策を提示した。

① スポーツ大会開催を契機とした関連イベント等の開催・PR

- スポーツ大会への集客は、その競技の人気度や大会の性質などによってターゲット層が大きく異なり、地域として集客拡大を図っていくことが難しい面もある。そのため、大会の開催を観光集客につなげていくにあたっては、大会の開催と連動したイベント等を開催・PRし、(観戦者とは異なる層の)集客につなげていくことも考えられる。
- 例えば、スポーツ大会の関連イベント(前夜祭、後夜祭など)として、競技者・市民・観光客が参加する機会を設けることで、新たな集客につながることが期待される。
- こうした関連イベント等の開催にあたっては、市民や地元企業の主体的な参画が期待される。

② 大会と観光資源との具体的な連動・回遊の仕掛けづくり

- スポーツ大会や合宿と周辺観光を連携させようとする場合、試合や練習見学と観光施設の営業時間とが時間的にマッチしなかったり、移動や施設へのアクセスが難しいために、観光につながらない場合がある。そのため、詳細な開催スケジュール、営業時間等を考慮した具体的なモデルコースの設定や、ツアーの企画等を行うことで、集客や滞在時間の拡大を図っていくことが考えられる。
- 例えば、地域資源を活用し、大会と連動した限定商品・サービスの企画・販売を行うことで、来訪の動機づけになるとともに、新たな観光消費拡大につながることが期待される。

③ 国際交流に関する取組の観光資源としての活用

- 長期にわたり継続的に国際スポーツ大会や合宿を受け入れており、地域に国際交流の土壌が形成されている場合、こうした国際交流に関する要素を観光資源として活用していくことが考えられる。
- 地域住民向けの国際交流イベントを、域外にも積極的にPRするほか、国際交流イベントと観光イベントを一体的に開催することにより、集客拡大に加え、域内観光スポットへの誘導につながることが期待される。
- ホストタウンの住民の多くは、東京大会終了後も相手国・地域との継続的な交流を望んでおり、こうした市民意識の醸成とあわせて、国際交流を自地域の交流資源として活用していくことが有効と考えられる。

④ スポーツ、観光、国際交流等のコンテンツのハブ機能拠点の形成

- ▶ スポーツ大会観戦者の多くは、観戦だけでなく、あわせて観光やイベントへの参加を期待している。会場となるスポーツ施設をイベントや観光交流の場として活用することが難しい場合、スポーツ施設とは異なる比較的利便性の高い場所にある施設や空間を、多様な交流をつなげるハブ機能拠点として位置づけ、イベント等を積極的に展開していくことが考えられる。
- ▶ このハブ機能拠点では、地元の市民や企業の主体的な関与を図りながら、スポーツ交流、国際交流、地域の観光（食・グルメ、自然、文化等）などへの参加・体験の機会を提供することで、多様な交流効果、波及効果につながっていくことが期待される。

⑤ 競技・選手の特徴を生かした域内消費喚起の仕掛けづくり

- ▶ スポーツ・ツーリズムを通じた消費喚起にあたって、まずはスポーツの観戦客や見学者など来訪者数の増加が基本となるが、その競技の特徴に着目することで、より効果的に消費拡大につなげていくことが可能である。
- ▶ 競技自体の人気度、練習公開時間の長さ、合宿中の試合の有無、大会の会場やコース設定、選手の特徴などを適切に考慮することで、地域の実情に沿った消費喚起策を講じることが可能である。例えば、柔道合宿の場合、練習見学者の集客や消費拡大は難しいが、一回の合宿に比較的多くの選手が参加することや、選手の飲食消費量が比較的多いことから、合宿参加者をターゲットとした飲食等の消費喚起を図ることで、効果的に消費拡大につながることが期待される。また、例えばサッカー合宿では、練習時間は短いですが、練習試合が数多く行われることから、練習試合の日程を積極的に公開し、あわせて試合相手に応じた出店やイベント等を開催することで、効果的に消費拡大につながることが期待される。

2020年オリンピック・パラリンピック東京大会を通じた地域活性化についての調査研究 報告書

平成 31 年 3 月

総務省地域力創造グループ地域振興室

(業務請負機関) 株式会社価値総合研究所

東京都千代田区大手町 1 丁目 9-2

大手町フィナンシャルシティ グランキューブ 15 階
